

**「配食サービスと医療・介護との
連携のあり方に関する調査研究事業」
報告書**

平成23年3月

NPOシルバー総合研究所

はじめに

超高齢社会の加速に従って、ご夫婦のみや一人暮らしの高齢者世帯が急増することが見込まれています。2005年には、全世帯数の約17%が高齢者世帯でした。2030年には、約26%になると予想されています。実に4世帯に1世帯以上が高齢者のみ世帯ということになります。

このような近い将来のために、超高齢社会に対応した「まちづくり」が急がれます。新しい「まちづくり」は、高齢者の暮らしを基盤として計画することが必要です。「食」や「絆＝人と人とのつながり」は、重要な要素であると考えます。

本事業は、配食サービスをテーマに調査研究を行いました。配食サービスは、今後地域において、ますます大きな役割を果たして行くと考えられます。その機能強化や、地域連携のあり方を検討しました。

現在我が国で行われている配食サービスは、栄養改善が必要な高齢者に対して市区町村が提供している「地域支援事業の配食サービス」と、利用したい人が任意に契約する「民間事業者の配食サービス」に大別することができます。

「地域支援事業の配食サービス」では、安否確認も業務に含まれており、高齢者の安心や精神的な支えに繋がっています。しかし地域支援事業の配食サービスは、サービスの受給に一定の条件があり、使える人は限られています。また市の財政に左右され、財政難の昨今、利用者は減少している現状があります。

一方、「民間事業者の配食サービス」でも採算性は大きな課題ですが、地域の有償ボランティアを組織するなどして、成果を上げている例も出てきています。配食サービスは、地域で模索の段階にあると考えています。

「食」を考えると、食は毎日の糧であるだけでなく、食べることは生きる喜びであり、地域の文化でもあります。また食卓という場は、家庭の団欒であり、情報交換や健康を気遣う場であり、絆を育む場所でもあります。そのような視点でこれからの食を捉えることも忘れてはなりません。

事業実施にあたっては、奈良県、奈良市の多大な協力をいただきました。また奈良県歯科医師会、奈良県栄養士会、市民生活協同組合ならコープ様にご協力をいただきました。これら地域を支える方々の協力によって本事業を実施することができました。

最後に、アンケート調査にご協力いただいた奈良県下の配食サービス事業者、ご利用者の方々にこの場をかりて、心から感謝を申し上げます。

平成23年3月

NPOシルバー総合研究所

【研究調査体制】

(敬称略)

委員長	遠藤 英俊	国立長寿医療研究センター 内科総合診療部長
委員	正田 晨夫	奈良県歯科医師会 副会長
	砂村 幸子	奈良県栄養士会 管理栄養士
	黒田 留美子	潤和リハビリテーション診療研究所 客員研究員 管理栄養士
	高塚 克則	市民生活協同組合ならコープ 無店舗事業統括執行役員
	前川 道子	市民生活協同組合ならコープ CSR 経営管理担当(コープたすけあいの会事務局)
	小澤 美砂	奈良市介護福祉課 予防係

アドバイザー

街道 互	奈良県健康福祉部長寿社会課高齢者包括ケア推進係 係長
田中 康代	奈良県健康福祉部長寿社会課高齢者包括ケア推進係 主査

調査	阿部 崇	株式会社ニッセイ基礎研究所 社会研究部門
----	------	----------------------

調査協力

社団法人 奈良県歯科医師会
社団法人 奈良県栄養士会
市民生活協同組合ならコープ
奈良県
奈良市

事務局	桑野 康一	NPOシルバー総合研究所
	小畑 美知	NPOシルバー総合研究所
	鈴木 伸幸	NPOシルバー総合研究所
	橋本 裕子	NPOシルバー総合研究所

目次

第1章 事業の概要	7
1. 事業の目的	8
2. 事業実施の概要	9
第2章 配食サービスと医療・介護との連携のあり方に関する アンケート調査	14
I 調査概要	15
1. 事業所票	
2. 利用者票	
II 調査結果	16
III 考 察	52
第3章 今後に向けて	55
『配食サービスと医療・介護の連携について』	56
奈良県歯科医師会 副会長 正田 晨夫	
『配食サービスと医療・介護の連携についての振り返りと今後の展望』	57
奈良県栄養士会 管理栄養士 砂村 幸子	
『配食サービスと医療・介護の連携のあり方に関する調査研究事業』を通して	58
市民生活協同組合ならコープ 無店舗事業統括 執行役員 高塚 克則	
『配食サービスと医療・介護との連携のあり方に関する調査研究事業』に参加して	60
市民生活協同組合 CSR 経営管理 前川 道子	
第4章 事業の考察	61

資料編	64
配食サービスと医療・介護との連携のあり方に関するアンケート調査調査票	65
事業所票	68
利用者票	71
配食サービスと医療・介護との連携を考えるシンポジウム資料	75
リレー講座1『いつまでも　おいしく味わうために』	77
奈良県歯科医師会　副会長　奈良県立医科大学非常勤講師　正田　晨夫	
リレー講座2『高齢者ソフト食～安全でおいしい介護食～』	110
潤和リハビリテーション診療研究所　農学博士　客員研究員　黒田　留美子	
リレー講座3『高齢者配食サービスの今昔』	119
奈良県栄養士会　地域活動職域会　管理栄養士　砂村　幸子	
パネリスト報告1『ならコープ夕食宅配』	127
市民生活協同組合ならコープ　無店舗事業統括　執行役員　高塚　克則	
パネリスト報告2『社会福祉法人わたぼうしの会たんぽぽ楽食サービス』	135
配食サービスコーディネーター　家令　牧	
パネリスト報告3『食べることは生きる喜びです～配食サービスと医療・介護の連携を 考えるシンポジウム～』	144
奈良県健康福祉部長　杉田　憲英	
パネリスト報告4『配食サービスと医療・介護の連携を考える』	161
奈良市介護福祉課　課長　清水　威夫	
アンケート集計結果	174

第

1

章

事業の概要

1. 事業の目的

独居や高齢者のみ世帯が急増しており、今後配食サービスは重要な在宅サービスと位置づけられる。

配食サービスは、配食だけでなく安否確認や利用者の精神的支え等、意義ある機能を有しており、専門職との連携が進めば、地域で果たす役割はさらに大きいと考えられる。

本事業は、多様化している高齢者のライフスタイルや、高齢者を地域で支えていく「まちづくり」のための地域包括ケアを視野に入れて、配食サービスの機能や医療・介護との地域連携を検討することを目的として行った。

配食サービスについて

日本の配食サービスは、1990年代以降各地で急速に広がった。実施主体は、社会福祉協議会、NPOや商店街、各種社会福祉法人、農協等多岐に渡っている。これらは、地域の高齢者の食生活を支えるニーズを直接感じた人々によって善意ではじめられたものであり「地域密着型配食サービス」と呼ばれている。¹

現在配食サービスは、市町村が福祉施策（地域支援事業）として行っている配食サービスと、民間事業者が行っている配食サービスに分類される。それぞれ、提供する対象や実施内容が異なっている。

地域支援事業の配食は、概ね週に数回程度、1日1食、昼食として実施されている場合が多い。配食のメニューは一部糖尿病食等に対応している例もあるが、概して画一的である。地域支援事業の配食サービスはさらに、二次予防事業対象者に対し必要なアセスメントを行って介護予防事業の栄養改善として実施されるもの（介護予防事業）と、栄養改善が必要な者に配食を活用して、高齢者の状況を定期的に把握するためのもの（任意事業）に大別される。アセスメントの実施方法や内容は市町村により差異がある。いずれの場合であっても、食材料費、調理費相当分（調理師の人件費、調理に係る光熱水費など）は、利用者負担。栄養士、配達員の人件費、配達車両に係る経費、声かけなど見守りに係る費用は、地域支援事業交付金（公費）負担となっている。

一方、民間事業者が行う配食サービスでは、サービス提供者は概ね2種類に大別される。一つは、NPOやボランティア、地縁団体によるものである。高齢者自身がお弁当づくりに従事するなど高齢者の生きがいづくりの場となっているケースや、地場産品を利用した手作りのものを提供しているケースもある。もう一つは、給食事業者によるものである。メニュー、料金、配食実施日などは、事業者が独自に定め、利用者はそれぞれの条件で事業者と契約のうえ配食サービスの提供を受けている。

本事業では、市町村が行う地域支援事業の配食サービスと、民間事業者が行う配食のサービスの両者を対象とした。報告書では、「配食サービス事業者」と表記する場合は、両者の配食サービスを指しているも

¹ 高齢者生活支援研究会編 『これからの配食サービス』 かもがわ出版、2004年

のとする。それぞれの配食サービスを区別する必要がある場合は、「地域支援事業の配食サービス」、「民間事業者が行う配食サービス」と表記することとする。

2. 事業実施の概要

(1) 検討委員会の設置、開催

①委員会の設置目的

配食サービスと医療・介護との今後の連携のあり方を検討することを目的として、委員会を設置した。委員会では、事業全体の方向性の決定、アンケート調査や地域セミナーの開催内容等について検討した。

②委員会の構成

委員は、医師、歯科医師、管理栄養士、配食サービス業者、市自治体職員で構成した。またオブザーバーとして、県行政職員が参加した。委員は p4 の「研究調査体制」にて報告した。

③委員会の開催

委員会は3回開催し、下記事項について検討した。

表 1 委員会の開催

	日程	議事内容
第1回	平成 22 年 9 月 18 日	1. 事業概要の説明 2. アンケート調査について 3. シンポジウムについて 4. 次回委員会の日程について
第2回	平成 22 年 12 月 18 日	1. アンケート調査報告 2. アンケートの集計方針および考察について 3. シンポジウムについて
第3回	平成 23 年 1 月 23 日	1. アンケート調査報告と考察 2. 事業全体の振り返り 3. 報告書について

(2) 配食サービスと医療・介護との連携のあり方に関するアンケート調査

①調査目的

配食サービスと医療・介護との連携に関する考察・提言に資するべく、前提としての、配食サービス事業者を取り巻く現状・課題および利用者・利用状況の実態を把握することを目的に、両者を対象としたアンケート調査を実施した。

②調査方法

配食サービス事業者へのアンケートは、事前に調査協力可否を伺う FAX を送信し、協力可能なサービス事業者宛にアンケート票を送付した。奈良県下の 80 事業者に対し FAX にて、アンケート調査協力可否を尋ねた。16 事業者から協力可能な返答があった。

利用者へのアンケートは、事業者に予め満 75 歳以上の利用者数を伺い、事業者に人数分の調査票をまとめて送付の上、間接的に個別配布・回収した。16 事業者に対し合計で 1,295 人分を配布した。

③調査結果

事業者票 13 票（回収率 81.3% 80 事業者ベースでは 16.3%）、利用者票 534 票（回収率 41.2%）を回収した。

アンケート結果の詳細は第2章にて報告する。

(3) 食に関する地域セミナーの開催

主に配食サービス事業者を対象とした、介護食（高齢者ソフト食）の調理実習勉強会と、地域の配食サービス事業者、医療・介護の専門職、行政を対象としたシンポジウムを開催した。

i) 配食サービス事業者を対象とした介護食調理勉強会の開催

①実施目的及び対象

配食サービス事業者を対象として、介護食（高齢者ソフト食）の調理勉強会を開催した。勉強会では、嚥下機能が低下した高齢者へ食の安全と食べることの楽しみの提供を目的とした。

②開催日時

平成 22 年 12 月 18 日（土） 10:30～14:00

③開催場所

県営福祉パーク・福祉住宅体験館、奈良県介護実習・普及センター

④参加者数

30 名

⑤事業報告

講師（黒田留美子氏 潤和リハビリテーション診療研究所 主任研究員、本事業委員）により、高齢者ソフト食の講義を行った。嚥下のメカニズムや刻み食の問題点、高齢者ソフト食の特徴などについて講演いただいた。

実習では、参加者グループ毎に、肉じゃが、ロール白菜、ナスの田楽、鶏の唐揚げ、酢のもの等の調理を行った。

ii) 配食サービスと医療・介護の連携を考えるシンポジウムの開催

①実施目的及び対象

配食サービス事業に関連する専門職および一般を対象として、配食サービスを中心とした地域連携のあり方を検討する事を目的に開催した。

②開催日時

平成 23 年 1 月 23 日(日) 13:00～16:30

③開催場所

ならまちセンター

④参加者数

86 名

⑤プログラム

- | | |
|-------------|---|
| 13:00～14:30 | 食と健康に関するリレー講座
(講師) 正田晨夫(奈良県歯科医師会 副会長)
黒田留美子(潤和リハビリテーション診療研究所 客員研究員)
砂村幸子(奈良県栄養士会 管理栄養士) |
| 14:45～16:30 | 配食と医療・介護の連携に関するパネルディスカッション
(座長) 遠藤英俊(独立行政法人長寿医療研究センター内科総合診療部長)
(パネリスト) 高塚克則(市民生活協同組合ならコープ無店舗事業統括執行役員)
家令牧(たんぼぼ楽食サービス 配食コーディネーター)
杉田憲英(奈良県健康福祉部長)
清水威夫(奈良市介護福祉課 課長)
正田晨夫(奈良県歯科医師会 副会長)
黒田留美子(潤和リハビリテーション診療研究所 客員研究員)
砂村幸子(奈良県栄養士会 管理栄養士) |

⑥事業報告

高齢者の食や配食サービスに関わる専門職の取り組み報告、行政報告、配食と医療・介護の連携をテーマとしたパネルディスカッションを行った。

パネルディスカッションでは、現状配食サービス事業者は、事業者同士や他の職種との連携や情報交換の場がほとんどなく、行政が中心となった環境整備が要望された。また配食サービスの事業内容では、残食量のチェック、口腔ケア普及の必要性等が指摘された。参加した歯科衛生士より、配食時に口腔ケアに関する啓発チラシを配布してはどうか等の提案がされた。

参加者アンケートには、残食量チェックの重要性に気づいた等の意見が多く見られた。今後の課題として、配食事業者間の横の連携づくり、行政と多職種と配食サービス事業者とが意見交換できる場づくり、高齢者の意見を直接聞ける体制づくり等が上がっていた。

今後、これら課題の一つ一つに対応していくことで、高齢者の食を中心とした新しい地域づくりの推進に発展すると期待された。

配食サービス事業者を対象とした介護食調理勉強会



講義『高齢者ソフト食～安全でおいしい介護食～』



調理実習

配食サービスと医療・介護の連携を考えるシンポジウム



パネルディスカッション



パネリスト

第

2

章

配食サービスと医療・ 介護との連携のあり方に 関するアンケート調査

I 調査概要

1. 実施目的

本事業全体の目的である「配食サービスと医療・介護との連携」に関する考察・提言に資するべく、前提としての、配食サービス事業者を取り巻く現状・課題および利用者・利用状況の実態を把握することを目的に、両者を対象としたアンケート調査を実施する。

2. 実施概要

(1) 調査構成

奈良県内の配食サービス事業者およびその利用者を対象とする2部構成で書面アンケート調査を実施した。

(2) 調査方法

①事業者アンケート

事前に調査協力可否を伺うFAXを送信し、協力可能なサービス事業者宛にアンケート票を送付

【経過】 i) 80 事業者に対し FAX にて、アンケート調査協力可否を尋ねた (10 月下旬)

(併せて 75 歳以上利用者数、地域支援事業適用の有無等を尋ねた)

ii) 16 事業者から協力可能な返答あり

②利用者アンケート

事業者に予め満 75 歳以上の利用者数を伺い、事業者に人数分の調査票をまとめて送付の上、間接的に個別配布・回収

【経過】 i) 協力事業者に対して利用者アンケート票(予め知らせて頂いた人数分)を配布

ii) 16 事業者に対し合計で 1,295 人分を配布

(3) 調査期間

平成 22 年 11 月 5 日(発送)～ 11 月 22 日(事業者による投函〆切)

(4) 回答・回収状況

①事業者票 13 票 (回収率 81.3% 80 事業者ベースでは 16.3%)

②利用者票 534 票 (回収率 41.2%)

Ⅱ 調査結果

1. 事業所票

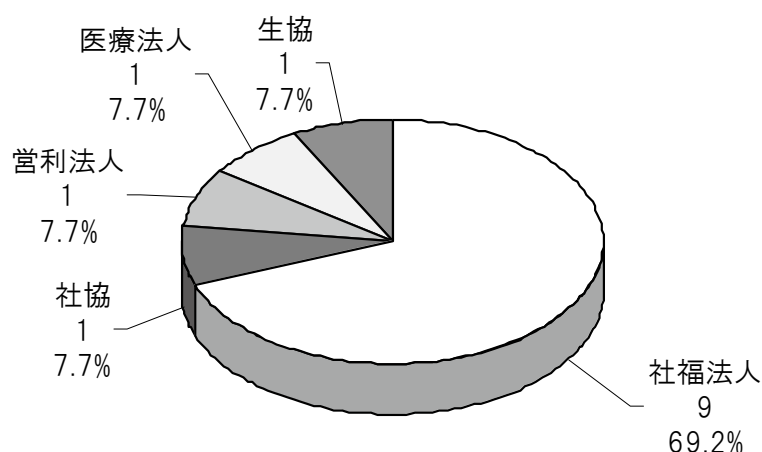
回答が得られた 13 事業者について、結果を以下に示す。

1-1 基本情報について

(1) 運営主体

13 事業者の運営主体の内訳をみると、「社会福祉法人」が 9 事業者 (69.2%) と最も多く、以下「社協 (社会福祉協議会)」、「営利法人」、「医療法人」、「生協」が 1 事業者ずつであった。

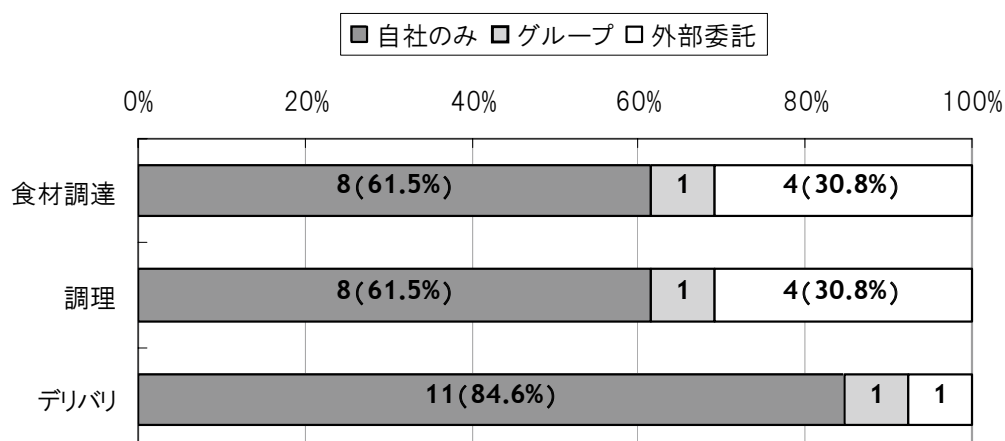
図表 1-1 運営主体



(2) 運営方法

業務内容別の運営方法では、食材料調達は、「自社のみで対応」が 8 事業者 (61.5%)、「外部委託」が 4 事業者 (30.8%)、調理は同じく、「自社のみで対応」が 8 事業者 (61.5%)、「外部委託」が 4 事業者 (30.8%) であった。デリバリについては、「自社のみで対応」が 11 事業者 (84.6%) という状況であった。

図表 1-2 運営方法



(3) スタッフの状況

スタッフの状況は事業規模によって大きく異なっていたため、各事業者の状況を図表 1-3 にそのま
ま示す。

図表 1-3 スタッフの状況

事業者	常勤者	管理栄養士	非常勤者	管理栄養士
A	—	—	—	—
B	3	1	26	1
C	5	1	7	0
D	1	0	0	0
E	3	2	12	0
F	5	1	5	0
G	1	0	0	0
H	37	1	29	0
I	3	0	17	0
J	60	0	57	0
K	2	0	1	(併設特養兼務)
L	4	1	13	0
M	3	0	2	0

(4) 提供食数と利用人数 (2010.10 実績)

2010 年 10 月の提供食数と利用人数の状況も、事業規模によって大きく異なっていたため、各事業
者の状況を図表 1-4 にそのまま示す。

図表 1-4 提供食数と利用人数の状況(2010.10 実績)

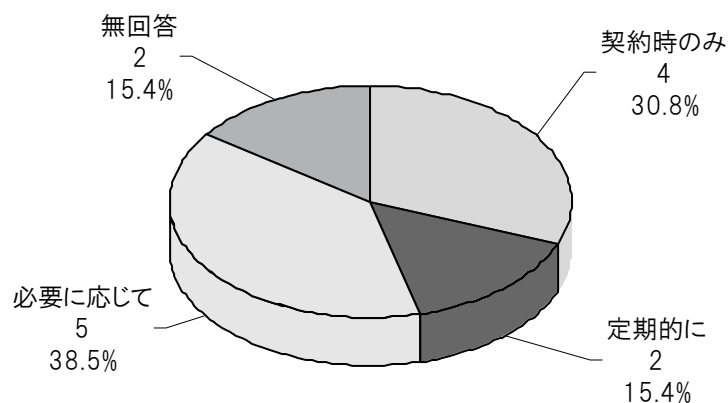
事業者	提供食数	うち おかずのみ	利用人数	うち 3食利用
A	(1 日あたり) 1178		(1 日あたり) 906	
B	2400	400	1800	
C	200	0	200	
D	47	0	10	
E	525	0	—	
F	65	0	6	
G	710	0	90	
H	444	0	34	
I	7700	4700	250	
J	172	24	15	
K	180	0	—	
L	1094	13	78	
M	87	87	—	

1-2 サービス提供について

(1) アセスメントの頻度

利用者に対するアセスメントの頻度をみると、「契約時のみ」が4事業者(30.8%)、「必要に応じて」が5事業者(38.5%)、「定期的に」が2事業者(15.4%)だった。

図表 1-5 アセスメントの頻度

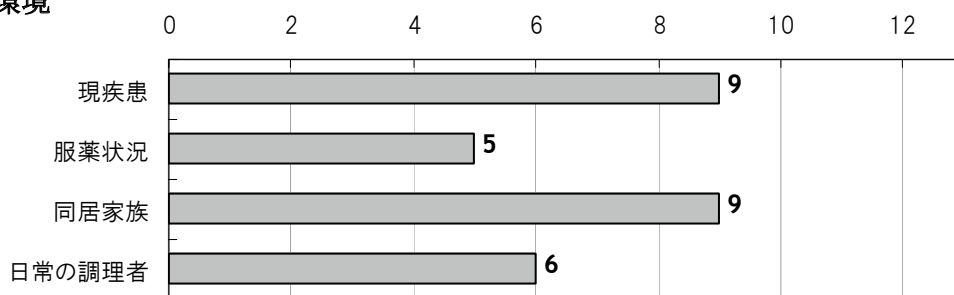


(2) アセスメントの項目

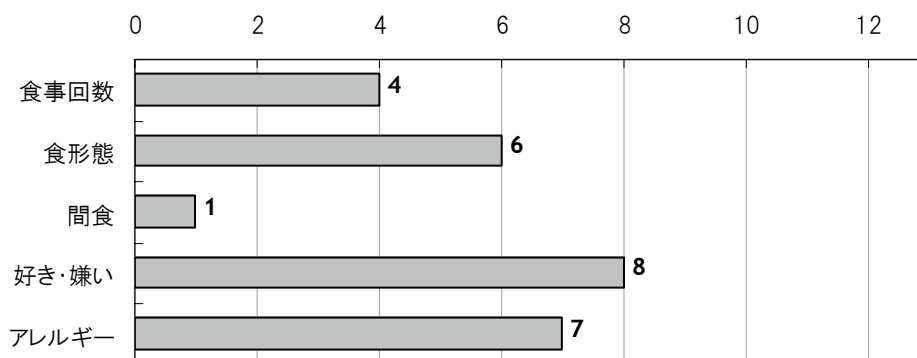
次にアセスメントでチェックする項目について、①属性・環境、②食習慣等、③栄養状態、④ケアの状況の4区分ごとにみた。①属性・環境の「現疾患」、「同居家族」、②食習慣等の「好き・嫌い」、「アレルギー」といった配食サービスに直接的にかかわる項目は回答が多かったものの、③栄養状態や④ケアの状況にある項目については、いずれも回答が少なかった。

図表 1-6 アセスメントの項目

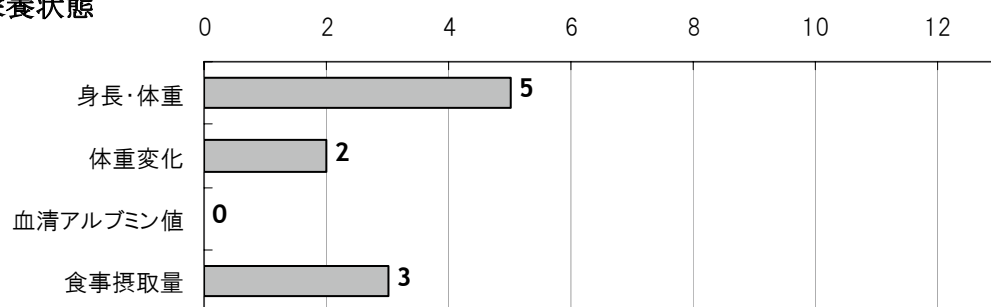
①属性・環境



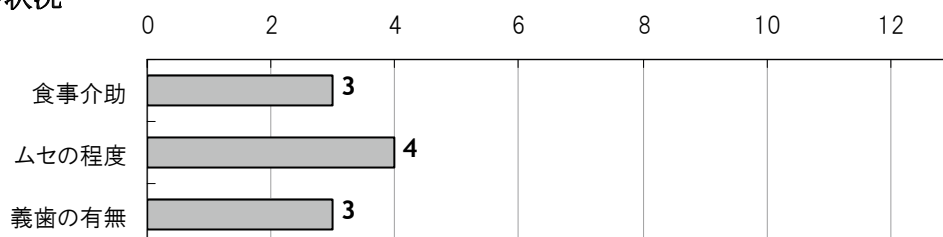
②食習慣等



③栄養状態



④ケアの状況

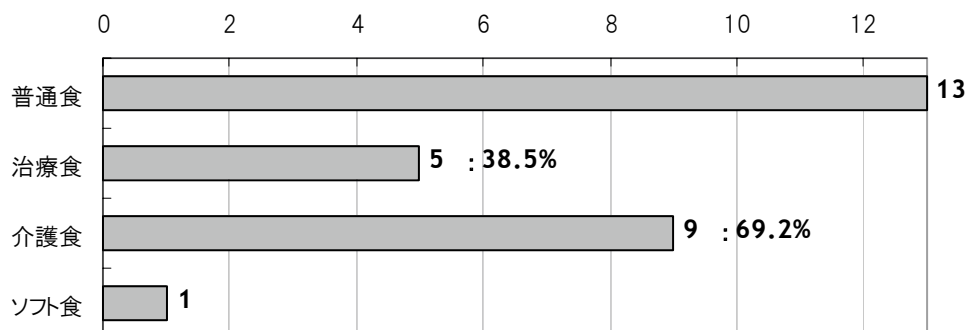


(3) 提供メニュー

続いて、提供しているメニューについてみると、「普通食」の他、「介護食」が9事業者(69.2%)、「治療食」5事業者(38.5%)、「ソフト食」1事業者であった。

治療食の具体的な内容は、心臓病食、腎臓病食、減塩食などの回答があった。

図表 1-7 提供メニュー



(4) 1食あたりの価格

通常メニューに関する1食あたりの価格をみると、昼食(N11)は平均 695.2 円(自己負担込)、自己負担額は平均で 397.9 円であった。夕食(N4)は 594.3 円、自己負担額は 494.3 円であった。

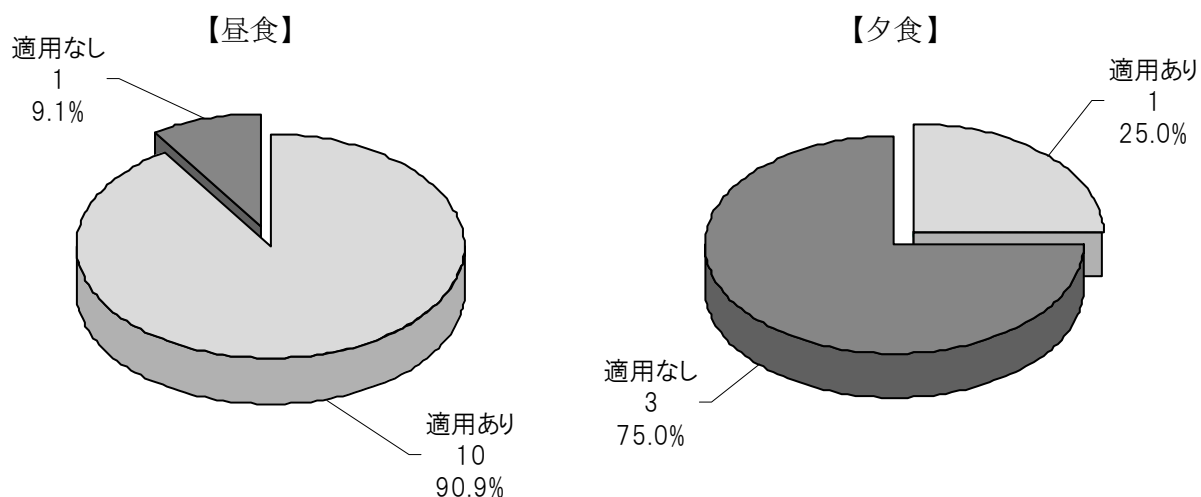
図表 1-8 1食あたりの価格

	価格(自己負担込)	自己負担額
昼食(N11)	695.2 円	397.9 円
夕食(N4)	594.3 円	494.3 円

(5) 地域支援事業の適用

地域支援事業の適用についてみると、昼食では提供している11事業者のうち「適用あり」が10事業者(90.9%)、夕食では同じく4事業者のうち1事業者(25.0%)であった。

図表 1-9 提供メニュー



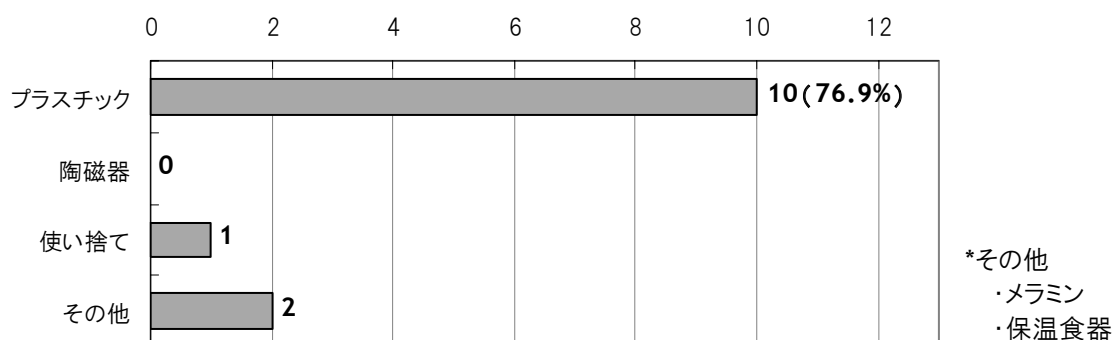
※地域支援事業適用事業者の平均価格・自己負担額

	価格(自己負担込)	自己負担額
昼食(N11)	707.0 円	380.0 円
夕食(N4)	700.0 円	400.0 円

(6) 容器

提供食の容器についてみると、「プラスチック」が10事業者(76.9%)だった。使い捨て食器を使用している事業者が1事業者あった。その他は、メラミンが1事業者、保温食器が1事業者あった。

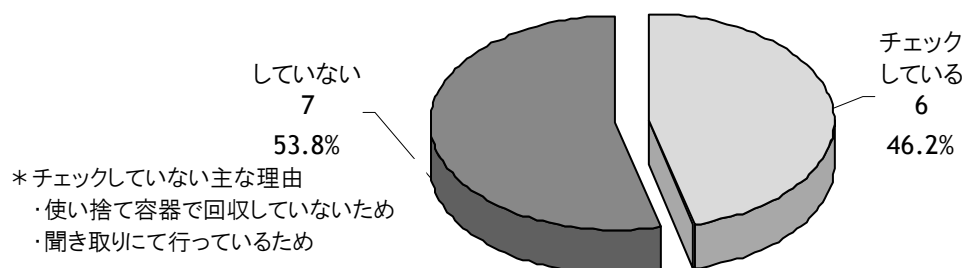
図表 1-10 提供メニュー



(7) 残食のチェック

残食のチェックについて「チェックしている」としたのは 6 事業者 (46.2%)、「していない」が 7 事業者 (53.8%) であった。

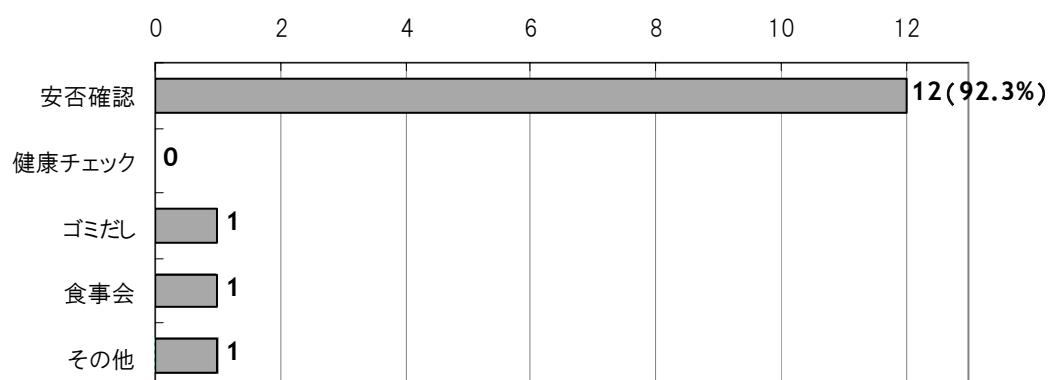
図表 1-11 残食のチェック



(8) 付随サービス

配食以外の付随サービスでは、「安否確認」が 12 事業者 (92.3%) で提供されていた。他方、「ゴミだし」、「食事会」は 1 事業者にとどまり、「健康チェック」は行われていなかった。

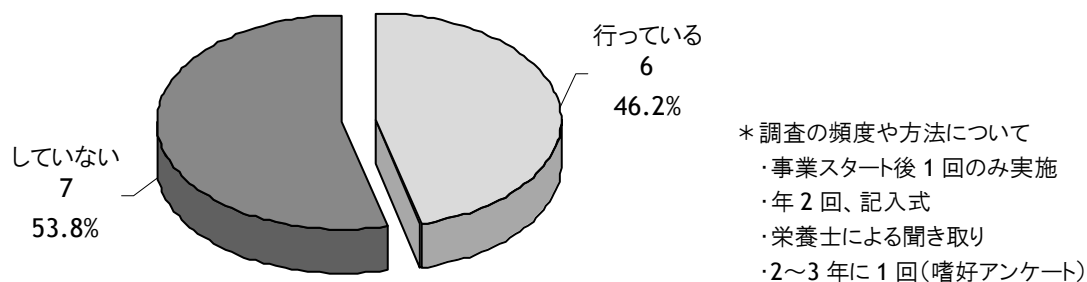
図表 1-12 付随サービス



(9) 利用者調査

アセスメントの他にニーズ等に関する利用者調査を行っているかについて、「行っている」が 6 事業者 (46.2%)、「していない」が 7 事業者 (53.8%) であった。

図表 1-13 利用者調査



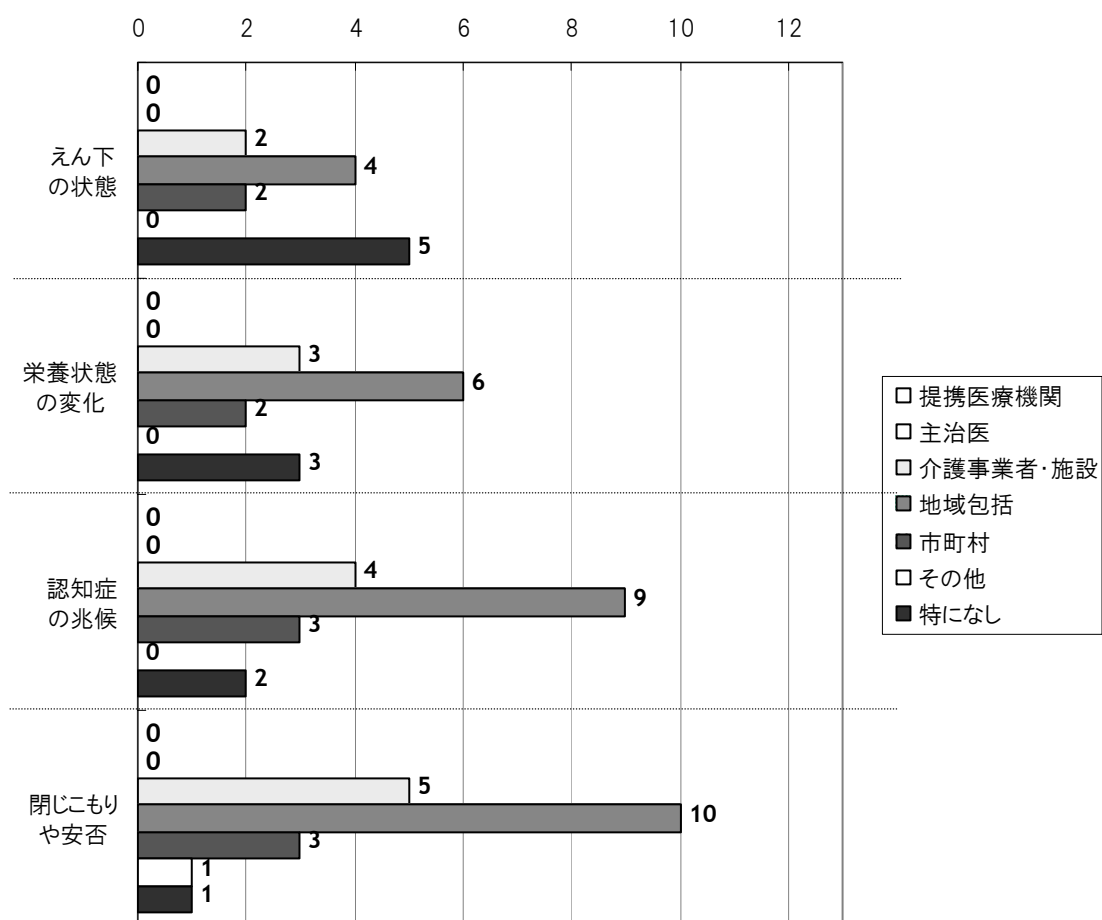
1-3 他の事業者等との連携について

(1) 連携・相談先

日常の他の事業者等との連携について、状況や課題(①えん下の状態、②栄養状態の変化、③認知症の兆候、④閉じこもりや安否)ごとに連携・相談先および具体的な内容を尋ねた。

いずれも「地域包括」を連携・相談先とする回答が多く、「閉じこもりや安否」、「認知症の兆候」ではそれぞれ10事業者、9事業者と多数を占めた。一方で、(提携の)医療機関や主治医についてはいずれも連携・相談先として挙げられていなかった。

図表 1-14 連携・相談先



【具体的な連携・相談内容】

①えん下の状態	・きざみ食等の対応(地域包括、介護事業者)
②栄養状態の変化	・残食が多かった日が続いたり、休み、やめる連絡があった場合(ケアマネ) ・日常会話を通じ、心配な点が見つかった場合(ケアマネ)
③認知症の兆候	・症状があるか、以前より進行しているような場合(地域包括、介護事業者)
④閉じこもりや安否	・状況の変化、または安否が確認できない場合(地域包括、介護事業者) ・配達時留守の場合(ケアマネ)

(2) 医療・介護との連携の必要性

医療(医師・医療関連職)・介護(サービス事業所・ケアマネジャー)との連携の必要性について、全ての事業所が「必要性を感じる」と回答した。具体的な場面や内容については、利用者の変化(緊急時を含む)についての情報共有、助言などを求めるものが多かった。

図表 1-15 医療・介護との連携の必要性

	感じる	感じない	分からない
N	13	0	0
構成割合	100.0%	0.0%	0.0%

【どのような場面やどのような内容で連携できればよいと考えるか】

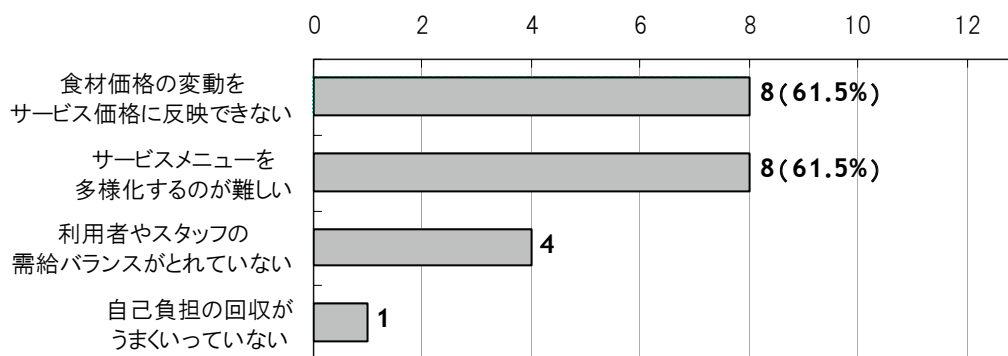
介護支援を受けられている方に対しての、食事の提供の情報 ・緊急時の連携
ご本人の状況が良くない方向に向っている場合、また、危険な状況がおこる可能性がある場合(火の気、ガス)
安否確認
不在の場合、身体状況急変時、他のサービスを必要と感じる時
健康状態の変化や生活環境の変化などあれば、相互に話し合いたい。少しの気づきが予防になると思う。
日常のささいな変化を伝える必要があるため。
配食サービスを届けた時に本人に異常があった時、各機関に連絡する。
認知症が進んだ、身体状況に変化があった、等は、連絡してお互いに情報を共有できると良い。
配達時、ヘルパーが入っていることがあるが、事業所がわからないとき、配達時の連携が取れない。市には緊急連絡先を教えてほしいと伝えているが、個人情報のこともあり教えてくれない。

1-4 課題について

(1) 配食サービスそのものに関する課題

サービス“そのもの”に関する課題としては、「食材価格の変動をサービス価格に反映できない」、
「サービスメニュー(食形態や内容)を多様化するのが難しい」がともに 8 事業者(61.5%)であった。

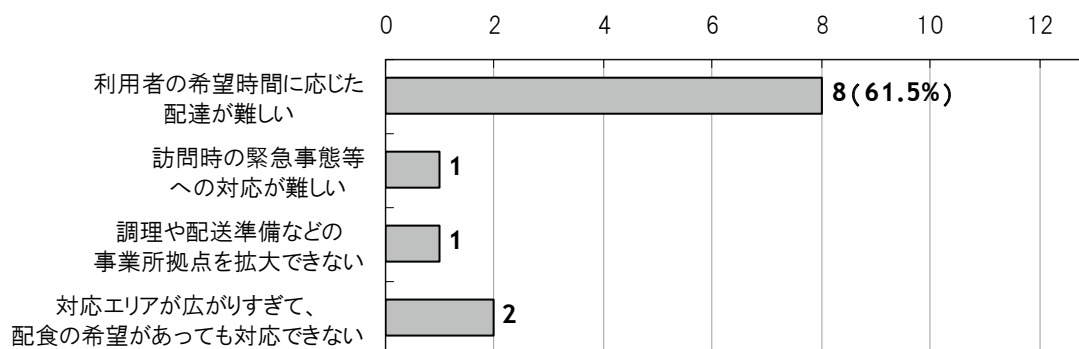
図表 1-16 配食サービスそのものに関する課題



(2) 配食サービス提供上の課題

サービス“提供上の”課題としては、「利用者の希望時間に応じた配達が難しい」が 8 事業者 (61.5%) であった。「訪問時の緊急事態等への対応が難しい」はわずか 1 事業者にとどまった。

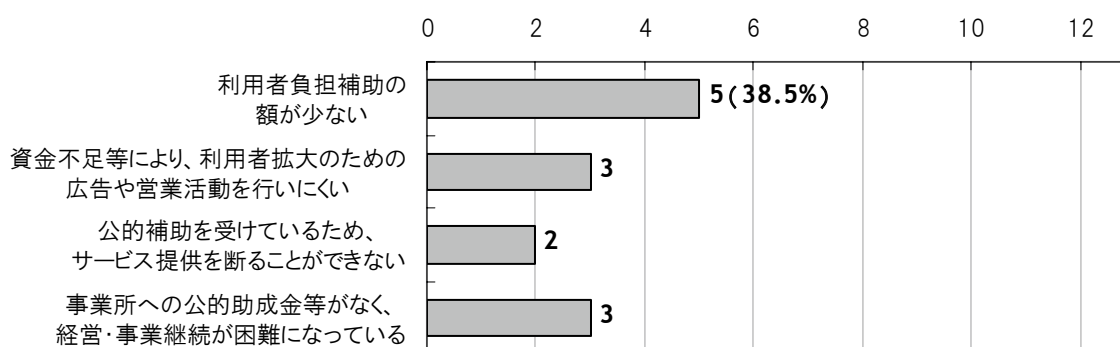
図表 1-16 配食サービス提供上の課題



(3) 公的制度等に関する課題

“公的制度等”に関する課題では、「利用者負担補助の額が少ない」が 5 事業者 (38.5%) であった。

図表 1-16 配食サービス提供上の課題



(4) その他 自由意見

医療や介護との連携に関する自由意見では、配食サービスと地域連携・ネットワーク作りの重要性等の記述があった。

地域からの安否確認の要請はあるものの、単独での実行には限界もあり、地域包括支援センターや民生委員、自治会も含めた地域ネットワークづくりの構築も必要

安否確認とコミュニケーションが重要である。地域の民生委員さんとのつながりも大切。

利用者が転倒をしていたことがあり、社協やケアマネへの連絡ルートの確立が不十分であったため、医療機関までの時間にロスが目立っていた。利用者の実態を配食担当者が把握し、迅速に対応するすべを持つべきだと感じる

市の財政難から公的制度が利用できる人が年々少なくなっている。利用するには市が独自で決めた条件が厳しくなっているのが原因である。条件にあてはまらない人は直接本人との契約で配達しているが、多くの人が安否確認や認知が入っているの見守りなど、包括に関わる必要があるのではと思う人が多い

2. 利用者票

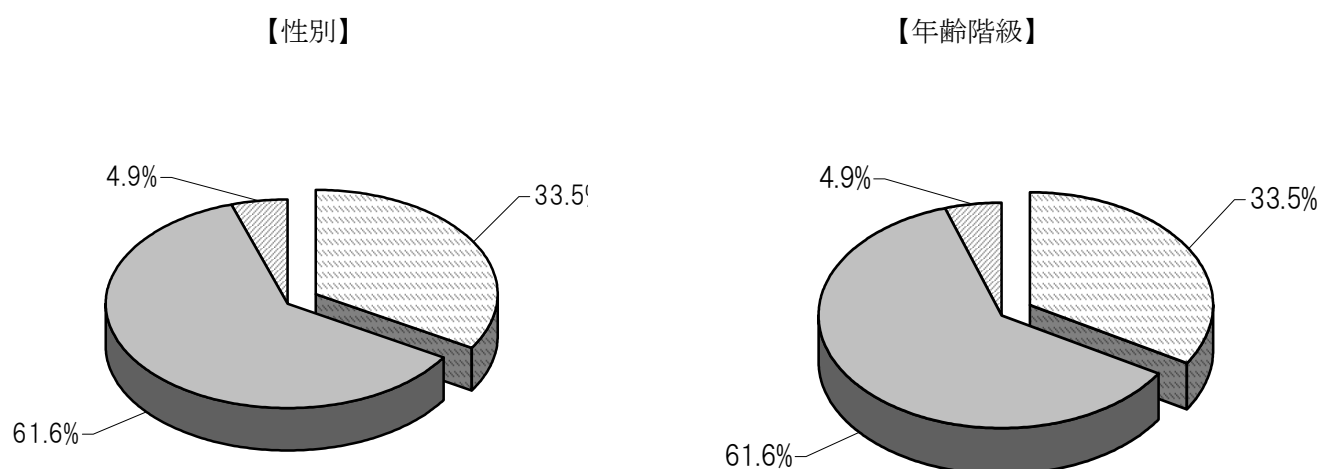
回答が得られた利用者 543 人(13 事業者)について、結果を以下に示す。

2-1 基本属性(ご自身のこと)

(1) 性別・年齢階級

利用者の性別は「男性」が 179 人(33.5%)、「女性」が 329 人(61.6%)であった。年齢階級では、「80～84 歳」が 183 人(34.3%)と最も多く、次いで「85～89 歳」が 127 人(23.8%)、「75～79 歳」が 111 人(20.8%)であった。年齢階級別の男女構成割は図表 2-1-2 の通りであった。

図表 2-1-1 性別・年齢階級(1) (N534)



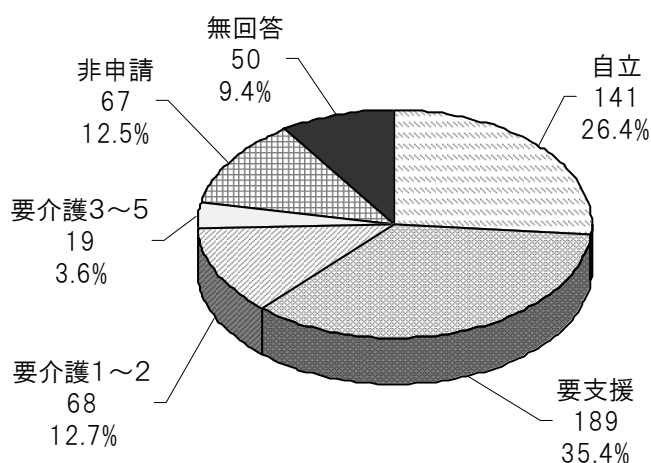
図表 2-1-2 性別・年齢階級(2) (N534)

			合計	男性	女性	無回答
全体		N	534	179	329	26
		%	100.0	33.5	61.6	4.9
年 齢	75 歳未満	N	38	16	22	0
		%	100.0	42.1	57.9	0.0
	75 歳～79 歳	N	111	32	78	1
		%	100.0	28.8	70.3	0.9
	80 歳～84 歳	N	183	62	119	2
		%	100.0	33.9	65.0	1.1
	85 歳～89 歳	N	127	53	73	1
		%	100.0	41.7	57.5	0.8
	90 歳以上	N	36	13	23	0
		%	100.0	36.1	63.9	0.0

(2) 要介護度

利用者の要介護度(要介護状態区分)をみると、認定を受けている人(「要支援」～「要介護 5」)が 276 人(51.7%)と約半数で、うち、「要支援」は 189 人(35.4%)、「要介護 1・2」の軽度者が 68 人(12.7%)、「要介護 3～5」の重度者は 19 人(3.6%)であった。また、「自立」は全体の約 4 分の 1 にあたる 141 人(26.4%)であった。なお、要介護状態区分の詳細は図表 2-2-2 の通りである。

図表 2-2-1 要介護度 (N534)



図表 2-2-2 要介護状態区分詳細 (N276)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
N	105	84	44	24	10	4	5
全体に占める割合	19.7	15.7	8.2	4.5	1.9	0.7	0.9

(3) 居住地域

回答者の居住地域をみると、「北部(奈良市、生駒市、大和郡山市等)」が 248 人(46.4%)と最も多く、以下、「東部(櫻井市、宇陀市等)」100 人(18.7%)、「西部(平群町、斑鳩町等)」71 人(13.3%)、「中部(大和高田市、橿原市等)」65 人(12.2%)の順であった。「南東部」「南西部」は回答が得られなかった。

図表 2-3 居住地域 (N534)

		合計	北部	西部	中部	東部	南東部	南西部	無回答
全体	N	534	248	71	65	100	0	0	50
	%	100.0	46.4	13.3	12.2	18.7	0.0	0.0	9.4

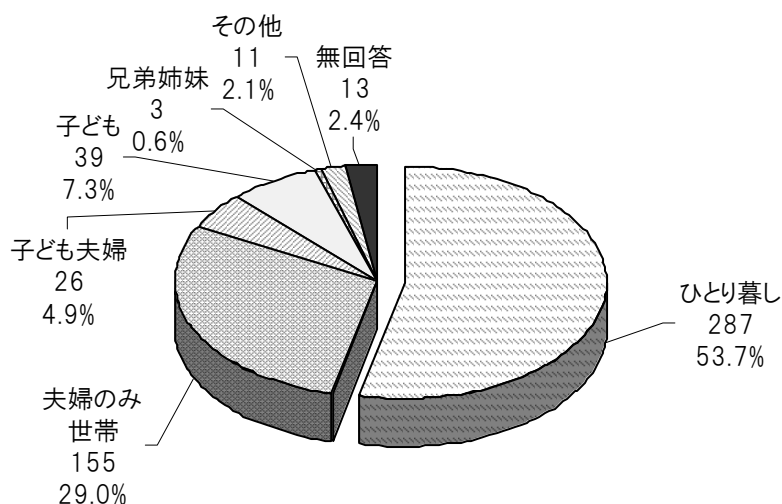
(参考)

地域支援事業	適用なし	N	280	162	19	54	16	0	0	29
		%	100.0	57.9	6.8	19.3	5.7	0.0	0.0	10.4
	適用あり	N	254	86	52	11	84	0	0	21
		%	100.0	33.9	20.5	4.3	33.1	0.0	0.0	8.3

(4) 世帯構成

利用者の世帯構成をみると、「ひとり暮らし」が 287 人 (53.7%) と過半数を占め、次いで、「夫婦のみ世帯」が 155 人 (29.9%)、「子ども(と同居)」39 人 (7.3%)、「子ども夫婦(と同居)」26 人 (4.9%) の順であった。「ひとり暮らし」と「夫婦のみ世帯」で全体の 8 割以上を占めていた。

図表 2-4 世帯構成 (N534)



(5) 受給年金種類

受給年金種類をみると、「厚生年金」が 227 人 (42.5%) と最も多く、次いで「遺族年金」99 人 (18.5%)、「老齢福祉年金」86 人 (16.1%) という状況であった。

図表 2-5 受給年金種類 (N534)

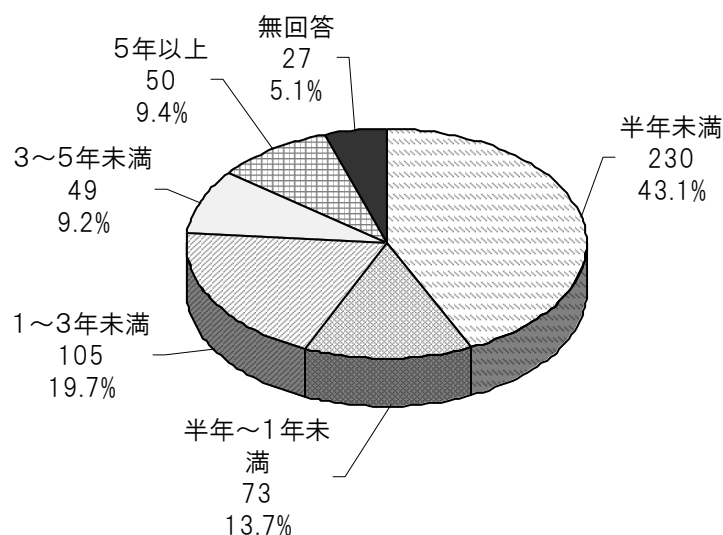
		合計	老齢福祉年金	遺族年金	厚生年金	その他	無回答
全体	N	534	86	99	227	70	52
	%	100.0	16.1	18.5	42.5	13.1	9.7

2-2 配食サービスの利用

(1) 利用期間

配食サービスの利用状況について、まず利用期間をみると、「半年未満」が 230 人(43.1%)と最も多く、次いで「1～3 年未満」が 105 人(19.7%)、「半年～1 年未満」が 73 人(13.7%)であった。6 割近い利用者が利用期間 1 年未満であった。

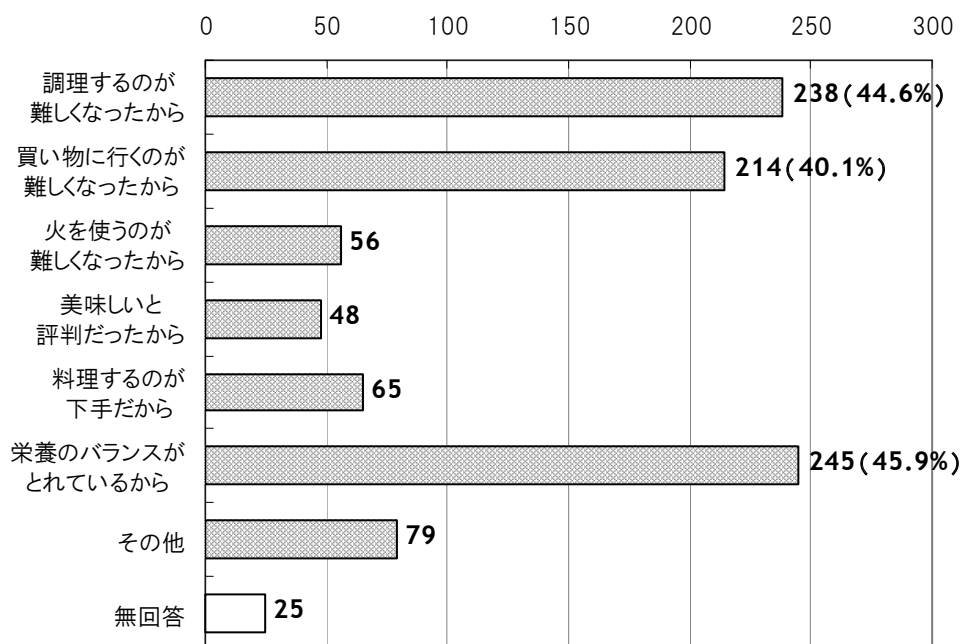
図表 2-6 利用期間 (N534)



(2) 利用したきっかけ(複数回答)

続いて、利用したきっかけをみると、「栄養のバランスが取れているから」が 245 人(45.9%)、「調理するのが難しくなったから」が 238 人(44.6%)、「買い物に行くのが難しくなったから」が 214 人(40.1%)であった。

図表 2-7 利用のきっかけ (N534)



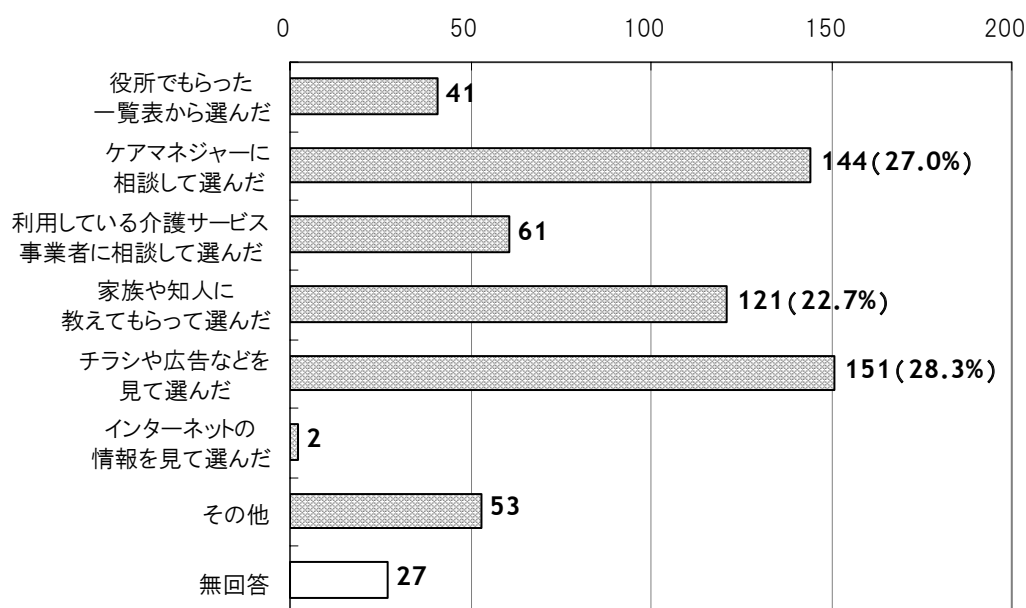
さらにこれを性別にみると、「調理するのが難しくなったから」、「買い物に行くのが難しくなったから」については、女性が回答した割合が高かった。買い物～調理～食事の一連の生活についてのこれまでの関わり方の違いが、配食サービスの利用のきっかけに影響を与えていることが示唆された。

		合計	調理が 困難	買い物 が困難	火使用 が困難	美味しい と評判	料理が 下手	栄養の バランス	その他	無回答
男性	N	179	65	53	9	15	33	77	33	8
	%	100.0	36.3	29.6	5.0	8.4	18.4	43.0	18.4	4.5
女性	N	329	163	151	44	32	30	160	45	7
	%	100.0	49.5	45.9	13.4	9.7	9.1	48.6	13.7	2.1

(3) 現在の事業者を選んだ理由 (複数回答)

現在の事業者を選んだ理由としては、「チラシや広告などを見て選んだ」が 151 人(28.3%)と最も多く、次いで「ケアマネジャーに相談して選んだ」が 144 人(27.0%)、「家族や知人に教えてもらって選んだ」が 121 人(22.7%)であった。

図表 2-8 現在の事業者を選んだ理由 (N534)



これを、利用する事業者の地域支援事業適用の有無別にみると、適用ある事業者の利用者は、「役所の一覧表から」や「ケアマネジャーに相談して」、「利用している介護サービス事業者に相談して」の理由が適用ない事業者の利用者に比べて高くなっていた。

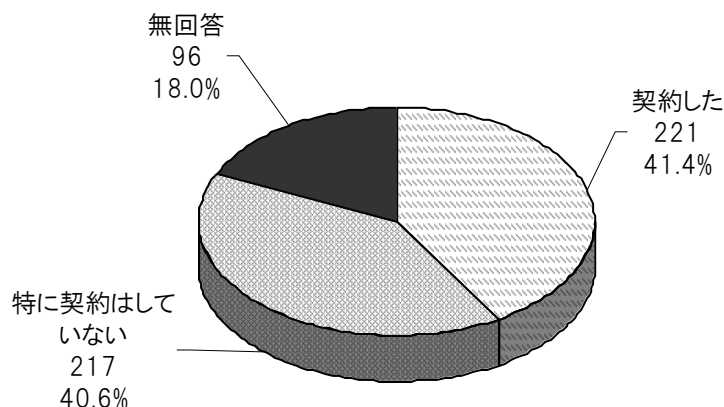
		合計	役所の 一覧表	ケアマネ ジャー	介護事 業者	家族や 知人	チラシや 広告	インター ネット	その他	無回答
適用あり	N	280	34	110	51	55	6	0	21	15
	%	100.0	13.4	43.3	20.1	21.7	2.4	0.0	8.3	5.9
適用なし	N	254	7	34	10	66	145	2	32	12
	%	100.0	2.5	12.1	3.6	23.6	51.8	0.7	11.4	4.3

(4) 配食サービスの内容

① 契約の状況 (契約書の有無)

利用し始めるときの契約の状況をみると、「契約した」は 221 人 (41.4%)、「特に契約はしていない」が 217 人 (40.6%) とほぼ半々であった。

図表 2-8 現在の事業者を選んだ理由 (N534)



② 1 週間の利用回数

1 週間のサービス利用回数を昼食、夕食に分けてみると、昼食では「2 回」71 人 (13.3%)、「5 回」68 人 (12.7%) の順に多く、夕食では「5 回」193 人 (36.1%)、「1 回」76 人 (14.2%) の順であった。なお、「毎日」利用していたのは、昼食では 11 人 (2.1%)、夕食では 28 人 (5.2%) であった。

図表 2-9 1 週間の利用回数 (N534)

【昼食】

		合計	1回	2回	3回	4回	5回	6回	毎日	無回答
全体	N	534	29	71	24	13	68	2	11	316
	%	100.0	5.4	13.3	4.5	2.4	12.7	0.4	2.1	59.2

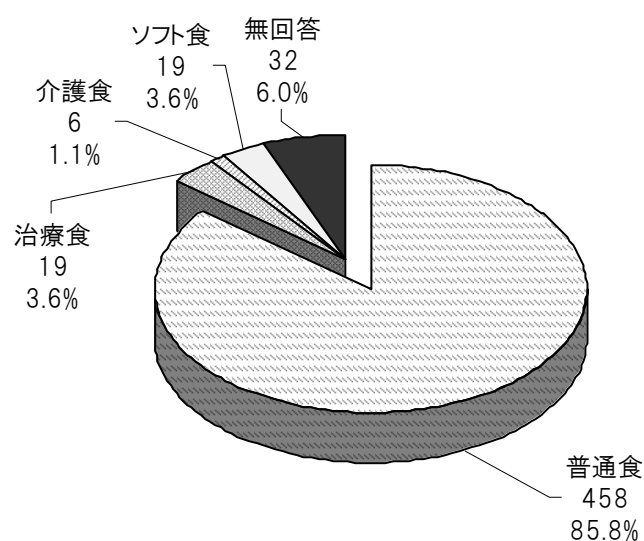
【夕食】

		合計	1回	2回	3回	4回	5回	6回	毎日	無回答
全体	N	534	76	1	7	13	193	5	28	211
	%	100.0	14.2	0.2	1.3	2.4	36.1	0.9	5.2	39.5

③ 食事内容

続いて、食事内容をみると、利用している事業者の提供状況にも影響を受けるが、「普通食」が 458 人 (85.8%) とほとんどを占め、次いで「治療食」、「ソフト食」がそれぞれ 19 人 (3.6%)、「介護食」は 6 人 (1.1%) であった。

図表 2-10 食事内容 (N534)



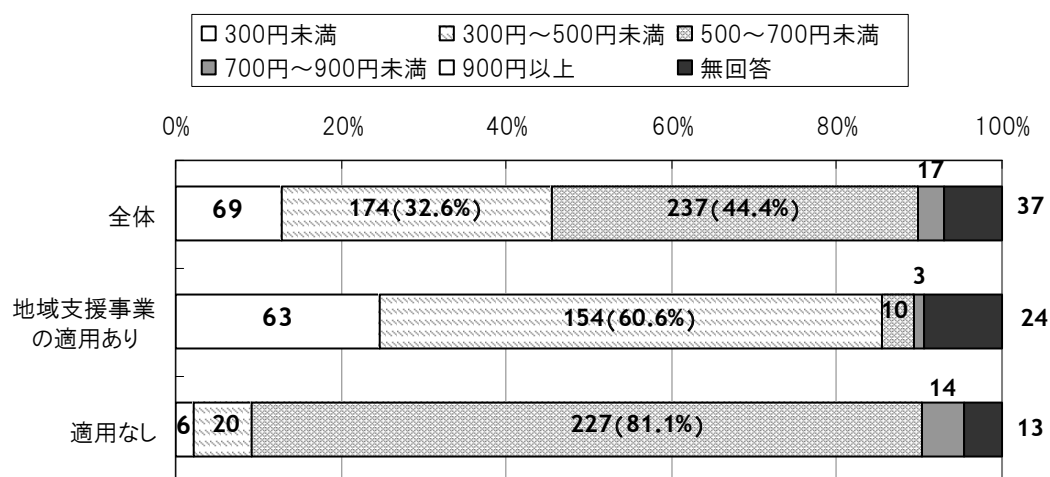
これを要介護度別にみると、「治療食」、「介護食」については、重度者(要介護 3～5)で割合が高くなり、逆に、「ソフト食」では自立、要支援で割合が高くなっていた。今後、在宅の重度者の増加が予想される中で、利用される提供メニューの構成割合も変る可能性が示唆された。

		合計	普通食	治療食	介護食	ソフト食	無回答
自立	N	141	126	1	0	6	8
	%	100.0	89.4	0.7	0.0	4.3	5.7
要支援	N	189	167	4	2	9	7
	%	100.0	88.4	2.1	1.1	4.8	3.7
要介護 1～2	N	68	57	5	2	1	3
	%	100.0	83.8	7.4	2.9	1.5	4.4
要介護 3～5	N	19	15	2	1	0	1
	%	100.0	78.9	10.5	5.3	0.0	5.3
非申請	N	67	56	3	0	3	5
	%	100.0	83.6	4.5	0.0	4.5	7.5

④1 食あたりの利用料(実負担額)

1 食あたりの利用料をみると、全体では「500～700 円未満」が 237 人(44.4%)と最も多く、次に「300～500 円未満」が 174 人(32.6%)となった。地域支援事業の適用の有無別では、利用料の負担の差が端的に現れる結果となった。

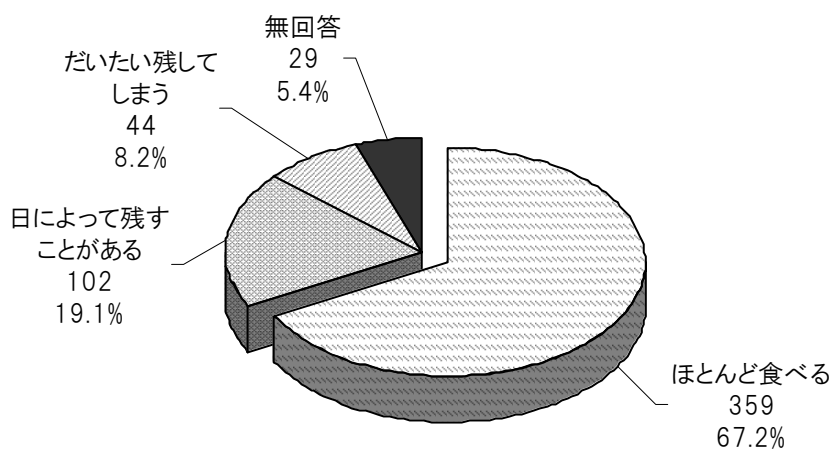
図表 2-11 1食あたりの利用料（N534）



(5) 食事量(どれくらい食べますか)

配食サービスについての食事量をみると、「ほとんど食べる」が 359 人(67.2%)と3分の2を占め、以下、「日によって残すことがある」が 102 人(19.1%)、「だいたい残してしまう」が 44 人(8.2%)であった。

図表 2-12 食事量（N534）



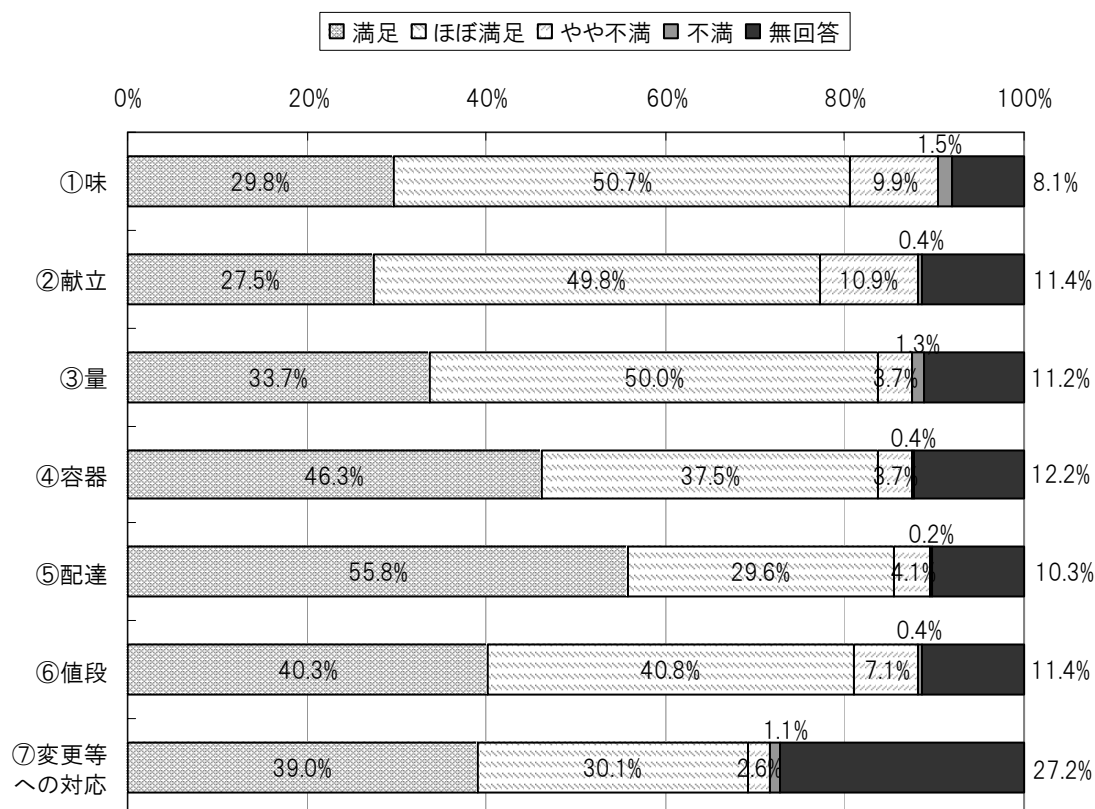
「だいたい残してしまう」44 人の残す一番の理由(記述回答)では、「一度には量が多い」とするものが多く、他は「味」や「好み」を理由とした回答があった。

(6) サービスの満足度

配食サービスに関する満足度を①味、②献立、③量、④容器、⑤配達(時間や対応)、⑥値段、⑦変更等への対応、の項目ごとにみると、いずれの項目でも「満足」、「ほぼ満足」とした回答 8 割程度を占め、概ね満足度が高い状況がうかがえた。

「やや不満」とした割合が多かったものは、①味(9.9%)、②献立(10.9%)、⑥値段(7.1%)であった。

図表 2-13 サービスの満足度 (N534)



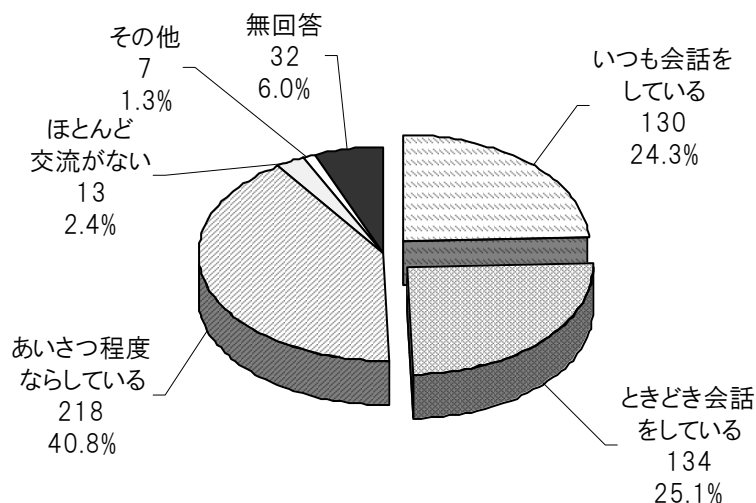
⑥値段について、利用する事業者の地域支援事業適用の有無別にみると、適用ある事業者の利用者は過半数が「満足」133 人(52.4%)とする一方で、適用ない事業者の利用者では「やや満足」とした回答にピークがみられた(「やや不満」32 人(11.4%))。

			合計	満足	ほぼ満足	やや不満	不満	無回答
全体	N		534	215	218	38	2	61
	%		100.0	40.3	40.8	7.1	0.4	11.4
地域支援	適用あり	N	254	133	76	6	0	39
		%	100.0	52.4	29.9	2.4	0.0	15.4
	適用なし	N	280	82	142	32	2	22
		%	100.0	29.3	50.7	11.4	0.7	7.9

(7) 配達担当者との交流・コミュニケーション

配達時の担当者との交流やコミュニケーションの状況をみると、「あいさつ程度ならしている」が 218 人(40.8%)と最も多く、次いで、「ときどき会話をしている」が 134 人(25.1%)、「いつも会話をしている」が 130 人(24.3%)と拮抗していた。「ほとんど交流がない」は僅か 2.4%にとどまっていた。

図表 2-14 交流・コミュニケーション (N534)



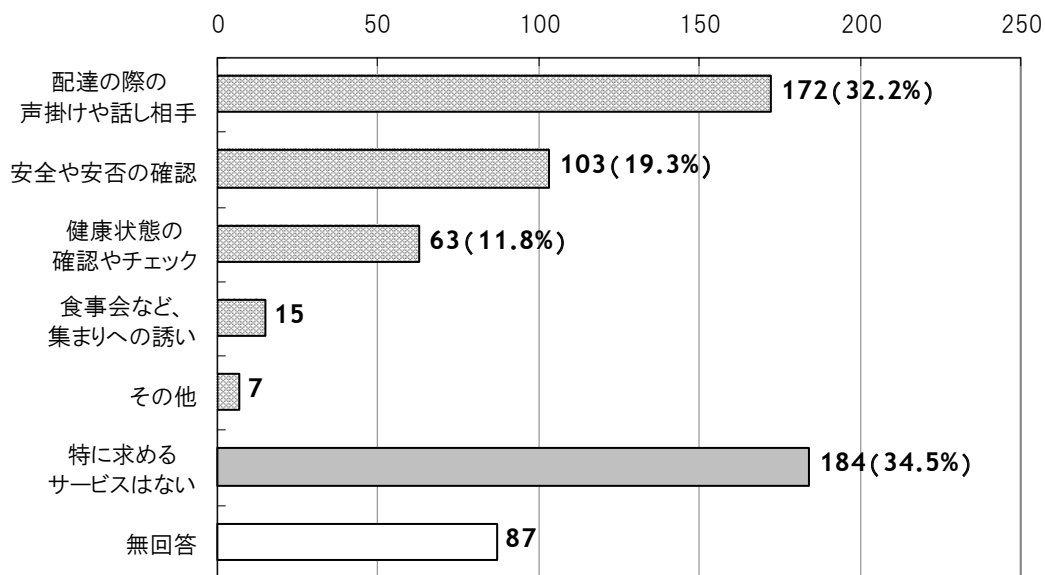
これを、世帯構成別にみると、ひとり暮らし、夫婦のみで「いつも会話」「ときどき会話」の合計が過半数となっているものの、ひとり暮らしでは、「あいさつ程度」とした回答が子ども夫婦・子どもと同居を上回っていた。子ども夫婦・子どもと同居では「ほとんど交流ない」場合も 9.2%あった。

		合計	いつも 会話	ときどき 会話	あいさつ 程度	ほとんど 交流ない	その他	無回答
ひとり暮らし	N	287	69	75	124	0	1	18
	%	100.0	24.0	26.1	43.2	0.0	0.3	6.3
夫婦のみ	N	155	44	37	56	5	5	8
	%	100.0	28.4	23.9	36.1	3.2	3.2	5.2
子ども夫婦・ 子どもと同居	N	65	12	18	27	6	1	1
	%	100.0	18.5	27.7	41.5	9.2	1.5	1.5

(8) 食事以外に求めるサービス(複数回答)

食事以外に求めるサービスをみると、「配達の際の声掛けや話し相手」が 172 人(32.2%)と最も多く、次いで「安全や安否の確認」が 103 人(19.3%)、「健康状態の確認やチェック」が 63 人(11.8%)という状況であった。他方、「特に求めるサービスはない」とする回答も 184 人(34.5%)と多かった。(

図表 2-15 食事以外に求めるサービス (N534)



これを、世帯構成別にみると、ひとり暮らし、夫婦のみでは「声掛けや話し相手」がそれぞれ 3 分の 1 を占め、ひとり暮らしでは特に「安全や安否の確認」とした回答が多かった。

また、「特に求めるサービスはない」とした回答は子ども夫婦・子どもと同居が約 5 割となっており、全体の回答もこの部分が引き上げていた点が見えてきた。

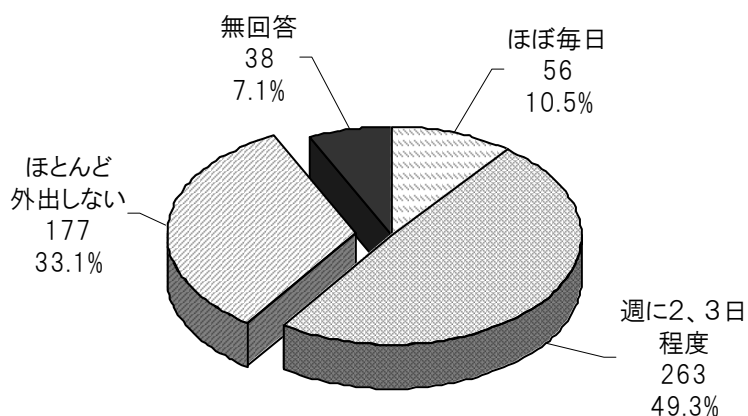
		合計	声掛けや話し相手	安全や安否の確認	健康状態確認やチェック	集まりへの誘い	その他	特に求めるサービスはない	無回答
ひとり暮らし	N	287	97	71	39	12	5	79	53
	%	100.0	33.8	24.7	13.6	4.2	1.7	27.5	18.5
夫婦のみ	N	155	51	23	16	1	2	61	22
	%	100.0	32.9	14.8	10.3	0.6	1.3	39.4	14.2
子ども夫婦・子どもと同居	N	65	15	7	7	1	0	32	7
	%	100.0	23.1	10.8	10.8	1.5	0.0	49.2	10.8

2-3 日常生活(外出や介護サービス利用など)

(1) 1 週間の外出機会

1 週間あたりの外出の機会について、「週に 2、3 日程度」が 263 人(49.3%)と約 5 割を占めた一方で、「ほとんど外出しない」とした回答も 177 人(33.1%)と 3 分の 1 に上った。

図表 3-1 1 週間あたりの外出機会 (N534)

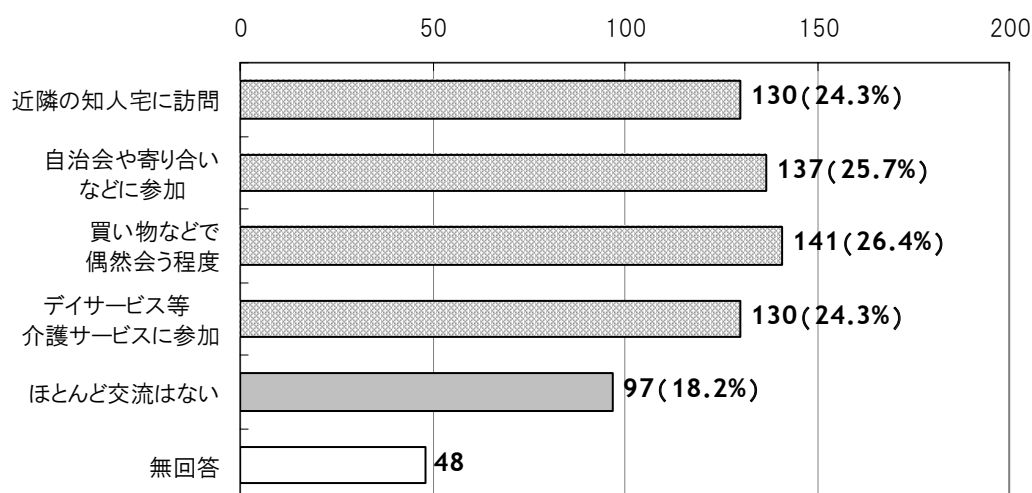


(2) 家族以外との交流(複数回答)

家族以外との交流についてみると、「買い物などで偶然会う程度」が 141 人(26.4%)と最も多く、次いで「自治会や寄り合いなどに参加」が 137 人(25.7%)、「デイサービス等介護サービスに参加」、「近隣の知人宅に訪問」がともに 130 人(24.3%)という状況であった。

一方で、「ほとんど交流はない」とした回答も 97 人(18.2%)と 2 割近くになった。

図表 3-2 家族以外との交流 (N534)



これを、世帯構成別にみると、ひとり暮らしでは「知人宅に訪問」「自治会や寄り合い」がともに 78 人(27.2%)と夫婦のみのそれに比べて高い割合を示していた。また、「ほとんど交流ない」の割合は 16.4%と他の世帯構成に比べ低かった。

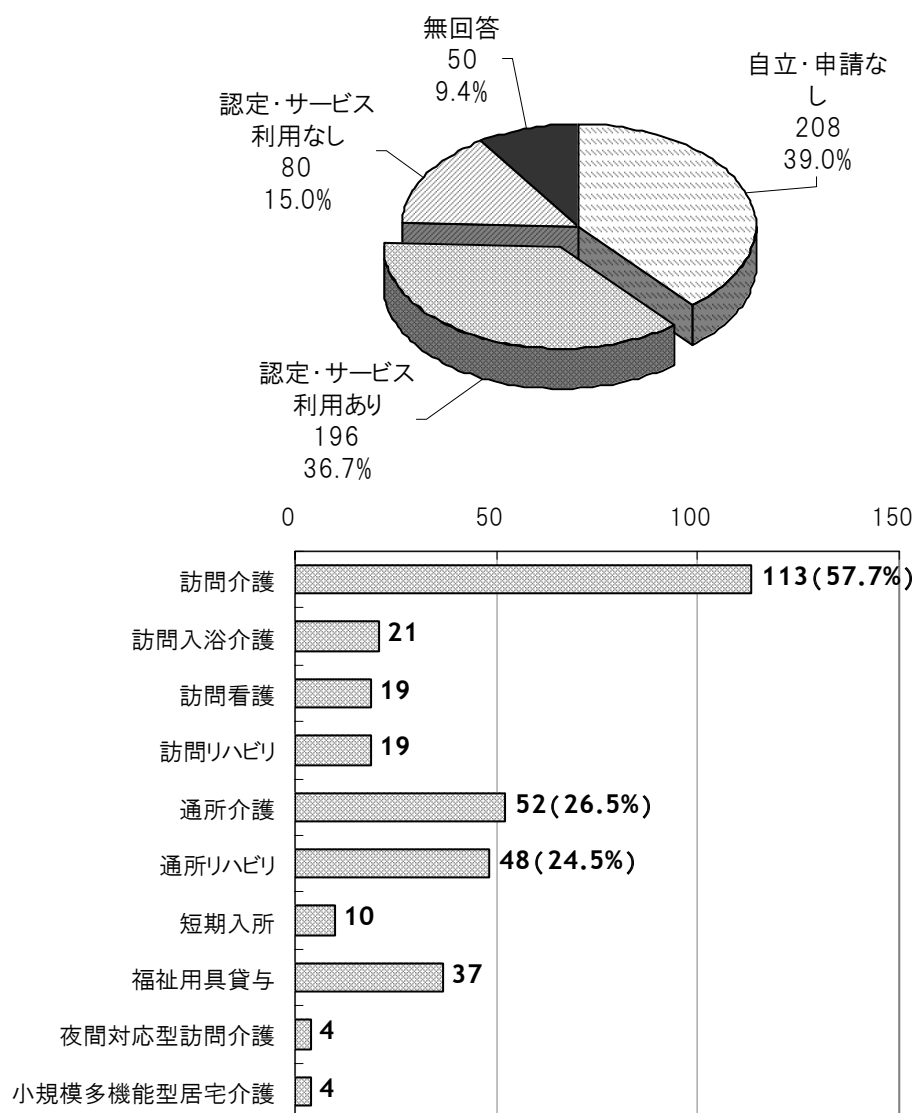
		合計	知人宅に 訪問	自治会や 寄り合い	偶然会う 程度	介護サー ビス参加	ほとんど 交流ない	無回答
ひとり暮らし	N	287	78	78	70	75	47	24
	%	100	27.2	27.2	24.4	26.1	16.4	8.4
夫婦のみ	N	155	34	35	44	30	35	15
	%	100	21.9	22.6	28.4	19.4	22.6	9.7
子ども夫婦・ 子どもと同居	N	65	15	18	16	20	13	3
	%	100	23.1	27.7	24.6	30.8	20.0	4.6

(3) 介護保険サービスの利用（複数回答）

介護保険サービス利用の前提としての要介護認定の状況を見ると、「認定あり・サービス利用あり」としたのは196人(36.7%)であった。

その196人のサービス利用状況をみると、「訪問介護」が113人(57.7%)、「通所介護」52人(26.5%)、「通所リハビリ」48人(24.5%)という状況であった。

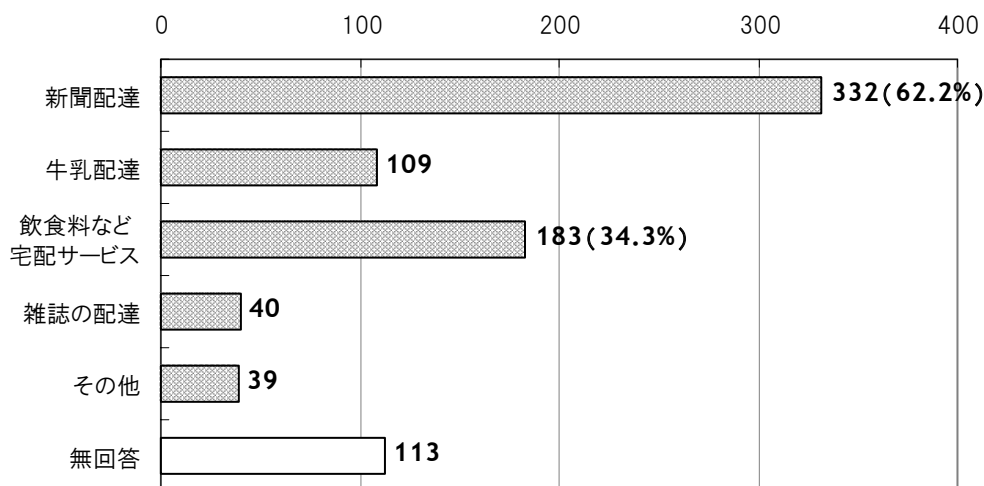
図表 3-3 介護保険サービスの利用（N534）



(4) 配食サービス・介護保険サービス以外の訪問型サービスの利用（複数回答）

配食サービス・介護保険サービス以外の自宅訪問型のサービスでは、「新聞配達」が 332 人 (62.2%) と最も多く、次いで「飲食料など宅配サービス」が 183 人 (34.3%) であった。

図表 3-4 配食・介護保険以外の訪問型サービスの利用（N534）



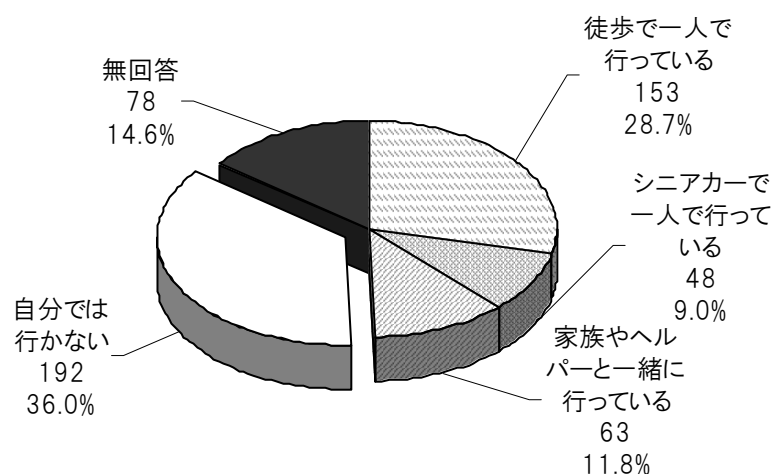
これを、世帯構成別にみると、ひとり暮らしではいずれのサービスについても利用している割合が他の世帯類型に比べて低い割合を示していた。（「無回答」の割合が高い点 注意が必要）

		合計	新聞配達	牛乳配達	飲食料 など宅配 サービス	雑誌の 配達	その他	無回答
ひとり暮らし	N	287	158	56	81	12	20	77
	%	100	55.1	19.5	28.2	4.2	7	26.8
夫婦のみ	N	155	115	37	60	17	10	20
	%	100	74.2	23.9	38.7	11	6.5	12.9
子ども夫婦・ 子どもと同居	N	65	44	10	29	8	6	12
	%	100	67.7	15.4	44.6	12.3	9.2	18.5

(5) 買い物の仕方（どうやって行っていますか）

買い物にどのような手段で行っているかについてみると、「自分では行かない(家族やヘルパーに行ってもらい、配達してもらい)」が 192 人 (36.0%) と最も多く、次いで、「徒歩で一人で行っている」が 153 人 (28.7%) という状況であった。

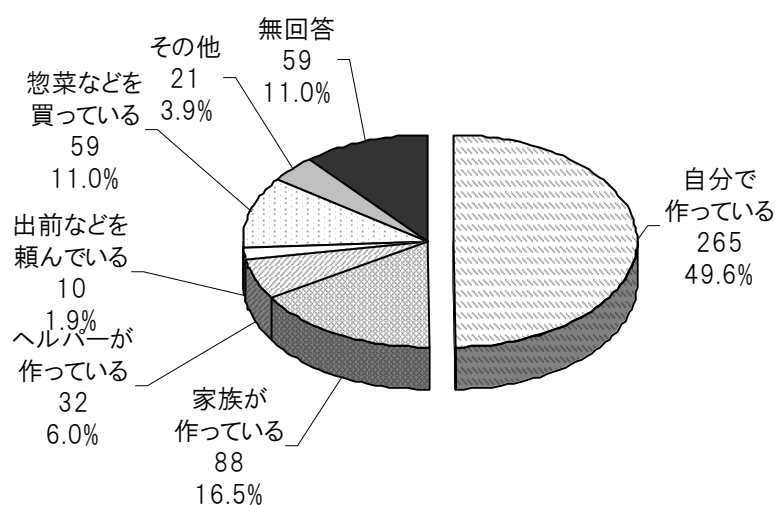
図表 3-5 買い物の仕方 (N534)



(6) 配食サービス以外の食事の準備 (どのようにしていますか)

配食サービスを利用する以外の食事の準備についてみると、「自分で作っている」が 265 人 (49.6%) とほぼ 5 割となった。以下、「家族が作っている」が 88 人 (16.5%)、「惣菜などを買っている」が 59 人 (11.0%) の順であった。

図表 3-6 配食サービス以外の食事の準備 (N534)



性別の状況は、「自分で作る」、「家族が作る」において男女比が逆転しており、これまでの調理経験等の違いが現れる結果となっていた。

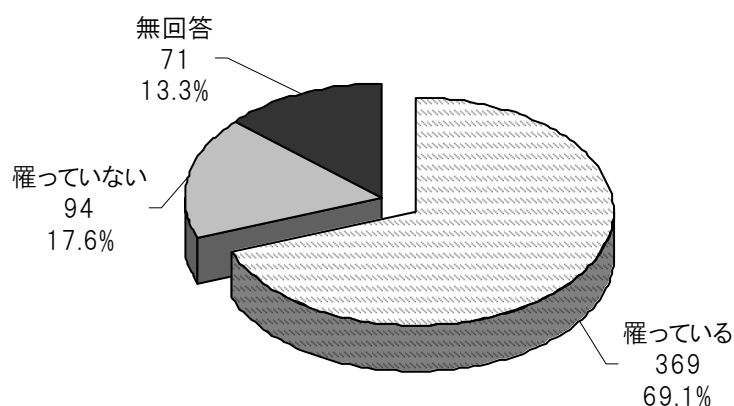
		合計	自分で作る	家族が作る	ヘルパーが作る	出前など	できあいの惣菜など	その他	無回答
男性	N	179	69	49	12	4	19	5	21
	%	100.0	38.5	27.4	6.7	2.2	10.6	2.8	11.7
女性	N	329	185	38	19	4	39	15	29
	%	100.0	56.2	11.6	5.8	1.2	11.9	4.6	8.8

2-4 健康状態(持病や食事の変化など)

(1) 現在の罹患状況(何らかの病気に罹っていますか)

現在の罹患状況について、「罹っている」は 369 人(69.1%)、対して「罹っていない」は 94 人(17.6%)であり、7 割の利用者が何らかに罹患していた。具体的な病名としては、高血圧症、関節痛等が多数を占めていた。

図表 4-1 現在の罹患状況 (N534)

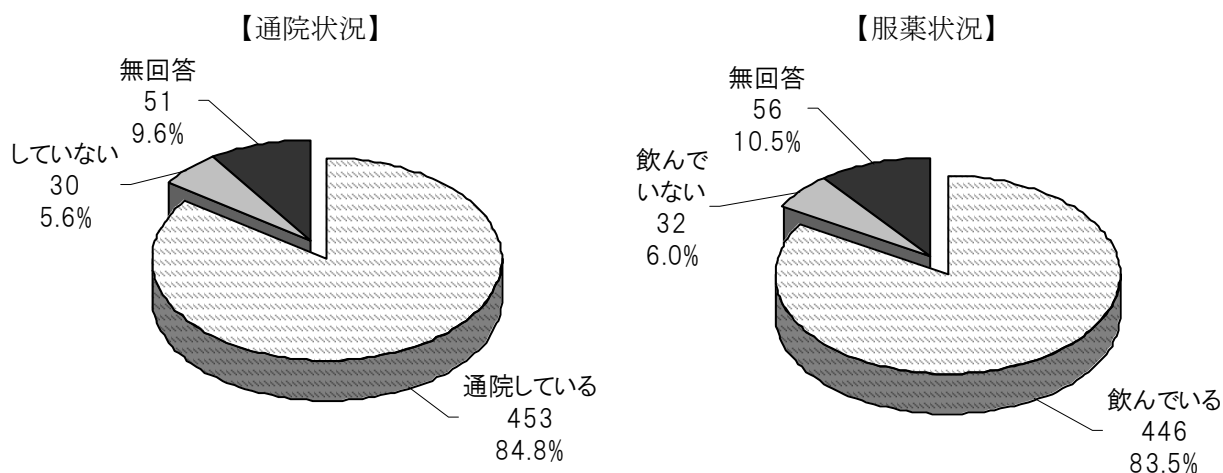


(2) 最近の通院・服薬状況(ここ数ヶ月で通院していますか、お薬を飲んでいますか)

ここ数ヶ月の通院状況について、「通院している」は 453 人(84.8%)、対して「していない」は 30 人(5.6%)にとどまった。

また、服薬状況でも概ね同様の傾向で、「飲んでいる」が 446 人(83.5%)、「飲んでいない」が 32 人(6.0%)となっていた。

図表 4-2 通院と投薬の状況 (N534)



(3) 身長・体重

利用者の身長と体重についてみた。まず、身長は 10 cm 刻みの階級で図表 4-3-1 上段のような分布であった。平均は 153.3 cm であった。続いて体重は 5 kg 刻みの階級で同下段のような分布となった。平均は 51.0 kg であった。

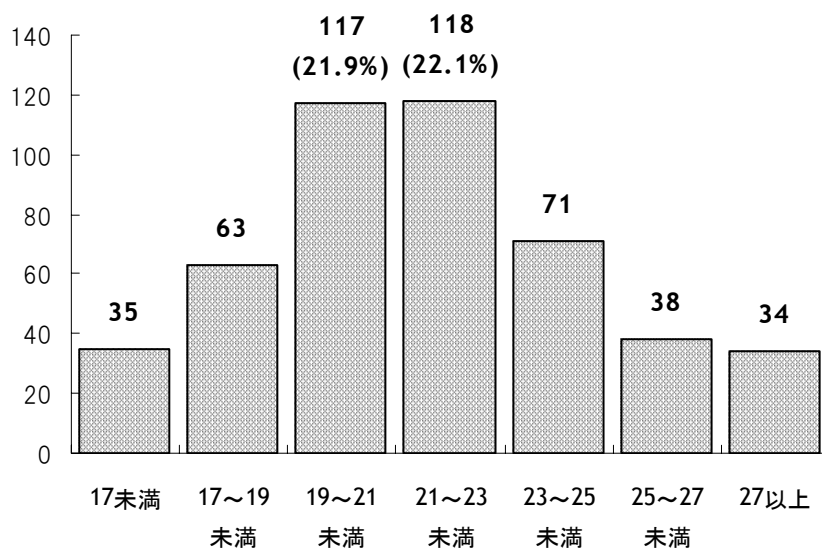
また、両者の値より BMI 値（体重(kg)／身長(m)²）を算出し、その分布をみると、「21～23 未満」が 118 人(22.1%)、「19～21 未満」が 117 人(21.9%)とほぼ同数でピークとなった。平均値(N476)は 21.7 であった。

図表 4-3-1 身長・体重 (N534)

身長 (cm)		合計	140 未満	140～150 未満	150～160 未満	160～170 未満	170 以上	無回答
全体	N	534	22	138	184	110	26	54
	%	100.0	4.1	25.8	34.5	20.6	4.9	10.1

体重 (kg)		合計	40 未満	40～45 未満	45～50 未満	50～55 未満	55～60 未満	60～65 未満	65～70 未満	70 以上	無回答
全体	N	534	50	77	95	98	75	50	16	27	46
	%	100.0	9.4	14.4	17.8	18.4	14.0	9.4	3.0	5.1	8.6

図表 4-3-2 BMI 値 (N476)



性別、世帯構成別、食事内容別、罹患状況別の BMI 値分布は、図表 4-3-3 の通りである。

図表 4-3-3 属性別の BMI 値分布

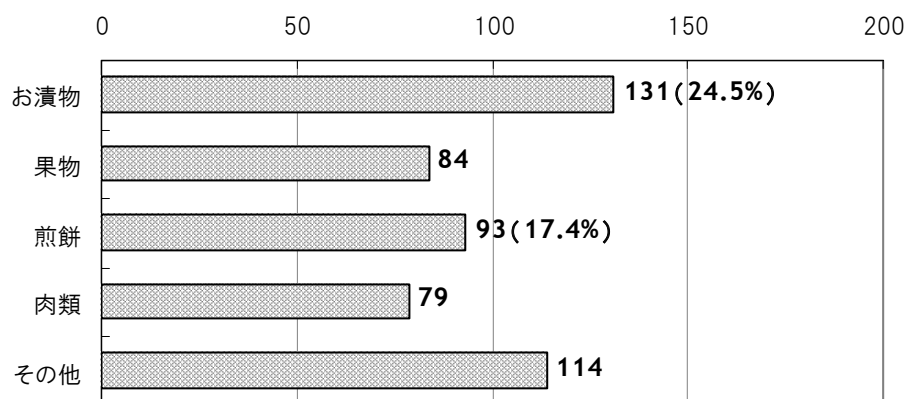
		合計	17 未満	17～19 未満	19～21 未満	21～23 未満	23～25 未満	25～27 未満	27 以上	無回答
男性	N	179	7	26	35	45	30	12	11	13
	%	100.0	3.9	14.5	19.6	25.1	16.8	6.7	6.1	7.3
女性	N	329	27	37	74	69	39	25	23	35
	%	100.0	8.2	11.2	22.5	21.0	11.9	7.6	7.0	10.6
ひとり暮らし	N	287	15	32	65	62	38	24	17	34
	%	100.0	5.2	11.1	22.6	21.6	13.2	8.4	5.9	11.8
夫婦のみ世帯	N	155	9	19	32	38	22	9	12	14
	%	100.0	5.8	12.3	20.6	24.5	14.2	5.8	7.7	9.0
子ども夫婦 子どもと同居	N	65	6	7	16	14	9	4	4	5
	%	100.0	9.2	10.8	24.6	21.5	13.8	6.2	6.2	7.7
普通食	N	458	28	55	102	104	63	36	30	40
	%	100.0	6.1	12.0	22.3	22.7	13.8	7.9	6.6	8.7
治療食・介護食	N	44	5	6	8	10	3	2	4	6
	%	100.0	11.4	13.6	18.2	22.7	6.8	4.5	9.1	13.6
働っている	N	369	25	41	83	90	49	25	26	30
	%	100.0	6.8	11.1	22.5	24.4	13.3	6.8	7.0	8.1
働っていない	N	94	7	15	23	15	13	6	4	11
	%	100.0	7.4	16.0	24.5	16.0	13.8	6.4	4.3	11.7

(4) 食事(食べること)について

① 食べにくく(食べられなく)なったもの(複数回答)

最近食べにくく(食べられなく)なったもの、「お漬物」が 131 人(24.5%)と最も多く、次いで「煎餅」93 人(17.4%)という状況であった。「その他」としては、硬いもの という記述が多かった。

図表 4-4-1 食べにくく(食べられなく)なったもの(N534)

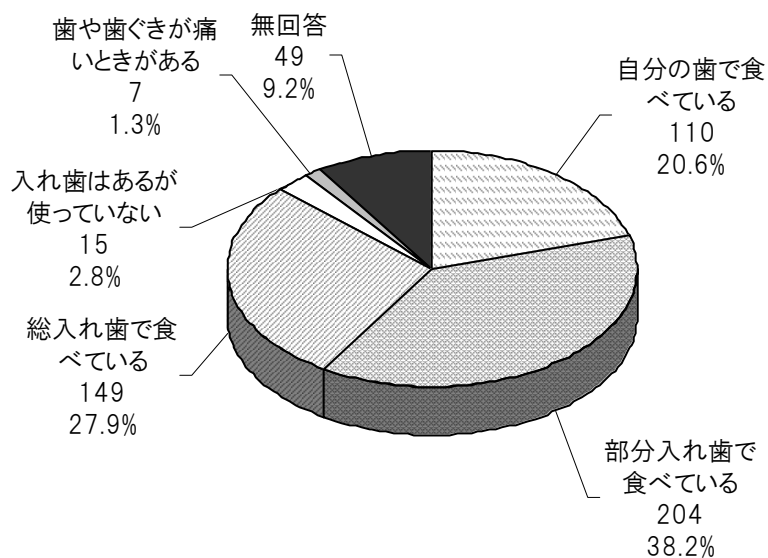


②歯の健康について

自身の歯の健康について、「部分入れ歯で食べている」が 204 人(38.2%)と最も多く、次いで「総入れ歯で食べている」が 149 人(27.9%)、「自分の歯で食べている」が 110 人(20.6%)という順であった。

義歯の利用が「総入れ歯」「部分入れ歯」計で 3 分の 2 を占めており、提供メニューの内容について示唆を含む結果となった。

図表 4-4-2 歯の健康について(N534)



③食事や水の“ムセ”について(N25 のみ)

介護食・治療食を利用している 25 人について(p.17 図表 2-10 参照)、食事や水を飲む際の“ムセ”の状況をみると、無回答 9 人を除く 16 人の半数が食事、水とも「ほとんど(むせることは)ない」と回答していた。

図表 4-4-2 歯の健康について(N25)

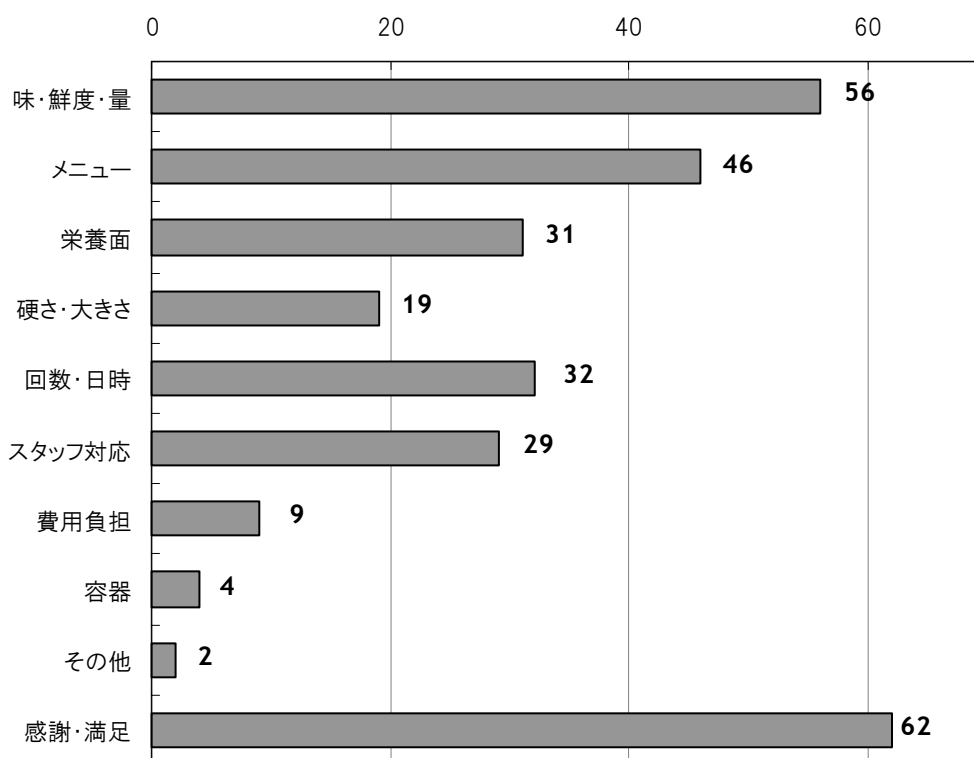
		合計	よくある(むせる)	たまにある	ほとんどない	無回答
食事	N	25	1	7	8	9
	%	100.0	4.0	28.0	32.0	36.0
水	N	25	1	6	9	9
	%	100.0	4.0	24.0	36.0	36.0

2-5 自由意見(配食サービスに関するご意見やご感想)

配食サービス全般に関する意見・感想等の記述回答について、様々な回答があったが、記述内容によって区分すると概ね図表 5 のように整理できた。1 つの回答に複数の内容を含むものがほとんどであり、それらはそれぞれの区分にカウントしている。

「感謝・満足」を含む回答が 62 件と最も多く、次いで、「味・鮮度・量」に関するもの 56 件、「メニュー」が 46 件、「(配達の)回数・日時」が 32 件となっていた。

図表 5 配食サービスに関する意見・感想(N534)



以下、それぞれの区分ごとの主な回答を一部抜粋して掲載する。

【味・量・鮮度等に関する意見】 全 56 件

39	うす味でシンプルな調理方法を望みます。おかずの品数が多いのは、とてもよいと思っております。
56	現在、頂いている配食は、妻と二人で丁度よい。妻と二人で一食分を頂いて満足しています。これからもお願い致します。以前、2食を頼んでおりましたが、一食分は冷蔵庫で、翌日食事していましたが、衛生上を考えて、1食にしました。
94	おかずは工夫しておいしいですが、御飯が冷えるとパラパラでおいしくない。価格は安いのでこのおかずで、この価格を維持してほしい。
98	週(月)によって献立が美味しい時と、だめな時があり、見た目も大切だと思います。
146	年齢も高齢だし、カロリー計算しても味がうすかったら食べない。後わずかな人生だから、味をこくして食べられる様にして下さい。家では家族と一緒に物を食べる。

150	1. みそ汁が冷たい 2. 電子レンジ可の食器を使用して欲しい 3. 漬け物を1切れでも良いので付ける(フルーツと交換でもよい) 4. フルーツの際は缶詰はまずい(季節を感じる果物がよい) 5. 土、日、祝日はなぜ休みですか(介護の人か、配食の人か、どちらの為にやっていますか。目的は??) 交替制は。
252	毎度有り難うございます。毎回、変わらない良い味付で喜んでいただいています。申し上げるなら、副食物あまり重ね込まない様に。先月末は多かった。本日は大変よくなっています。
318	おおむね満足しています。容器、食品のバランス、味付け等も私共の好みに合っております。食材及び糖尿の為、少し残す事もありますが、カロリー表と相談し乍ら、いただいております。配達時間もだいたい毎日変わらず来て頂き、喜んでます。これからも続けて配食よろしくお願い致します。
325	食品それぞれに味をつけてほしい。サラダはサラダの味、煮物は煮物の味をつけて下さい。いため物はいため物の味に…。生野菜をそのままに切って入ただけでは食べられません。それぞれに味付けをお願いします。「つくる人の 心がほしい 夕弁当」
370	1. 給食はカロリー計算に固執することなく、心の籠もった家庭料理のようなものとしてほしい。 2. おかずは2品程度とし、量を多めにしてほしい。 3. 管理者は出来上がった品をチェックしてほしい。 4. 価格は適正なものとしてほしい(高くても可)
378	一般的なので、もう少し味付けが濃くても大丈夫です。煮物等は、やわらかいものにしてほしい。肉類を増やしてほしい。
381	自分で作るのも良いと思いますが、夕食宅配をお願いしました。3ヶ月余りですが、味付けも、うす味で美味しく、今は元気です。もう少し量が多くてもと思いますが、体調も良く、2K 近く体重が減りました。
406	野菜がたまに固いものある(ジャガ芋・白ネギ)。煮物の味付けが少なからい。薄味が良い。魚のフライとコロケ等、1度に2つあると胸にもたれる。
436	・おかずの件 何品かある内、1品は誰が食べても美味しいと思うような欲しいな…。・配食の件 給食不要の場合、先週の火曜日に連絡して下さいとの事ですが、以降、木曜日不要なら、金曜日は配食しないと云う件が?
441	昼食は高齢者食で味、材料、すべて満足です。ただ、ごはんが多い。残したごはんは、おかゆにして夕飯食べます。夕食は、高齢者向きではないので、油物が多く残しています。配達の方は、私が耳が遠いので、時々、迷惑をおかけしますが、親切な対応をしていただきますので、頭が下がります。配食は、本当に助かっています。感謝致します。
449	魚類は好きではない。折角の機会、食べるようにしています(家内に大きな切り身は半分に食してもらっています(家内も余りすぎではないのだが))。味付けは、もう少しつけて欲しい。
455	味つけで、しっかり味がしみこんで美味しい時もありますが、薄味すぎて、おいしくない時もあり、たまに、煮かたが足りなく、固い時もあります。総体的には、まあまあです。
468	野菜、じゃがいも、小芋など、少し味がうすくて火の通りがわるく、硬いものがある。もう少し、火の通りがほしいと思います。
492	大根や人参は、もう少し味をこくし、しみこむように、やわらかくなるようによく煮てほしい。キャベツなども。
495	たまに御飯がかたい時がある。副菜の味がもの足りない時があった。最近量は多くなって、満足している。和風の煮物の味付けはおいしいです。
497	大いに助かっています。土、日、祝などもお願いできたらと思います。(娘) 老人向けに、もう少し量の少ないパターンがあれば、残さず頂けるのですが…。

【メニューに関する意見】 45 件

14	今後、加齢により体調も変わって行くと思いますので、出来れば何通りのメニューを作って頂きたいと思います。
40	ごはんの量が多すぎて、いつも残してしまうので、ひとつのパックにおかずとごはんを入れていただいで充分です。複雑なつくり方より、素材そのままを生かした(例えば、魚の上にあんかけをするより、単なる塩焼きなど)料理の方がどちらかといえば好みます。栄養のバランスを考えてくださっているのを、いつもありがたく思います。
89	いつもおいしい食事配食して戴、感謝致して居ります。おでんとか季節変わりのおいしい御飯楽しみです。御世話かけますので、月曜と木曜日助かってます。これからよろしくお願い致します。お陰様でこの年に成っても電動自動車ですーパーへ買い物に行き、娘のお料理3種類作っています。痴呆防止だと頑張っています。
160	野菜が高いですが、野菜の料理を希望します。
217	新鮮な野菜、果物などが望ましいと思いますが、お弁当にそれを注文するのは無理と、朝食で摂る様にしております。雨の日も、風の日も、暑い日も、寒い日も配食して下さる事にはとても感謝しております。
234	配食のとき、毎度声をかけて安否も尋ねてくれるのがうれしい。2～5割ほど上がってもよいので、おかずの内容をよくしてほしい。
246	週1回の配食なれど、調理の必要はなく楽しみにしています。有り難く感謝しており、副食物の変化を楽しみにしております。
304	容器に模様のないものにしてほしい。(理由:目が悪いので、模様が食物に見える。又、味気ない。もっとシンプルでデザイン性のあるもので、明るい物がよいと思う) 野菜がどうも。食材よく考えてほしい。冷凍の味がする→フルーツもカンヅメの味がするもの有。
321	・配達の皆様は大変親切で誠実です。本当に有り難く感謝しています。・献立はバランス良く、美味しくいただいて居ます。メニューを考えるだけでも大変だろうと。調理、盛りつけ等すべて芸術的であり、数学的だなあと関心するばかりで、感謝しています。今後共よろしくお願い致します。目が悪くて思うように書けません。失礼致します。
327	現在のところ夕食(おかず)は、夫婦二名で丁度良い状態。毎日、違った献立に満足して居ります。
349	色も味も良く、見た目に美味しい卵焼きをもっと入れていただきたいと思います。お酢のものをふやしていただきたいと思います。
350	調理師、栄養士の方々、色々と有り難うございます。限られた条件の中、色々と工夫して下さって有り難う。又、利用させて頂く私どもは、高齢者なので、おかずコースの場合、油物が少ないメニューをお願いします(調理時間の関係も有りましょうが)。又、和風系のメニューとメニューに普通の英語名よりわかりやすい名前を記入して下さい。(その外、運搬、配送、製造色々の方々、本当に有り難うございます。)
360	毎日きまった時刻に配達があり、たいへんうれしいです。今年のような夏が暑い日には、とても買い物には行けなかったのが、ほんとにほっとしました。早速、持って来て頂いたお弁当を、近所の方にもお見せして、宣伝しました。献立は色々あってほしいですが、少しフライ物が多いように思います。
373	最近まで、近くのべんとう店から宅配してもらっていたが、油物が多く、食材も栄養についても不安感があり、良い安心できる宅配を探していたら、コープさんが宅配が始められたのでお願いした。毎日のメニュー、カロリー、塩分も表示され、食材、栄養バランスに安心感があるので、このまま続けていきたいと思っている。出来ればもう少し良いのをと。

454	夕食のおかずは、届けて頂けるのは、大変有り難い事です。内容もバランスが取れていて、良いと思います。たまに、かみ切れない材料もあって、年寄りには困ります。時間の余裕も少し出来て、感謝しています。
499	とても助かっています。食事を作ることが億劫になって、うつ状態でした。夕食だけでも配食してもらえると、気が楽になりました。ただ、食事の種類(普通食、治療食、介護職、ソフト食)があると知らず、本人に会う食事がわかりません。1週間毎に変更して、ためしてみるのも…。何か良い方法があればと思います。歯が悪いので、ソフト食にしてみようかとも思います。配達担当の方は、とてもやさしく、心温まり、喜んでいきます。配食サービスは、本当に助かっています。いつも有り難うございます。

【栄養面に関する意見】 31 件

4	週4回、昼食弁当をお世話になっております。栄養のことを考えて、多種類の材料を使ったお料理を安心して頂いております。配達の方がいつもやさしく声をかけて励まして下さるのが、とてもうれしいです。
15	毎日の食事であけたら、いろいろと重ならない様に、栄養面や種類など、種々の点に気配りしていただいて、本当に有り難く、感謝して頂いております。有り難うございます。
62	週1回のお弁当は楽しく食事させて頂いております。栄養のことは、とてもよく考えて作っていただいていることに感謝しております。
92	あまり馳走という物ではありませんが、老人向けによく考えて、調理していただいているので、有り難いと思っています。毎日、給食をとどけて下さるのを、楽しみに待っています。
208	クレアチレンの数値を3以下におさえる為に配食サービスを受けています。ここ2ヶ月は、2.86や2.96の間を上下していますので、よろこんでいます。尚、タンパク質も一日35g前後とか、カリウムをひかえる様、指導を受けています。月末の血液検査をひやひやして受けています。
229	配食サービスは、1人ものや家族がいても食べたい食事内容が異なる場合(油っこいものがいやで、あっさりした食事がとりたい時)などに、有り難く助かります。食事は、毎日のことなので、栄養のバランスのとれた、適量な食事は病予防にも効果的で、良いサービスと思います。今後も、美味しい食事を提供して行って下さい。
318	おおむね満足しています。容器、食品のバランス、味付け等も私共の好みに合っております。食材及び糖尿の為、少し残す事もありますが、カロリー表と相談し乍ら、いただいております。配達時間もだいたい毎日変わらず来て頂き、喜んでいきます。これからも続けて配食よろしくお願い致します。
358	こまぎれ副食物が多く、メイン食と見られる食が少ない。以上はカロリー計算によるものと推測するが、私は、カロリー計算するのでは無く、一週間毎にまとめて数値でよいのでは無いと思う。又、こまぎれ副食物は、不衛生的に見え、失礼ですが、ホテルバイキングの残食の様に感じる。貴社の場合、先ず衛生的には欠点は無い。
380	おかずの宅配、毎日楽しみにしています。有り難うございます。心より感謝。カロリー、塩分の表示もうれしいです。ひとロコラムも楽しみのひとつです。
456	配食サービス利用は調理するのと、買い物に行くのが難くなったから、夫婦と相談の上、夕食のおかずのみを頼みました。おかずも、ソフト食、お願いしたいと思います。妻は、現在、1ヶ月の検査入院をしておりますので、世帯主の私が、意見や感想を書かせてもらいました。妻の退院後は、又、様子が変わるといいますので、その時は、ご配慮の程、おねがい申し上げます。

460	高齢者になり、栄養を取り入れて、御飯始め、お野菜類もすべてやわらかめが望むところです。自分で作れば、つい多くなりがちで困ります。お弁当頂ければカロリーも量も(バランスよく)計算されていると思って、安心して頂いてます。根野菜類で硬いのが嫌です。御飯もポロポロの硬いのでなく、適当なやわらかさ、粘りがいいと思っています。以上どうぞよろしくお願い致します。
494	病院の内科で診察と胃カメラで検査して頂きましたが、初めは、胃潰瘍だったので錠剤一個をのんでいました。配食して頂いているのが、少し油っこいので、今は少し休ませて貰っています。こんな場合、油や刺激物などの入っていない弁当等があれば嬉しいと思っています。
499	とても助かっています。食事を作ることが億劫になって、うつ状態でした。夕食だけでも配食してもらくと、気が楽になりました。ただ、食事の種類(普通食、治療食、介護職、ソフト食)があると知らず、本人に会う食事がわかりません。1週間毎に変更して、ためしてみるのも…。何か良い方法があればと思います。歯が悪いので、ソフト食にしてみようかとも思います。配達担当の方は、とてもやさしく、心温まり、喜んでます。配食サービスは、本当に助かっています。いつも有り難うございます。

【硬さ・大きさに関する意見】 19 件

66	毎回食品目はたくさんあります。1回に20～30品がありますが、私は自分の歯ですので、少しやわらかすぎて栄養素がにげるのではないかと感じます。少し歯ごたえ(かむこと)のある物がほしい時があります。そのときは、ジャコやツクダニ等を添えています。
133	いつも美味しくいただいております。主食についてほとんどの場合が硬い。再度お粥にして食べています(やわらかい時もあります。この時はそのまま頂いております)。ここ1年位前より腸の働きが著しく弱って、硬い物が食べにくい、今の所は現在の配食サービスで結構です。
371	食材、お固い時ありますので、もう少しやわらかく煮てほしい。揚げ物が2種類入っている時もありますが、1個あれば充分だと思いますので、一考してみてください。
378	一般的なので、もう少し味付けが濃くても大丈夫です。煮物等は、やわらかいものにしてほしい。肉類を増やしてほしい。
406	野菜がたまに固いものある(ジャガ芋・白ネギ)。煮物の味付けが少しからい。薄味が良い。魚のフライとコロッケ等、1度に2つあると胸にもたれる。
444	夕方、配達をしてもらっていますが、高齢のため、油気のものや、固い野菜にこまります。毎日、配達していただいている事に、感謝致しております。
454	夕食のおかずは、届けて頂けるのは、大変有り難い事です。内容もバランスが取れていて、良いと思います。たまに、かみ切れない材料もあって、年寄りには困ります。時間の余裕も少し出来て、感謝しています。
457	親切に配食して貰って、有り難いと思っています。腸が弱いので、やわらかいものが有り難いです。
468	野菜、じゃがいも、小芋など、少し味がうすくて火の通りがわるく、硬いものがある。もう少し、火の通りがほしいと思います。

【回数・曜日・時間に関する意見】 32 件

12	初回からずっとこちらのサービスを受けておりますので、他と比べられませんので…。体調の都合で、作る事が出来ない私にとりましては、大変有り難く頂いております。土、日曜日が休みですから、こまっています。
44	いつも丁寧にお届けいただき、感謝しています。現在は、週一回の夕食を御世話になっておりますけれど、将来、益々年齢を重ねて行き、お料理も出来かねることになった時は、回数を増していただけたら有り難いです。今は出来るだけ一人で、いつまでも料理する様に頑張るつもりでおります。然し、ご近所の高齢者の方は業者さんの料理に頼っているのが、現状なので、その点、不安を感じます。
145	配食は毎日でもして欲しい!(週2回だけと言われた)
150	1. みそ汁が冷たい 2. 電子レンジ可の食器を使用して欲しい 3. 漬け物を1切れでも良いので付ける(フルーツと交換でもよい) 4. フルーツの際は缶詰はまずい(季節を感じる果物がよい) 5. 土、日、祝日はなぜ休みですか(介護の人か、配食の人か、どちらの為にやっていますか。目的は??) 交替制は。
166	想像してたより良いので、有り難く頂いております。体調によっては、夕食も難儀な時があるので、夕食の配食、土、日、祝日も考慮してほしいと思います。
193	・1週間に3回しかとっていませんが、有り難いです(その日の献立は考えなくていいので)。・量が多いので、もう少し少なくてもいいし、もう少し安くしてもらおうと有り難いです。・偏食が多くて、いつも残り、主人に食べて貰うのですが、好き嫌いの相談は出来ないのでしょうか? ・味は良く、喜んでおります。
201	〈家族より〉 今まで隣の町内から3食運んでいて、とても大変でした。昼食をお願いするようになってからは、昼間に時間ができ、心に余裕もできました。夕食は作って運んでいますが、いざとなったら電話1本で夕食も配食して下さるので、安心です。ありがとうございます。
253	配食は1週間1回の所、2回から3回でも結構かと思えます。食事持って来ていただくのが楽しんでおります。
318	おおむね満足しています。容器、食品のバランス、味付け等も私共の好みに合っております。食材及び糖尿の為、少し残す事もありますが、カロリー表と相談し乍ら、いただいております。配達時間もだいたい毎日変わらず来て頂き、喜んでいます。これからも続けて配食よろしくお願い致します。
323	土、日、祝日の配食サービスがあれば、もっと気楽だと思います。現在、夫婦2人分を配食してくれていますが、時々、分量が多いことがあります。但し、バラエティ豊富で有り難いです。
375	要望としては、土、日、祝日も配食サービスをしていただければ、ありがたいです。調理、配達の方々に感謝いたします。今後ともよろしく。
382	1週間分の休止だけでなく、1日か2日分の休止も出来る様にしてほしい。
440	私は夕食を配達して貰っていますが、無配達時は午後1時頃になります。それを冷蔵庫に入れて、夕食にするのですが、何時も冷たいから、暖めて食べています。暖かいものが直接食べられたら、どんなに嬉しいかと思っています。
464	野菜が少したりない様に思います。なるべく配達時間を決めて下さい。用事があって出かける事もありますので、出来れば嬉し思います。
498	夕食は、もう少し遅めにお願いしたいです。

【配達・対応に関する意見】 29 件

4	週4回、昼食弁当をお世話になっております。栄養のことを考えて、多種類の材料を使ったお料理を安心していただいております。配達の方がいつもやさしく声をかけて励まして下さるのが、とてもうれしいです。
13	何事も親切ににっこり笑顔でこえかけして下さいます。ほっとします。何事も一人で居るので、来て頂く時間が待ち遠しく感じます。早く来て下さいと云うのでもなく、その時間が来ると心待ちにして居ます。よろしくお願いします。雨の日は本当に感謝します。三月三日おひなさまの食事は未だに感謝、思い出してうれしく楽しく思っております。ありがとう。
152	毎回、声かけ等、親切にして頂き有り難うございます。今後共宜しくお願い致します(ヘルパー代筆)
180	大体の時間通りに宅配して頂いて有り難いです。宅配して下さる方の態度がとても感じ良い。おしながきメニューと「今日は何の日」がとても良い勉強になり、すてきです。ずっと残しています。
222	配食について何も有りません。普通食と一緒に今日は何の日と言って来る手紙が楽しくてたまりません。長く付き合いをお願いします。
270	職員さんのお願いして手足が不自由なので、食卓まで配食、運んで下さい。
321	・配達の皆様は大変親切で誠実です。本当に有り難く感謝しています。・献立はバランス良く、美味しくいただいております。メニューを考えるだけでも大変だろうと。調理、盛りつけ等すべて芸術的であり、数学的だなあと関心するばかりで、感謝しています。今後共よろしくお願い致します。目が悪くて思うように書けません。失礼致します。
452	高齢化に伴って、配食サービスへの依存度は増えていくと思います。配食提供サイドとサービス利用者とのコミュニケーションが、より密接に進展することを望んでいます。
491	・配食はレンジにかけて食べているが、内容によれば、レンジにかけない方がよいものも入っており、そんな場合、献立表に区分してもらえれば有り難い。・留守の場合、発泡スチロールの入れ物で、所定の場所へおいてもらえるので、喜んでる。
500	何時も快い笑顔で、配達お弁当を受け取らせて頂いて居ります。味付けも良く、美味しい。お弁当箱に入れて届けて下さっています。私が、家の自家用車(クルマ)で、息子と外出する時は、ハッポースチロールの白い箱に空き箱を入れて(玄関の外)ちょっと見えにくい処へ於いておくと、冷ほう板を2枚程入れ、シールを貼って、午後1時～2時頃入れて置いて下さいます。無論、家に居る場合は、しっかりチャイムをならして下さいますので、とんで出て、玄関のカウンターの上に置いて有る、盆の上に置いて、古い(昨日)の空き箱を持って帰ってくれる

【費用負担に関する意見】 9 件

17	2階に子供夫婦と孫2人が住んでいます。市を通して頂いておりますので、1食450円で週2回です。3回にして頂けたらうれしいです。会計、食事は皆別です。お風呂だけ共用しています。
27	配食サービスありがたく、日々、感謝しています。一人ぼっちで日々を生活している者には、どれほど助けていただいているやら…。現在のあの料金でやって頂いていて、経営していますことに、ただ敬服、感謝します。物価のあがる今日ですのに、ご考慮も…。しかる時には…。そして、料理にしても、町の食堂にいくより、これはおいしいと思うものが毎日出ています。その腕前にも敬服し、満足しています。本当に毎日ご苦労様です。どうか、皆さんお体にご留意を願っています。

94	おかずは工夫しておいしいですが、御飯が冷えるとパラパラでおいしくない！ 価格は安いのでこのおかずで、この価格を維持してほしい。
370	1. 給食はカロリー計算に固執することなく、心の籠もった家庭料理のようなものとしてほしい。 2. おかずは2品程度とし、量を多めにしてほしい。 3. 管理者は出来上がった品をチェックしてほしい。 4. 価格は適正なものとしてほしい(高くても可)
372	週5日の配食で夕食は安心出来る。量が少ないので、1品は自分で作る。配達量も必要ですが、質があまり良くない。金額を上げてでも充実した内容にしてほしい。
451	配食サービスにより、夕食の準備が楽になり、有り難いです。量的にも良いのですが、少し安くなれば、なおいいですが。

【容器・食器に関する意見】 4 件

10	容器については、清潔でもアクで黒くなっているのが気にかかります。たまにハイターで洗って下さればと感じます。せっかくのお料理にも良い様です。
304	容器に模様のないものにしてほしい。(理由:目が悪いので、模様が食物に見える。又、味気ない。もっとシンプルでデザイン性のあるもので、明るい物がよいと思う) 野菜がどうも。食材よく考えてほしい。冷凍の味がする→フルーツもカンヅメの味がするもの有。
318	おおむね満足しています。容器、食品のバランス、味付け等も私共の好みに合っております。食材及び糖尿の為、少し残す事もありますが、カロリー表と相談し乍ら、いただいております。配達時間もだいたい毎日変わらず来て頂き、喜んでいきます。これからも続けて配食よろしくお願い致します。

Ⅲ 考察

1. アンケート調査結果より

(1) 事業所票

配食サービスは、何らかの理由によって自らが食事の準備等を行うことができない利用者に対して、食事を配達するサービスである。その理由はさまざまであるが、利用者は必ずしも高齢者や障がい者だけというわけではなく、身体的・精神的なケアを前提としない、文字通りに利用者の“食”を支えるサービスである。

それゆえ、事業所票の結果にもあるように、現状では、身体機能や精神機能の低下した在宅の要介護高齢者や医療や介護を不可欠とするような状態像の対象者を想定した、栄養状態やケアの状況に及ぶアセスメントや治療や介護に対応したメニュー、また配食以外の付随サービスの面においても、必ずしも充実しているとは言えない状況ではあった。

しかし、利用者の緊急時や日常の変化に対するリスクの認識はもちろん、医療と介護との連携については全ての事業所が感じている結果がみられ、高齢社会において、配食サービスに求められている(期待されている)社会的な役割を認識している回答が多かったといえるのではないだろうか。

他方、事業者の本来業務である「食事を配達する」という部分に直結する事業運営面、経営面についての課題への対応が優先されている感是否めず、配食サービスが高齢者の生活支援の一つとして十分に機能するためには、まず、その事業運営や経営を盤石とする環境整備が急がれることが示唆された。

(2) 利用票

配食サービスの利用者については、今回は対象を満 75 歳以上の高齢者に絞ってアンケートを実施したことを踏まえなければならない。しかし、世帯構成や要介護認定の状況、また、通院や服薬の状況から、配食サービスの利用者についても、ひとり暮らしや夫婦のみ世帯の多さ、重度の要介護高齢者の存在、高い通院・服薬の割合など、いわゆる高齢社会の課題と切り離して考えることはできない状況にある点が把握できた。

そして、現在のサービスに対しては一定の満足度を示す回答が多かった一方で、自由意見ではより具体的、個別的な希望等が記述されていたことから考えれば、今後増加が予想される高齢利用者は、旧来の健康面や経済面でも弱い立場というある意味画一的なイメージではなく、利用者層の幅を広げる存在として位置付ける必要であろう。

さらに、配食サービスの利用の現状からは、介護サービスのような利用者の身体機能や精神機能の低下に着目して直接的に支えるサービス以上に、利用者個々の生活史や生活パターン、社会的な役割

(家庭の主婦として調理等を担ってきた、など)といった“食”に関する特有の背景を十分に理解した上で提供されなければならないことを読み取ることができた。

また、社会的な要請のみならず、利用者の声として、配食以外の付随サービス、いわゆる今日的な訪問型サービスに求められる機能(声かけや話し相手といった機能、安否確認や緊急対応などセーフティネットの機能など)が配食サービスに期待されている点も明らかとなった。

事業者・利用者双方に対するアンケート調査からは、現実的な課題を抱えながら目指したいと考える事業者の方向性と今日的な在宅高齢者のニーズが同一の方向にあるものの、現時点ではその距離があることが示唆された。

2. 配食サービスの機能強化・機能発揮に向けて(提言)

① 社会的役割の担い手としての連携機能を持つ(外部機能の強化)

今日的な高齢利用者のニーズの存在を認識することは重要ではあるが、配食サービス事業者の全てが、自ら地域支援事業の担い手として業務を行うべきとすることも現実的ではない。配食サービス全体に求められている本来的な“食”を支える機能を前提に、地域包括ケア体制の一部として、地域資源全体のバランスの中で地域支援事業の機能を担う事業者を段階的に拡大することに着手すべきであろう。

もっとも、地域資源全体のバランスを1事業者が判断し、機能保有・強化していくことは難しい。よって、現時点でも連携先として浸透しつつある地域包括支援センターとのつながりを強化し、地域包括ケア体制の一員として連携機能を強化することが望まれる。

個々の配食サービス事業者が、利用者の主治医や介護サービス事業者と個別の連携を行っていくことは現実的ではないと思われ、まずは地域包括ケア体制への参加によって、“食”を中心とした専門職との連携に道筋をつけることがポイントとなる。そして、要介護状態にかかわらず高齢利用者に対する栄養改善・口腔ケア等をキーワードとして、共通項(言語)の多い管理栄養士や歯科衛生士との連携を行っていくことが、配食サービスが担う社会的役割としての医療・介護との連携となるのではないだろうか。

② 高齢利用者の多様なニーズに応える機能を持つ(内部機能の強化)

多様なニーズに応える方法論は大きく2つに分けられる。

1つは①の連携の前提となる内部機能である。連携のためにはそれなりの準備が必要となり、例えば、管理栄養士や歯科衛生士との連携のためには、栄養面、口腔ケア面のアセスメントや情報収集をきちんと行っていくことが必要である。外とつながるために、まず内の準備を適切に行うことこそが、利用者(家族を含む)が配食サービスの延長線上に求めるニーズに応えることではないだろうか。

もう1つは、本来業務の多様化である。“食”という本来的な部分の“奥行きを増す”こと(味や鮮度の追求、配達時間の効率化など)自体はサービス提供主体として当然の努力であるが、“幅を広げる”こと、

例えば、治療食・介護食・ソフト食等の充実、配達時のコミュニケーション能力・観察力(変化や危険に気付く能力)の向上などである。これらの対応力の向上は様々な背景をもった利用者への個別的な対応(個別対応とは異なる)の第一歩となりうる。

③ 制度環境の変化につながる情報発信機能を持つ

さらに、個々の事業者の工夫と努力では対応しきれない部分、利用料への補助の仕組み(地域支援事業の要件緩和、新しい仕組みによる支援など)、介護保険制度における部分的な評価(介護タクシーのような考え方の導入など)に資する配食サービスの利用状況等についての情報を蓄積・公表していくことは、今後の配食サービス事業の発展のためには不可欠の責務ともいえるだろう。

また、今回の調査では回答者が県内の都市部およびその周辺地域に偏ったところがあり、明らかにされていないが、中山間地域における配食サービスについては、配食サービス事業そのもの、また利用者の状況に関しても実態を把握することが重要である。これらの地域こそ、“食”の確保と交流や安否確認等の訪問に伴う付随的なニーズが高いと思われるからである。

今後は、全国的なアンケート調査等を通じ、事業者・利用者双方のデータが多く集積され、より一般的な現状確認を基礎とした配食サービス事業の制度的な支援が検討されることが望まれる。

最後に、本アンケートに協力頂いた県内の配食サービス事業者およびその利用者に心から謝意を申し上げます。

第

3

章

今後に向けて

『配食サービスと医療・介護の連携について』

奈良県歯科医師会 副会長 正田 農夫

我が国は、世界に類を見ない速さで超高齢社会へと向かっているが、生きる喜びを最後まで提供できる体制、「まちづくり」は、はなはだ遅れていると言える。

高齢者が「自分らしく楽しく生きる」ことができるための条件はいくつもあるが、中でも「お口から味わって食べる」ことへの希望は、介護が必要となるどのレベルにおいても共通、かつ最大の要素である。近年の医学の発達により、これまでは見放されていた重篤な疾患や、致命的な外傷から生命を守ることが可能となった。しかしその反面、自立した生活を送ることができないまま退院し、地域へ帰ってくる高齢者が急増しつづけている。一方、食べる機能が低下した高齢者、あるいは低下し始めた高齢者が何度も歯科医院に通院して「おいしく食べるため」の治療やトレーニングを受けられることは非常に少ない。身体的な理由や、介護する家族等の精神的、社会的な理由により、ひとりで通院するのが困難になるため、75歳以上の高齢者の歯科受診率は極端に低下している。すなわち、受診が激減するのは元気で満足しているのではなく、食べる物を変えて（落として）「辛抱」を強いられているためと推察できる。その結果として、おいしく味わうことのできにくい食形態に、また、更に胃ろうへと進み、お口から食べる最大の喜びが消えることになる。

今回の調査では、多くの配食サービスの従事者が、昼間独居の利用者の安否確認や体調の変化を同時に心がけていることがわかった。また「声かけ」（34,5%）をおこなうことにより精神的な支えとなっていることもうかがうことができた。この明るい会話こそが食欲を喚起するのである。さらに、それぞれの食事形態の変化、残食の程度や内容を観察することにより、利用者本人が気づきにくい摂食・嚥下機能の低下を予想することができると思われるので、今後は、日常の業務に負担とならない程度で、簡便に利用者の食生活の変化に気づくことのできるチェックシステムが待たれるところである。少しでも早い段階で気づくことで、保健、医療へと繋ぐことができ、高齢者の最も大切な喜びを維持することが可能となる。今回の調査によれば、利用者の要介護度は、自立が25%、要支援1,2で37%であり、介護予防の対象に最適な層と言える。この時期に口腔機能の維持をはかることが肝要であり、市町村がおこなう介護予防事業への積極的な参加を呼び掛けることで、大きな効果が期待できると思われる。

配食サービスを通じて、高齢者がいつまでも安全に自分らしく生き続けることができる「まちづくり」に貢献されることを願う。

『配食サービスと医療・介護の連携についての振り返りと今後の展望』

奈良県栄養士会 管理栄養士 砂村幸子

はじめに 長く配食に携わって、又この事業に参加することにより、少しでも発展性のある提案が出来ればと考える。

1) アンケート集計結果について

内容的には、以前県内某地域又特養Sで常時行っていた結果と差異は大きくない。ただ今回の回収率41%は状況の違いがあるとしても、先の分70・90%とは差が大きい。地域が広範囲なら都市部と近郊・僻地と見比べられると良かった。事業者の所では、各所とも衛生問題には重点を置いているので、配達時の温度管理・従事者の衛生管理項目や、メニュー作成時の留意点項目も必要であったのではないかと。例えば利用者の声で油物献立に関する意見など少なくない。

その他・自由意見の項で両者とも本音の意見が記されている。ただし利用期間が1年未満約57%と多い、2～3年以上になると意見が変わってくる。1人暮らしでほとんど交流ないの16%は要注意であると共に今後増加すると考えられる。

2) ソフト食調理実習

近年口腔ケアとの連携による食事が、盛んに論じられる。知人の特養栄養士経験談より、90歳代男性が食欲落ち、希望尋ねると“蛸とキュウリの酢の物”と答え、調理に工夫し膳に載せると大変喜ばれて完食されたが、間もなく亡くなったと聞き、考える事多々あった。噛む事の大切さが介護予防で問題視される中、アセスメントにより専門家の指示が必要となる。現在配食は普通食が殆どであるが、将来ソフト食の出番が来ると考えられる。また事業所により献立・味付けに差があるので定期的な合同の調理実習も必要と思われる。

3) シンポジウム開催

事業の最目的である連携に関して活発に意見交換が出来た。その中の1つとして安否確認がある。その為に不在でも保冷箱に入れて帰る事は出来ない。外部からの異物混入など不祥事も考えられるので、手渡し、顔見て声かけが原則。残食量確認は洗って返却が決まりなので、声かけでおおよそを知る。現状は時間内配達に追われている。

これらのことから、配達員の研修が重要。実際に弁当を詰まらせ亡くなられた人ありで、緊急時に独居者と包括や医師の通信のありようは考えるべき。高齢が故の忘れや認知問題もあり、事業所のコーディネータは包括との密な連携を必要とする。高齢者の個人差は大きく、ヘルパーが入っている人は普通食の弁当を再調理するなども行われている。利用者の殆どが通院や薬の服用をしている数字が出ている。これらの事から、地域ごとに関係者による定期的な合同会議が必要ではないか。

考察 草の根のボランティアでは限界があるが、行政や民間とネットワークを組むことで豊かなコミュニティが出来る。これを生かす存在がNPOでNPOがリーダーシップとなる。とドラッガーが言っているが、シルバー総研の活躍に期待したい。

『配食サービスと医療・介護の連携のあり方に関する調査研究事業』を通して

市民生活協同組合ならコープ 無店舗事業統括 執行役員 高塚 克則

1974年の設立以降、ならコープは生活者が主体となり豊かな暮らしを実現するために事業と活動（運動）を奈良県下で繰り広げ、2009年には創立35周年を迎えることができました。組合員数も年々着実に増え続け、2010年には24万人（世帯組織率42%）を超える大きな消費者組織に成長しています。

これは「安心して暮らしたい」「もっとくらしを良くしたい」という生活者の思いや願いが地域に根ざし、今も尚広がりを見せている証とも言えます。

こういった思いや願いに応えるために、ならコープでは『夕食宅配事業』を立ち上げました。2010年10月現在、奈良県は65歳以上人口が全体の23.4%を占め、75歳以上でも10%を超える（10.8%）構成比となっています。また、ここ数年で団塊の世代が65歳以上となり、さらに高齢化は加速していきます。それに伴って高齢者の独居世帯も増え続けていくことは容易に推測できます。

いくつになっても思いや願いは不変であり、構成比が高まれば地域社会においてもその持つ意味はさらに大きくなるでしょう。こういう状況に対応できる社会の仕組みづくりは、もう始まっているかもしれません。

では、私たちの『夕食宅配事業』はどういう役割を果たすのか？

お届け時にご利用者が既に亡くなっていたり、病院に搬送されるという残念な事象が起こっています。見守りを積極的に謳っているわけではありませんが、有事の際の基本的な対応マニュアルに基づいて行動することにしています。が、それでも限界を感じているというのが正直なところです。

今回の調査研究事業では、配食サービス事業者、歯科医師会、栄養士会、そして行政と一緒に議論を重ねました。それぞれの分野で果たす役割を横串で繋ぎ、連携を考える大きなヒントが見つかったような気がします。

当然、見守り機能が期待されるわけですが、それだけではなく思いや願いを実現するための情報を届ける・・・これもまた重要な役割だと確信しました。

残念な事象を受け、現在、各市町村と協議を進めています。その中で、ある地域包括支援センターの方が言います。「地域に役立つセンターでありたいと願っているが、その存在自体がまだまだ地域に認知されていない」と。こういった情報を夕食宅配事業利用者に届けることも同じことだと考えています。

個人的には今後、こうした取り組みが発展して地域に根づき、次の段階として地域そのものがこういった機能を有した社会に変わっていけたら、どれだけ素晴らしいことか。

地域の中で孤立することなく一人ひとりが繋がり、助け合い、支え合う、そして様々な情報が行き届いて「安心できる暮らし」や「人としての豊かさ」を実現できる社会づくりに繋がっていく・・・まさにならコープの第9次中期計画で掲げたテーマの『たすけあい、ささえあい、わかちあい』の社会形成こそがこれからの大きな課題であり夢でもあります。

さて、当然のことですが配食サービスは事業として成立しなければ存続できません。これまで撤退を余儀なくされた事業者の最大の要因は事業の不採算性であると聞きます。やはりきれいごとでは済まされない現実もそこにはあります。もちろん事業者としての最大の努力を惜しみませんが、ここでも何らかの連携ができないかと考えることがあります。

配食サービス事業者の立場から行政に対して期待することは、経済的支援はともかくとして、見守りにおける連携、広報や紹介活動などの協力や配達スタッフへの援助（とりわけ都市部から離れた地域での展開）、また今回のような場づくりに積極的に関与頂き、活発な議論とそのことによる豊かな暮らし実現へのリードと実践です。

最後になりましたが、今回のような機会に恵まれたことに感謝申し上げると同時に、遠藤委員長をはじめ委員会の皆様、そしてNPO シルバー総合研究所のご尽力に改めてこの場をお借りし、御礼申し上げます次第です。

以上

「配食サービスと医療・介護との連携のあり方に関する調査研究事業」の参加して

市民生活協同組合 CSR 経営管理 前川 道子

委員会に参加させていただいた私は、ならコープの「困ったときはお互いさま！」で高齢者の方を中心とした家事支援や子育て支援をする、有償ボランティアグループ「コープたすけあいの会」の事務局として、組合員の方から“ちょっと手伝って！”の生の声が聞こえる場所にいます。

9月18日からの委員会と高齢者ソフト食調理実習勉強会、1月23日に行われたシンポジウムを通して、さまざまなことを知る機会を与えていただきました。

調査研究事業の中で行われた配食サービス利用者に対するアンケートの結果から、配食を利用するいくつかの理由があげられていましたが、買い物に行くことが難しくなった、調理をするのが難しくなったけれど、栄養のバランスが取れた食事を食べたいとの思いが見て取れました。

高齢者世帯や一人住まいの方たちの食生活の充実や体調維持のためにも、配食はこれからますます大切なサービスになると思います。配達を担当する職員は、お弁当を届ける時にわずかな声掛けや交流でも、高齢者にとってはホットするひと時になるのではないでしょうか。コープたすけあいの会の活動も、高齢者からの依頼が大半です。私達は活動を通じて、見守りの役割を担うことができる一人だと意識することができました。会報や研修の場を通じて会員への周知をはかりたいと思います。

参加させていただいて本当に良かったことは、違った立場の委員が、地域の高齢者や障害者を誰がどのように支えあえば、安心して暮らすことが出来るかを共に考える機会を与えていただいたことでした。ソフト食についての知識は全くありませんでしたが、学習と調理実習勉強会に参加できたことで、今後の食事づくりに生かすヒントをいただきました。

シンポジウムの開催地が奈良県だったことで、県内で働く事業所の職員が多く参加出来て、学び情報共有できたことは幸運だったと思います。

今回の委員会・シンポジウムを通じて、在宅で生活する高齢者の問題解決の糸口が見出せたとは言えませんが、問題の洗い出しの第一歩は踏み出した気がします。誰がどのように支え・見守るのかは、これからの大きな課題だと思います。高齢者や家族の自助努力にも限界があると感じていますし、どうにもならないこともあると思います。それぞれのご家庭の事情を抱えて「コープたすけあいの会」に活動依頼をいただきます。相談や依頼内容は実にさまざまで、一組織だけががんばっても出来る事はほんの僅かで、力不足に悩むことも多い毎日です。

広い視野に立って“街づくり”として支えあうシステムを作ることを始めない限り、高齢者が安心して住める街にはならないと感じています。

社会的な背景を熟知しさまざまなデータ持つ奈良県や市が中心となって、それぞれの地域にある資源、NPOやボランティア組織などを分野別に横に繋ぐ“場づくり”を是非お願いしたいと思います。そこからさらに多くの市民に呼びかけ、地域にいくつもの支えあう輪ができればと願います。

第

4

章

事業の考察

事業の考察～配食サービスと医療・介護の連携に向けて

独居や高齢者のみ世帯が急増しており、今後配食サービスは重要な在宅サービスと位置づけられる。

配食サービスは、配食だけでない安否確認や利用者の精神的支え等、意義ある機能を有しており、専門職との連携が進めば、地域で果たす役割はさらに大きいと考えられる。

本事業は、多様化している高齢者のライフスタイルや、高齢者を地域で支えていく「まちづくり」のための地域包括ケアを視野に入れ、配食サービスの機能や医療・介護との地域連携を検討することを目的として行った。

以下事業の実施によって得られた結果について考察した。

① 配食サービス事業者と地域連携

配食サービス事業者へのアンケートでは、地域包括支援センター、医療機関、介護サービス事業者、民生委員、自治会、社会福祉協議会といった地域資源との連携を求める声が多かった。具体的には、食事支援を始めるときに、食事内容や緊急時の対応等の情報交換を、利用者が既に利用している介護サービス事業者と行いたいという意見、配達時に火の不始末等の兆候を発見した時や、認知症の症状が進んだと思われる時等に、ケアマネジャーや訪問介護職等に伝え、相談したいといった意見等だった。また、安否確認に関しては、配食サービス事業者のみで行うのでは、発見したときの対応等に限界があり、民生委員や自治会と連携体制を築きたいとのことだった。

これら課題解決のために、既に地域包括センターやケアマネジャー、介護サービス事業者と連携体制を構築している配食サービス事業者もあった。シンポジウムで発表された先進事例は、緊急時や変化を発見した時の地域連携についてマニュアルを整備していた。このような例が見られたのは、地域支援事業の配食サービス事業者であった。

これらのことより、配食サービス事業者を地域包括ケア体制の一員として捉え、地域ケア会議への参加や、地域包括支援センター等との連携強化を進める必要があると考えられた。

また、地域連携は、緊急時や情報収集だけにとどまらず、地域包括ケアの情報発信の手段として活用することも考えられた。シンポジウムでは、参加した地域の歯科衛生士の提案で、配達の際に啓発チラシを同封することによって、口腔ケアの知識を普及したいというアイデアが出ていた。

一方、民間事業者が行う配食サービスにおいても、シンポジウムでは高齢利用者のとじこもりや孤独死等への対応不安があげられていた。現行の地域支援事業の配食サービスでは、1世帯1食から多くても2食が限度である。利用者側から見れば、健康にリスクを抱える高齢者においても、全額自費ではあるが、民間事業者の配食を利用している層が一定数いるのではないかと考えられる。民間事業者が行う配食サービスも、緊急時対応や介護予防的観点から、地域包括支援センターや行政との何らかのネットワークを構築すべきではないだろうか。そのメリットとして、先にも触れたが、行政からの情報発信（口腔ケアや栄養管理、認知症を含めた生活習慣病予防の大切さや、ケアの方法の情報発信）等早い段階からの介護予防啓発が考えられる。

② 配食サービスの機能強化

地域支援の配食サービスでは、安否確認がサービスとして明確に位置づけられている。利用者へのアンケートでは、精神的な支えを求める声が多く、重要なサービスであることが明らかである。シンポジウムではさらに、配食サービスの機能強化として、見守り機能の強化を求める声が上がっていた。

管理栄養士や歯科医師、歯科衛生士の視点からは、残食量のチェックやアルブミン値、口腔機能の状態等の情報収集が必要との声があがっていた。日常的には、配達の際に、健康状態についてコミュニケーションを図り、早期に変化を捉え、専門職へ情報提供することが求められていた。

これらの見守り機能が強化されれば、閉じこもり防止や認知症の早期発見等につながる可能性がある。地域高齢者が抱える諸問題について、配食サービスを中心とした解決の糸口となるのではないだろうか。地域の専門職と連携することで、配食サービスが潜在的に持つ情報収集力や情報伝達力を、地域包括ケアに活かすことができると考える。

また、利用者へのアンケートでは、土日祝日の配達希望や味付け、メニューが選択できること、柔軟な調理の方法等、利用者本位のメニューづくりやサービスの多様化を求める声が多く上がっていた。高齢者の中には、価格が高くても、サービスの充実を求める層もある。

これらの要望をサービスに反映していくため、配食サービス事業者の内部に利用者の声を拾い上げ、運営やサービスに反映していく仕組みづくりが必要である。

③ 配食サービス事業者を支える体制づくり

配食サービス事業者を支える体制づくりは、自治体が担う必要があると考える。地域連携のための場づくりや、配食サービスの機能強化のための取り組み等である。

地域連携のための場づくりでは、地域連携連絡会議等の立ち上げによって、地域の高齢者を支える業種が役割を共有する場が必要である。また、配食サービス事業者同士の横のつながりを強化する、事業者協議会の発足が考えられる。協議会では、事例検討や採算性の検討等を通して、情報発信の役割を担うことが重要である。

配食サービスの機能強化では、配達員のアセスメント力や対応力の強化のための研修が必要である。奈良市では既に取り組み始めているが、経営者や管理栄養士、配達員を対象にした栄養、口腔機能、認知症、緊急時の対応等の研修を充実していく必要がある。

今回の事業は、奈良県という特定地域での調査だった。他県においても共通部分は多いと思われるが、県市町村によって状況が異なることは十分に考えられる。また、アンケート調査に関しては、地域支援事業の配食サービス事業者と民間の配食サービス事業者のサンプル数が十分ではなかった。

今後調査対象地域を広げ、さらに多くの声を集め、結果を精査していくことが必要である。

また、高齢者の食を支えるという視点では、配食サービスだけでなく、会食機会の提供や買い物支援、調理支援等も考えられる。これらについても現状調査が必要だと思われる。

食べることは生きる歓びである。食は私たちの生活基盤の重要な要素であり、配食サービスは、高齢者の暮らしを支えるサービスとして重要な役割を果たしている。

今後の超高齢者社会の深化に伴って、「食」、「見守り」、「介護予防」の視点を中心とした、高齢者にやさしい「まちづくり」を計画していくことが求められる。

The background features several overlapping circles in various shades of gray. A thin, solid black horizontal line spans the width of the page, positioned slightly below the center. The text '資料編' is centered horizontally and partially overlaps the horizontal line.

資料編

● 配食サービスと医療・介護との連携
のあり方に関するアンケート調査

調査票

配食サービス事業者の皆様へ

配食サービスと医療・介護との連携のあり方に関するアンケート調査 調査ご協力のお願い

平素より格別のご高配を賜り お礼申し上げます。

厚生労働省の公表資料では、今後 10 年間のうちに、75 歳以上の後期高齢者や認知症高齢者、そして、独居・高齢者世帯が全国的に増え続けることが示されています。その状況を背景に、介護保険制度や医療保険制度でも相互の連携が着目され、特に高齢者およびその家族を共通の利用者とする介護サービス事業者や医療機関、また、関連サービスの間でどのように情報を共有し、協力していくかが大きな課題とされています。

現在、在宅の高齢者等に対する配食サービスは、配食だけでなく、安否確認や精神的な支えといった、今日的に重要な機能を持っており、医療および介護の専門職との連携が進められれば、地域で果たす役割はさらに大きくなるものと考えています。

そこで、この度、在宅の高齢者等の食を支える柱となっている配食サービス事業者の皆様とその利用者の方々を対象として、配食サービスの現状と医療や介護サービスとの連携の実態を把握するためのアンケート調査を、厚生労働省の補助事業（平成 22 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業）の一環として実施することと致しました。

配食サービス事業者の皆様には、事業者としてのご回答とともに、一定要件の利用者の方々へのアンケート票の配布と回収をお願いする内容となっております。アンケートの内容は、在宅での医療や介護等に関するものが含まれていますが、必ずしも現在そのような状況にある方だけを対象としているものではなく、ご利用者の皆様にも誤解のないよう、その旨は利用者向けの依頼状にも明記しております。本調査の趣旨をご理解頂き、ご協力の程 何卒宜しくお願い申し上げます。

なお、アンケート調査の結果は、本事業の一部として開催する「配食サービスと医療・介護の連携に関する地域セミナー（平成 23 年 1 月予定）」において公表・報告させて頂く予定でございます。

配食サービスと医療・介護との連携のあり方に関する調査研究事業 研究会

委員長 遠藤 英俊

（協力 奈良県、奈良市、県歯科医師会、県栄養士会、市民生活協同組合ならこぼ）

（事業実施主体 NPOシルバー総合研究所）

アンケート調査実施要綱

1. 調査名 配食サービスと医療・介護との連携のあり方に関するアンケート調査

2. 対象 奈良県内の配食サービス事業者 および サービス利用者

3. 配布および回収について

(1) お送りした封書(宅配便)の確認

○事業者用アンケート … 挨拶状(本紙)、アンケート用紙(ピンク)

○利用者用アンケート 1名様分 … 挨拶状、アンケート用紙(白)をA4茶封筒に入れたものを人数分

○回答返信用の大判茶封筒(宅配便) および 着払い用伝票

(2) 配布および回収の手順

①利用者宅への訪問時に「利用者アンケート」(1名分の茶封筒)をお渡しください

②利用者には以下のご説明をお願いします。

i) “1週間”を目安にご回答を頂きたいこと

ii) 回答は手渡したときのA4版の茶封筒に入れて準備頂くこと

iii) 1週間後の訪問時に事業者にお渡し頂きたいこと

iv) 回答は任意であること(なるべく回答頂くようお願いしてください)

③概ね1週間後に、利用者からアンケート回答(茶封筒)を回収してください

※その際、回答済のアンケート用紙が入っているかを確認して下さい。

全てに回答されているかどうかの確認は不要です。

④利用者アンケート回答封筒と事業者用アンケート回答を、回答返信用の大判茶封筒に

まとめて封入の上、NPOシルバー総合研究所宛てにお送りください

(住所は着払い伝票に記入済です)

4. 回答〆切について

平成22年 11月 22日(月)

までに宅配便のお手続をお願い致します

5. お問い合わせ連絡先

事業実施主体 NPOシルバー総合研究所

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-12-5 3F

TEL 03-5425-2383 Email info@silver-soken.com

調査業務委託 (株)ニッセイ基礎研究所(担当 阿部)

TEL 03-3512-1811 Email abe@nli-research.co.jp

I 基本情報について … 貴事業所の基本情報について ご回答ください

事業所名			設立年 (事業開始)	西暦 ()年
運営主体 (法人種類)	1. 社会福祉法人(社協以外) 2. 社協 3. 営利法人 4. 医療法人 5. 生協 6. NPO法人 7. その他()			
運営方法 (業務内容)	食材料調達	1. 自社のみで対応	2. グループ共同で対応	3. 外部委託 4. その他
	調理	1. 自社のみで対応	2. グループ共同で対応	3. 外部委託 4. その他
	デリバリ・回収	1. 自社のみで対応	2. グループ共同で対応	3. 外部委託 4. その他
スタッフ	①常勤者	うち 管理栄養士	②非常勤者	うち 管理栄養士
	人	人	人	人
配食提供食数 利用人数 (2010.10)	①提供食数	うち おかずのみ	②利用人数	うち 3食とも利用
	食/月	食	人/月	人

II サービス提供について … 貴事業所で提供しているサービスについて ご回答ください

アセスメント の頻度	どのくらいの頻度で利用者のアセスメントをしていますか 1. 契約時のみ 2. 定期的に → (具体的に) 3. 必要に応じて			
アセスメント の項目 (主なもの)	アセスメントでチェックする項目について、当てはまるもの <u>全てに</u> ○を付けてください			
	①属性・環境	1. 現疾患 2. 服薬状況 3. 同居家族 4. 日常の調理者		
	②食習慣等	1. 食事回数 2. 食形態 3. 間食 4. 好き・嫌い 5. アレルギー		
	③栄養状態	1. 身長・体重 2. 体重変化 3. 血清アルブミン値 4. 食事摂取量		
	④ケアの状況	1. 食事介助の有無(程度) 2. ムセの有無(程度) 3. 義歯の有無		
提供メニュー	提供メニューについて、当てはまるもの <u>全てに</u> ○を付けてください 1. 普通食 2. 治療食(下にも回答) 3. 刻み食等の介護食 4. ソフト食※ ※ソフト食とは、医学的な研究データや実践の積み重ねに基づいた、やわらかく、口の中でまとまりやすく、 スムーズに飲み込むことができ、さらに 味も見た目も満足してもらえる高齢者にやさしい食事を言います			
	「2. 治療食」を提供する場合、具体的に提供しているもの <u>全てに</u> ○を付けてください 1. 糖尿病食 2. 心臓病食 3. 高脂血症食 4. その他()			
1食あたりの 価格設定	通常メニューの価格(自己負担込)、地域支援事業の適用、利用者自己負担額について、昼食、夕食に分けてそれぞれ回答してください			
		価格(自己負担込)	地域支援事業の適用	利用者自己負担額
	昼食	()円/1食	1. あり 2. なし	()円/1食
夕食	()円/1食	1. あり 2. なし	()円/1食	

(続き)

容 器	容器の種類について、当てはまるもの <u>全てに</u> ○を付けてください 1. プラスチック製 2. 陶磁器 3. 紙等の使い捨て容器 4. その他()
残食の チェック	1. チェックしている 2. していない (理由)
付随サービスの 有無	配食以外に提供しているサービスについて、当てはまるもの <u>全てに</u> ○を付けてください 1. 安否確認 2. 健康チェック 3. ゴミだし 4. 食事会の開催 5. その他()
利用者調査	アセスメントの他に、利用者のニーズ等について調査(アンケートなど)をしていますか 1. 行っている (頻度・方法など具体的に) 2. していない

Ⅲ 他の事業者等との連携について … 日常の他事業所等との連携について ご回答ください

連携・相談 する相手先 とその内容	サービス提供にあたって、以下に挙げた状況や課題について、日常的に連携・相談している先 はありますか、連携・相談先がある場合、具体的な内容についても簡単に記入して下さい			
	状況や 課題	連携・相談先 (下の選択肢から当てはまる番号を 選び <u>全てに</u> ○を付けてください)	具体的な連携・相談内容	
	えん下の 状態	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 5 ・ 6 ・ 7		
	栄養状態 の変化	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 5 ・ 6 ・ 7	例) 残食が多くなってきたらケアマネジャーに連絡している	
	認知症の 兆候	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 5 ・ 6 ・ 7	例) もの忘れが多くなったかと思ったら主治医に連絡している	
	閉じこもり や安否	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 5 ・ 6 ・ 7		
	その他 ()	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 5 ・ 6 ・ 7		
<table border="1"> <tr> <td>連携・相談先 の選択肢</td> <td>1. 提携の医療機関 2. 利用者の主治医 3. 介護サービス事業者・施設 4. 地域包括支援センター 5. 市町村(行政) 6. その他 7. 特になし</td> </tr> </table>			連携・相談先 の選択肢	1. 提携の医療機関 2. 利用者の主治医 3. 介護サービス事業者・施設 4. 地域包括支援センター 5. 市町村(行政) 6. その他 7. 特になし
連携・相談先 の選択肢	1. 提携の医療機関 2. 利用者の主治医 3. 介護サービス事業者・施設 4. 地域包括支援センター 5. 市町村(行政) 6. その他 7. 特になし			
医療や介護 との連携	サービス提供において、医療(医師・医療関連職)や介護(サービス事業所・ケアマネジャーや 地域包括支援センター)との連携が必要と感じますか 1. 感じる(下①へ) 2. あまり感じない(下②へ) 3. 分からない			
	①「感じる」場合、具体的にどのような場面、どのような内容で連携できればよいと考えますか			
	②「あまり感じない」場合、その理由を簡単に記入してください			

IV 課題について … サービス実施にあたっての課題について ご回答ください

配食サービス そのものに 関する課題 (メニューや 調理コスト等 について)	サービスそのものに関する課題として 当てはまるもの <u>全てに</u> ☐ を付けてください 1. 食材価格の変動をサービス価格に反映できない(値上げしにくい) 2. サービスメニュー(食形態や内容)を多様化するのが難しい 3. 需給バランスがとれていない(利用者が集まらない、スタッフ不足) 4. 自己負担の回収がうまくいっていない 5. その他 () 上記の回答(その他以外でも)について、具体的な状況や理由等を記入してください
配食サービス 提供上の課題 (配達時間や 緊急対応等 について)	サービス提供上の課題として 当てはまるもの <u>全てに</u> ☐ を付けてください 1. 利用者の希望時間に応じた配達が難しい 2. 訪問時の緊急事態等への対応が難しい(どこに連絡したらいいかわからない) 3. 調理や配送準備などの事業所拠点を拡大できない(家賃や場所確保の問題で) 4. 対応エリアが広がりすぎて、配食の希望があっても対応できない 5. その他 () 上記の回答(その他以外でも)について、具体的な状況や理由等を記入してください
公的制度等 に関する課題	公的制度等に関する課題について 当てはまるもの <u>全てに</u> ☐ を付けてください 1. 利用者負担補助の額が少ない 2. 資金不足等により、利用者拡大のための広告や営業活動を行いにくい 3. 公的補助を受けているため、サービス提供を断ることができない(遠方宅への配達等) 4. 事業所への公的助成金(補助金)等がなく、経営・事業継続が困難になっている 5. その他 () 上記の回答(その他以外でも)について、具体的な状況や理由等を記入してください
その他 自由意見	配食サービス全体について、医療や介護との連携の観点から ご意見があれば、自由にご記入ください

ご担当者(ご記入者)

連絡先 TEL _____

Email _____

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。利用者へのアンケート配布につきましても、宜しく願い致します。

配食サービスと医療・介護との連携のあり方に関するアンケート調査

ご協力をお願い

このアンケートは、現在、配食サービスを利用されている皆様に、サービスの利用状況やご意見などをお伺いし、今後ますます利用が多くなると予想される高齢者や在宅での医療や介護を必要とされる方々へのよりよいサービス提供のため、サービス事業者と医療や介護の専門スタッフとの十分な協力体制を実現していく検討の資料とさせていただきます。現在、必ずしも、医療や介護を必要とされない方にも、アンケート票を配布させていただきます。現在、必ずしも、医療や介護を必要とされない方にも、アンケート票を配布させていただきます。現在、必ずしも、医療や介護を必要とされない方にも、アンケート票を配布させていただきます。

アンケートは配食サービスの事業者のご協力を頂きながら実施しています。アンケート用紙は、受け取った日から1週間くらいを目安に回答していただき、アンケート用紙とともにお受け取りになった茶色の封筒に入れて、またサービス事業者にお渡しください。

※なるべく多くの皆様にご回答をお願いしていますが、回答はあくまで任意のもので強制ではありません。回答の内容や回答しないことが、サービスに影響すること、もちろんありません。※質問には、ご本人を特定できるような回答はありません。また、回答は他の回答と合わせて集計結果として公表されますが、それ以外の目的で回答が使用されることはありません。

アンケート実施主体 NPOシルバー総合研究所
(協力 奈良県、奈良市、県歯科医師会、県栄養士会、市民生活協同組合ならこぼ)

アンケートに関するお問合せ先

NPOシルバー総合研究所 (担当 桑野)
〒105-0013 東京都港区浜松町 1-12-4-3F
TEL 03-5425-2383
FAX 03-5405-1184
Email info@silver-socket.com

Q1 ご自身のこと(性別や居住地域など) について教えてください

- 1-1 性別 1. 男性 2. 女性
- 1-2 年齢 () 歳
- 1-3 要介護度 (○は1つ)
1. 自立 2. 要支援1 3. 要支援2 4. 要介護1 5. 要介護2
6. 要介護3 7. 要介護4 8. 要介護5 9. 申請していない
- 1-4 居住地域 (○は1つ)
1. 北部 (奈良市、生駒市、大和郡山市、天理市、田原本町 など)
2. 西部 (平群町、斑鳩町、三郷町 など)
3. 中部 (大和高田市、橿原市、御所市、高芝市 など)
4. 東部 (桜井市、宇陀市、曽爾村、御杖村)
5. 南東部 (吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村 など)
6. 南西部 (五条市、野迫川村、十津川村)
区分が分からない場合は市町村名を記入してください ()
- 1-5 世帯構成 (○は1つ)
1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ世帯 3. 子ども夫婦と同居
4. 子どもと同居 5. 兄弟姉妹と同居 6. その他 ()
- 1-6 受給年金種類 (○は1つ)
1. 老齢福祉年金 2. 遺族年金 3. 厚生年金 4. その他

Q2 配食サービスの利用 について教えてください

2-1 配食サービスの利用期間はどのくらいですか（現在の事業者に限らず）

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| 1. 半年未満 | 2. 半年～1年未満 | 3. 1～3年未満 |
| 4. 3～5年未満 | 5. 5年以上 | |

2-2 利用したきっかけとなったことは何ですか、あてはまるもの 全てに ○を付けてください

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 調理するのが難しくなったから | 2. 買い物に行くのが難しくなったから |
| 3. 火を使うのが難しくなったから | 4. 美味しいと評判だったから |
| 5. 料理するのが下手だから | 6. 栄養のバランスがとれているから |
| 7. その他（ | ） |

2-3 現在の事業者を選んだ理由は何か、あてはまるもの 全てに ○を付けてください

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 役所でもった一覧表から選んだ | 2. ケアマネジャーに相談して選んだ |
| 3. 利用している介護サービス業者に相談して選んだ | |
| 4. 家族や知人に教えてもらって選んだ | 5. チラシや広告などを見て選んだ |
| 6. インターネットの情報を見て選んだ | 7. その他（ |

2-4 現在利用している配食サービスの内容について 教えてください

- ① 利用し始めるときに契約はしましたか（契約書はありますか）
1. 契約した（契約書ある） 2. 特に契約はしていない（契約書なし）

② 週に何回くらい利用していますか（○はそれぞれ1つ）

- | | | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 【昼食】 | 1. 1回 | 2. 2回 | 3. 3回 | 4. 4回 | 5. 5回 | 6. 6回 | 7. 毎日 |
| 【夕食】 | 1. 1回 | 2. 2回 | 3. 3回 | 4. 4回 | 5. 5回 | 6. 6回 | 7. 毎日 |

③ どのような食事を頼んでいますか（○は1つ）

- | |
|--|
| 1. 普通食 |
| 2. 治療食（糖尿病や透析、心臓病、高脂血症の方むけの食事） |
| 3. 介護食（さざみ食、ミキサー食など） |
| 4. ソフト食（やわらかくて口の中でまとまりやすく、スムーズに飲み込め、さらに味も見た目も満足してもらえる高齢者にやさしい食事） |

④ 1食あたりの利用料（実際のご負担額）はいくらですか（○は1つ）

- | | | |
|------------------|------------------|----------------|
| 1. 300 円未満 | 2. 300 円～500 円未満 | 3. 500～700 円未満 |
| 4. 700 円～900 円未満 | 5. 900 円以上 | |

2-5 食事（お弁当）はどれくらい食べますか（○は1つ）

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. ほとんど食べる | 2. 日によって残すことがある |
| 3. だいたい残してしまう（下にも回答してください） | |
| →（ | ）割くくらい残す |
| → 残す一番の理由（ | ） |

2-6 配食サービスの満足度について教えてください（○はそれぞれ1つ）

- | | | | | |
|-------------|-------|---------|---------|-------|
| ① 味 | 1. 満足 | 2. ほぼ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
| ② 献立 | 1. 満足 | 2. ほぼ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
| ③ 量 | 1. 満足 | 2. ほぼ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
| ④ 容器 | 1. 満足 | 2. ほぼ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
| ⑤ 配達（時間や対応） | 1. 満足 | 2. ほぼ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
| ⑥ 値段 | 1. 満足 | 2. ほぼ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
| ⑦ 変更等への対応 | 1. 満足 | 2. ほぼ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |

4-4 身長と体重について教えてください

- ①身長 ()センチ
- ②体重 ()キロ

【食事(食べる事)について教えてください】

4-5 最近、どんなものが食べにくく(食べられなく)なりましただか、当てはまるもの 全てに

○を付けてください

1. お漬物 2. 果物(リンゴなど) 3. お煎餅 4. 肉類
5. その他 ()

4-6 歯の健康はどうですか (○は1つ)

1. 自分の歯で食べている
2. 部分入れ歯で食べている
3. 総入れ歯で食べている
4. 入れ歯はあるが使っていない
5. 歯や歯ぐきが痛いときがある

※介護食、治療食を注文している方に伺います。

4-7 食事や水でむせてしまうことはありませんか（○はそれぞれ1つ）

- | | | | |
|-----|---------|----------|-----------|
| ①食事 | 1. よくある | 2. たまにある | 3. ほとんどない |
| ②水 | 1. よくある | 2. たまにある | 3. ほとんどない |

4-8 いつ頃から介護食や治療食を利用するようになりましたか

(年 カ月) くらい前から

6

Q5 配食サービスに関するご意見やご感想を自由にご記入してください

[illegible]

質問は以上になります。ご協力ありがとうございました。
(回答用の白封筒に入れて、サービス担当者の方にお渡しください)

- 7 -

● 配食サービスと医療・介護との連携
を考えるシンポジウム

喜

食べることは生きる喜びです

～配食サービスと医療・介護の連携を考えるシンポジウム～

食

平成 23 年 1 月 23 日 (日) 会場：ならまちセンター

高齢者のみの世帯や独居高齢者が増加しています。その中で、高齢者の配食サービスは、配食だけでなく安否確認や利用者の精神的支え等、意義ある機能を有しており、今後地域で果たす役割はさらに大きくなると考えられます。

本シンポジウムでは、地域の高齢者を支えることを目的として、配食サービスを中心とした専門職の地域連携のあり方を考えます。



食と健康に関するリレー講座

奈良県歯科医師会……………正田農夫
管理栄養士……………黒田留美子
奈良県栄養士会……………砂村幸子

パネルディスカッション

「配食サービスと医療・介護の連携を考える」

座長 国立長寿医療研究センター 内科総合診療部長 遠藤英俊

参加費：無料

(事前に登録が必要です)

- 会場：ならまちセンター
〒630-8362 奈良市東寺林町38番地 TEL0742-27-1151
- 参加対象者：配食サービス事業に関連する専門職および一般
- 定員：100名
- 参加費：無料
- 参加申込：NPO シルバー総合研究所まで FAXにて受付
- 後援予定：奈良県、奈良市、奈良県歯科医師会、奈良県栄養士会、市民生活協同組合ならコープ
- 主催：NPO シルバー総合研究所



リレー講座 1

● 『いつまでも おいしく味わうために』

奈良県歯科医師会 副会長

奈良県立医科大学非常勤講師 正田 晨夫

シンポジウム
配食サービスと医療・介護
の連携を考える

2011年1月23日

いつまでも おいしく味わうために

奈良県歯科医師会 副会長

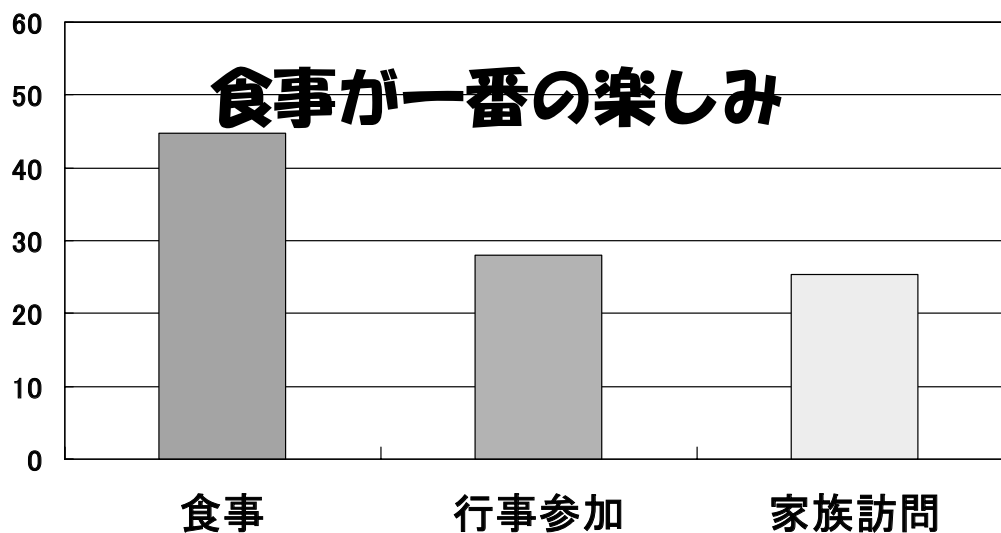
奈良県立医科大学非常勤講師 正田 晨夫

シルバー世代の楽しみは なんといっても 食べることが一番



特別養護老人ホームで楽しいこと

(%) アンケート調査しました

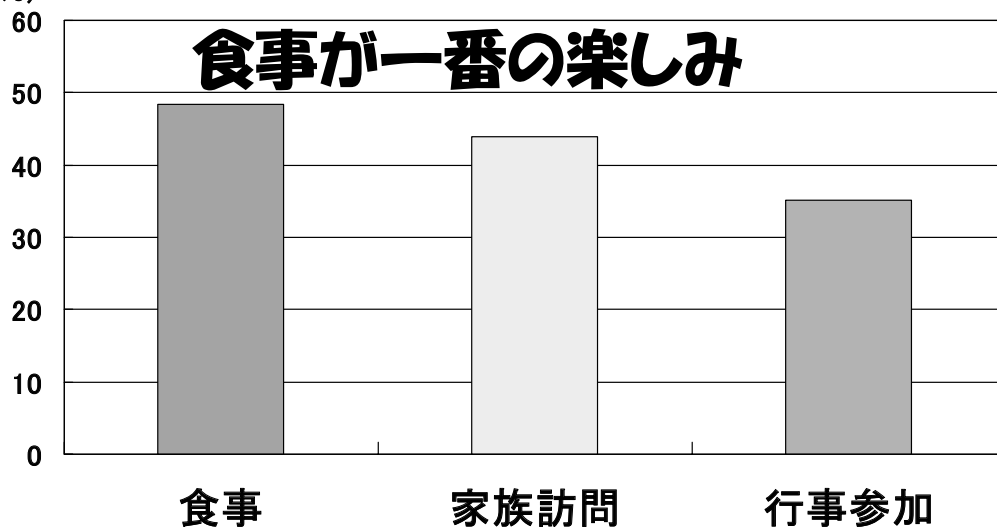


(複数回答可)

1998 加藤ら

老人保健施設で楽しいこと

(%)



(複数回答可)

1998 加藤ら

いつまでも おいしく 味わっていただく ためには

- お口から食べられなくなるのは なぜ？
どうなったら食べられなくなるの？
- 配食サービスでわかるお年寄りの健康
- お口から食べられなくなるとどうなるの
地域のみんなで見守ろう
- いつまでもお口から食べられるよう

お口から食べられなくなるのは なぜ？
どうなったら食べられなくなるの？

- 食べ物かどうか認識できない
- かめない
- 味がわからない
- のどに行かない
- むせて呑みこめない

お口から食べられなくなるのは なぜ？
どうなったら食べられなくなるの？

- 食べ物かどうか認識できない



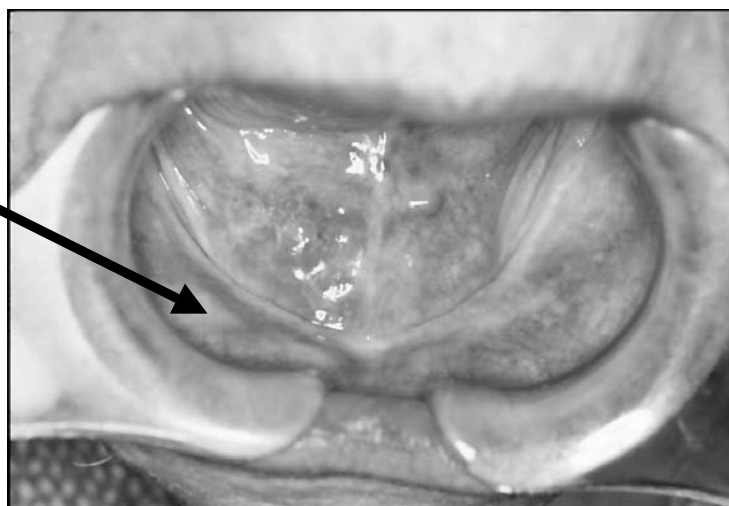
お口から食べられなくなるのは なぜ？
どうなったら食べられなくなるの？

- 食べ物かどうか認識できない
- かめない
- 味がわからない
- のどに行かない
- むせて呑みこめない

お口から食べられなくなるのは なぜ？
どうなったら食べられなくなるの？

■ かめない

歯ぐきの
土手がなくなつて



噛めなくなる原因とは・・・

1. 歯周病や虫歯になっている歯をそのまま放置している。
2. 入れ歯が合わなくなる。
3. 歯が抜けている所をそのままにしている。
4. 噛む筋肉(咀嚼能力)が衰えている
5. 舌や頬の機能が衰えている。



お口から食べられなくなるのは なぜ？
どうなったら食べられなくなるの？

■ かめない



お口から食べられなくなるのは なぜ？
どうなったら食べられなくなるの？

- 食べ物かどうか認識できない
- かめない
- 味がわからない
- のどに行かない
- むせて呑みこめない

お口から食べられなくなるのは なぜ？
どうなったら食べられなくなるの？

■ 味がわからない

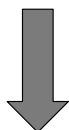
のどの奥までカラカラ
これではしゃべれないし
お味もわからない



知っていますか？

唾液が少ないと たいへん

一日の唾液分泌量
約1.5リットル



高齢者は、20代の成人に比べて
約7分の1に減少

唾液が少ないと たいへん

食物がパサパサのまま、
咀嚼や飲みこみが悪くなる
味もわかりにくくなる
おしゃべりがなめらかにできなくなる
総入れ歯の安定が悪くなり、ガタガタに
ちゃんと噛めず、歯肉に傷がつきやすくなる

お口から食べられなくなるのは なぜ？
どうなったら食べられなくなるの？

- 食べ物かどうか認識できない
- かめない
- 味がわからない
- のどに行かない
- むせて呑みこめない

お口から食べられなくなるのは なぜ？
どうなったら食べられなくなるの？

■ のどに行かない

よく噛む
＋
唾液とまざると
↓
のどに行く



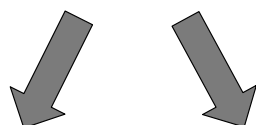
お口から食べられなくなるのは なぜ？
どうなったら食べられなくなるの？

- 食べ物かどうか認識できない
- かめない
- 味がわからない
- のどに行かない
- むせて呑みこめない

お口から食べられなくなるのは なぜ？
どうなったら食べられなくなるの？

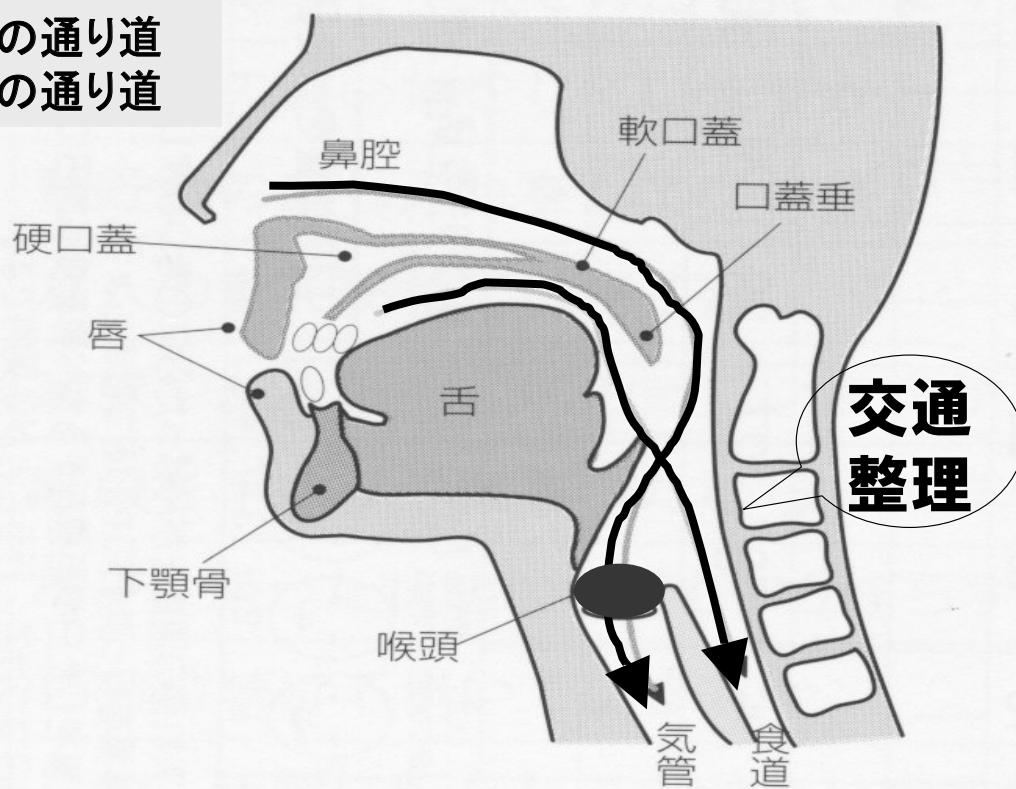
■ むせて呑みこめない

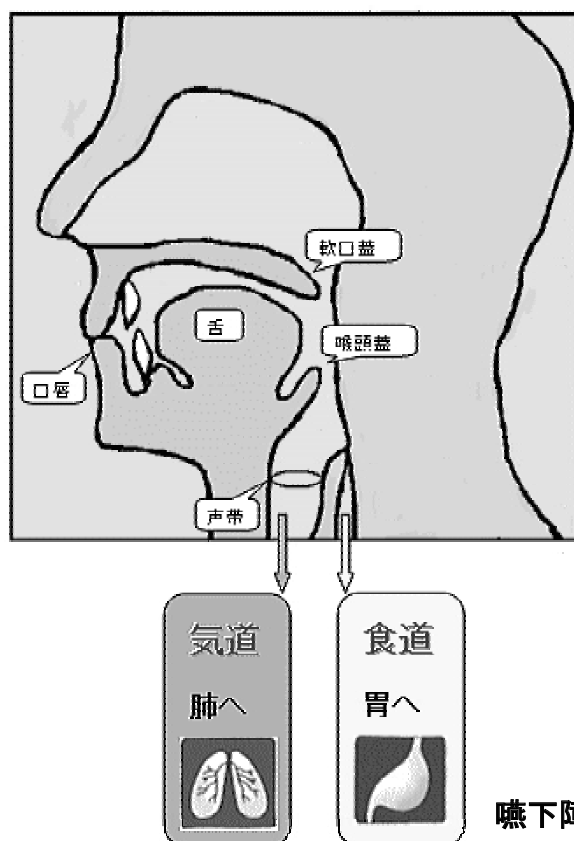
まちがって気管から肺にはいる...と



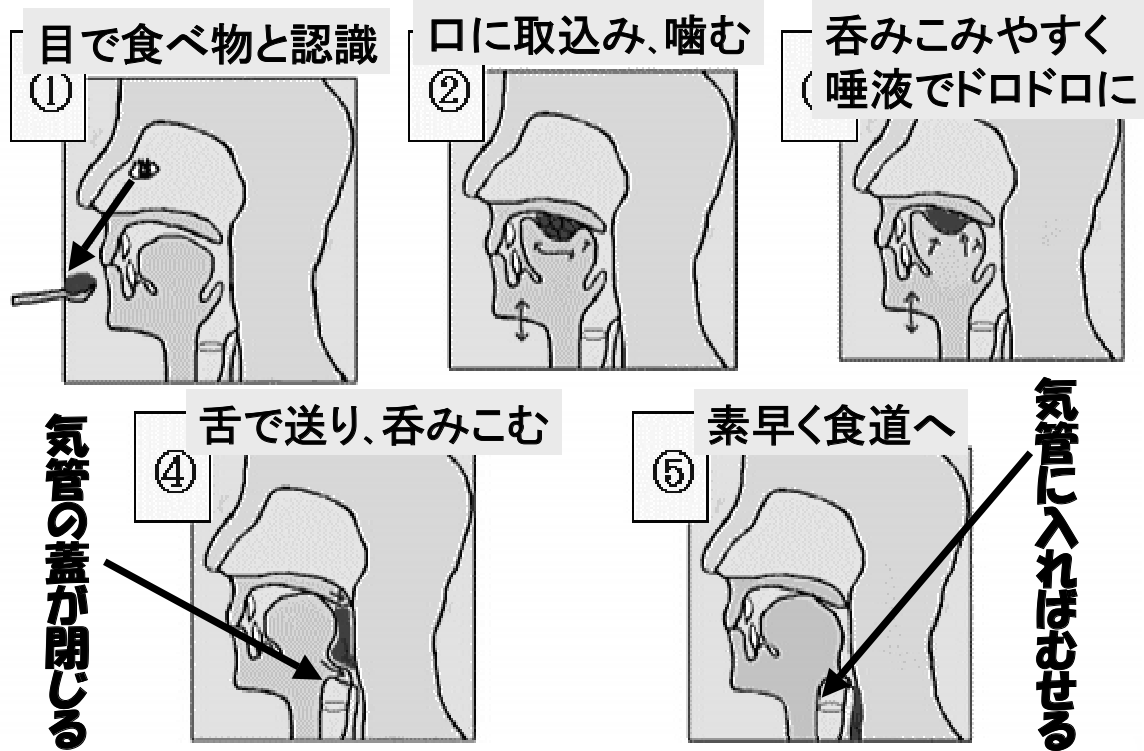
むせて苦しい 誤嚥性肺炎

空気の通り道
食物の通り道





嚥下障害とは<基礎編>より



嚥下障害とは<基礎編>より

○ 配食サービスでわかるお年寄りの健康

- だんだん残す量がふえてくる
- かたいものを残す
- やわらかい食事になる
- お汁物に手をつけなくなる

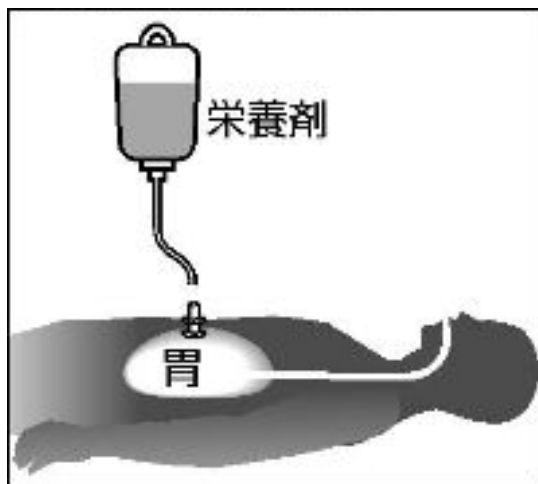
さらに進めば



注文がなくなってしまう???

お口から食べられなくなったらどうなるの？

胃瘻になる →→ 胃に直接食べ物を流し込む



どうすれば いつまでも お口から食べられるの

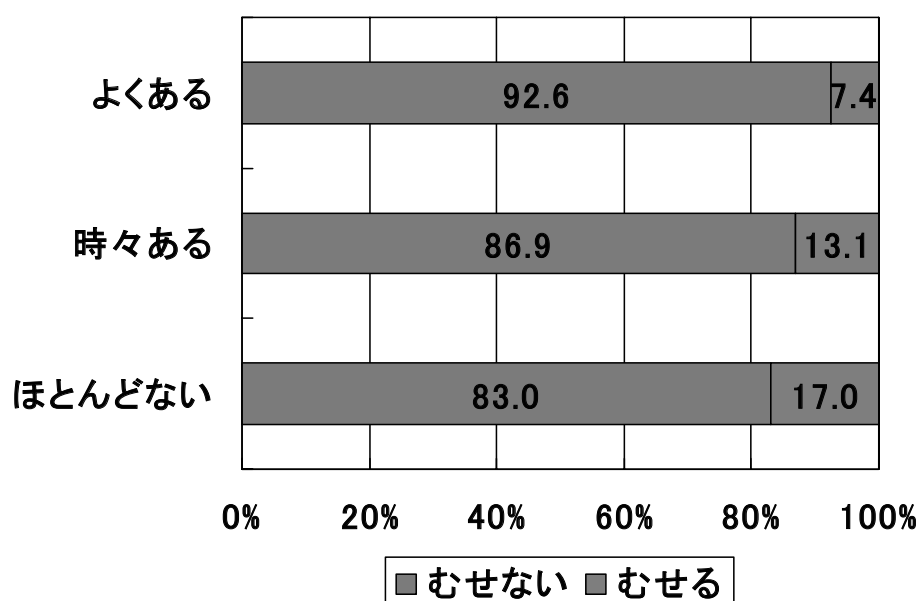
- 大きな声で挨拶をする
- たのしくお話をする
- 元気に明るく笑う
- よく体を動かす

- 保健センターや老人クラブ
などの集まりによく参加する

生活習慣とご飯にむせること

愛知県M町 在宅高齢者 769人

大きな声で笑う



鎌倉ら 1998



今年もうれしいお正月



孫となら大声で笑える

食べるときの お口の各部分の働きとは

くちびる



くちびるの働き

- 食べ物をはさみ、保持する
- 飲み込む時に口を閉じて圧力を高める
- 発音を調整する
- 表情を作る

口唇の閉鎖 ... 頭頸部の維持も

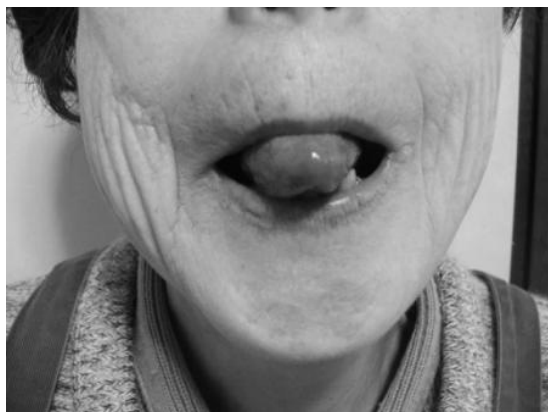


舌



👉舌のはたらき

- ・口に入れた食べ物を運ぶ
- ・やわらかな食べ物を上顎で押しつぶす
- ・食べ物の味を感じる
- ・発音を調整する



舌は十分出ますか

舌はしっかり
動きますか

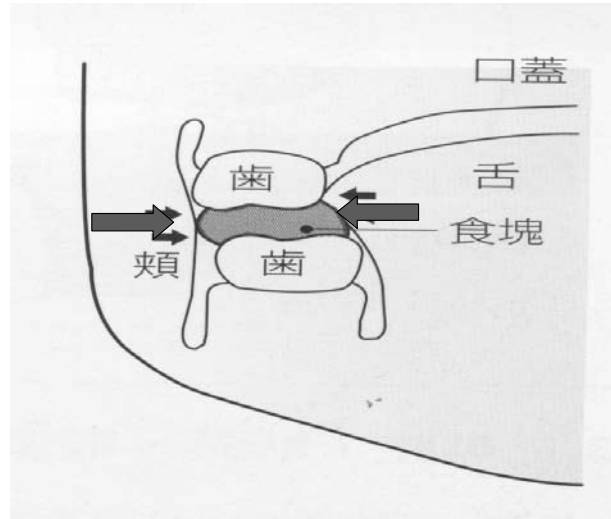


舌



と

頬



舌と頬の両方から、奥歯で
噛むときに食べ物が
動かないようにはさむ

頬



➡ 頬のはたらき

- 食べ物を飲み込む
時に口の中の圧力
を高める
- 表情を作る

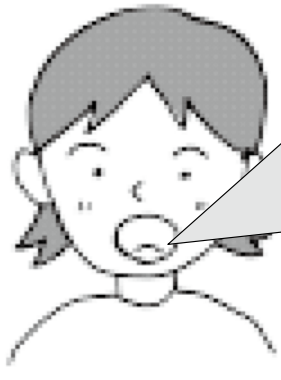


ご飯をちゃんと飲み込むには

しっかりと口を
閉じて、舌で上あご
を押さないと
飲み込みにくい！



「パ・タ・カ」の発声練習



食べ物を口に入れてからのどに送りこむまでの口の動きをする発声練習です！

パ

上下のくちびるがしっかり閉じる。
食べ物の取り込み、飲み込む時の動きに関連する。

タ

舌先を上の前歯の裏側に押し付ける。
食べ物を上あごでおしつぶす。

カ

舌の奥が口の天井に向かって持ち上がる。舌の上に集めた食べ物を、のどの奥に送り込む

ごそんじですか？

**介護予防事業
口腔機能向上サービスを**

市町村保健センターまたは
奈良県歯科医師会にお問い合わせを

**好きな演歌にあわせて
大きな声と腕を動かす嚥下訓練**



食べる機能が低下している人 入れ歯の人、



食べる機能をさらに
良くしていくために
口の体操や
腕のストレッチを
していきましょう。

風船バレーは目と腕の協調が必要

→ 手と口の協調



老健入所者の口腔内



歯磨きや
入れ歯の手入
れをすると
どんな効果が
ありますか？



保健センターで歯みがき指導



歯科衛生士による口腔清掃



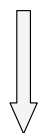
老健入所者

歯みがきや入れ歯の手入れをするのは・・・

- むし歯や歯周病を防ぐためだけでなく
- お口の中をきれいにすると味がわかる
- バイ菌を減らすと肺炎やインフルエンザの予防になる



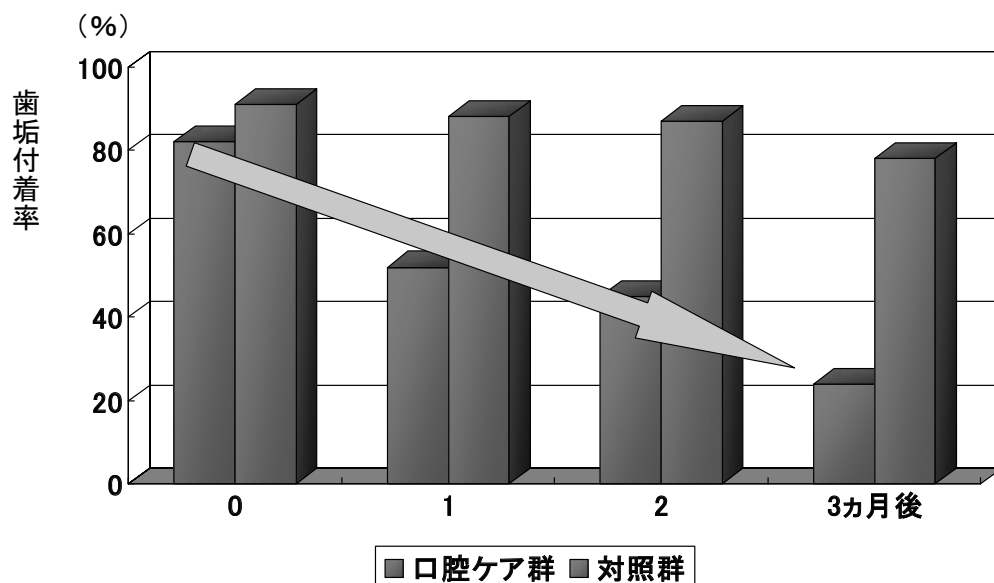
口腔ケア前



口腔ケア後



口腔ケアと歯垢付着

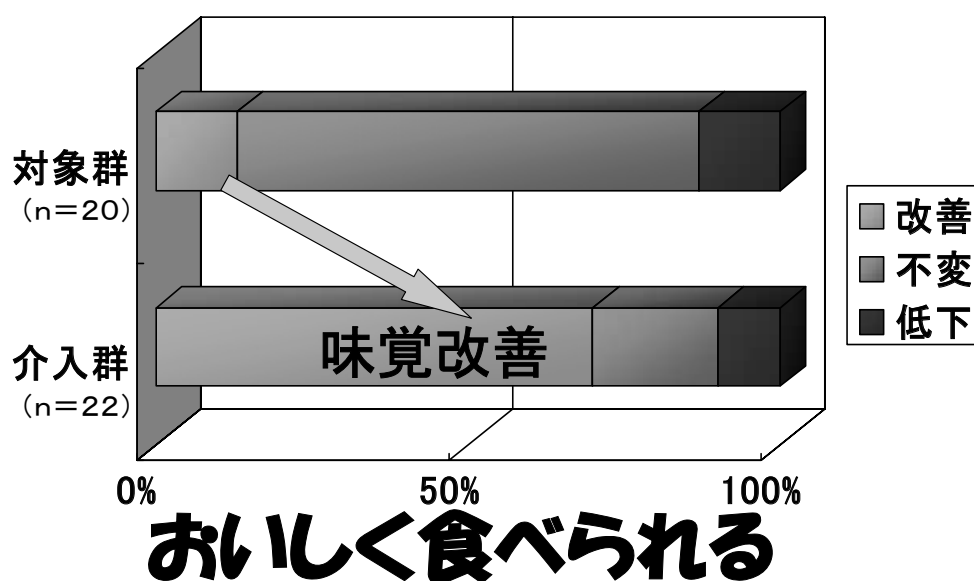


※長野県の特別養護老人ホーム入所者

歯垢付着率(%) = (歯垢の認められた歯面数) / (残存歯の合計歯面) × 100

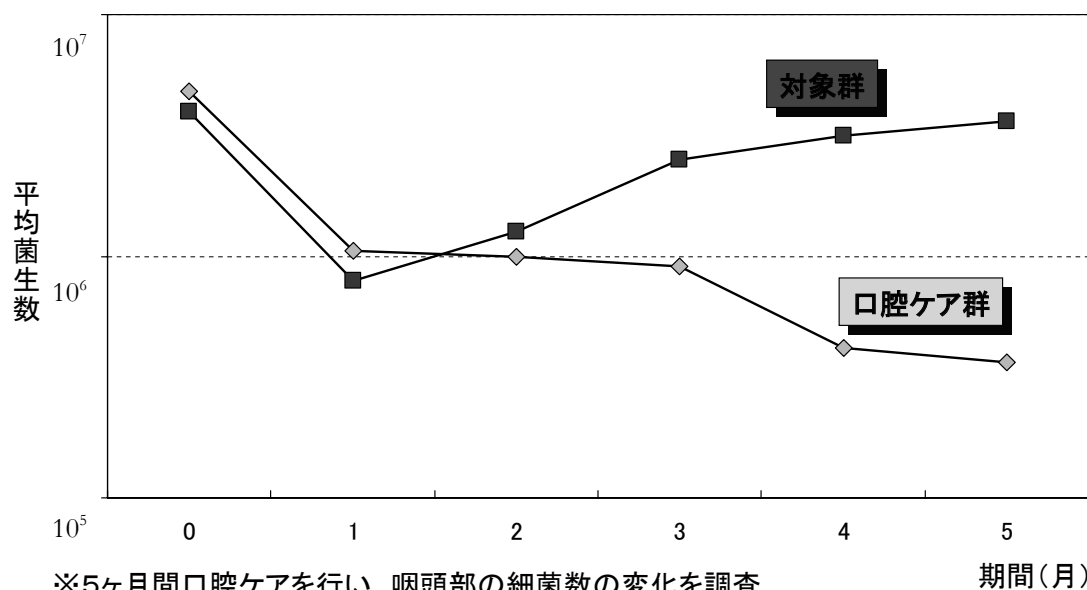
1997 米山ら

口腔ケアによる味覚変化



平成15年 森田ら

口腔ケアにより 細菌の数が減少する

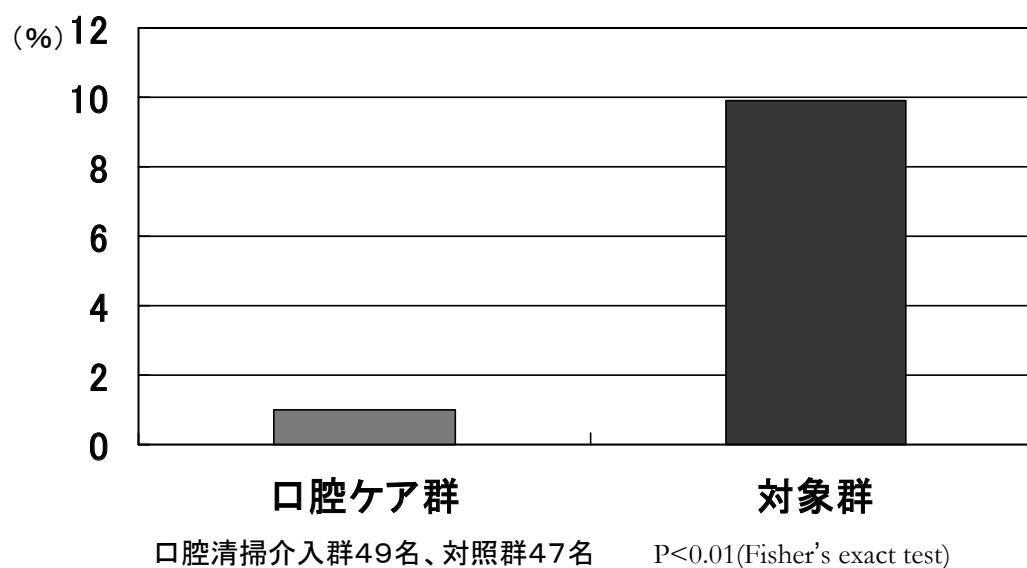


1997 米山ら

口腔ケアにより 誤嚥性肺炎が減る

**誤嚥性肺炎の発症頻度は
適切な口腔ケアによって
約40%低下させることができます**

口腔ケアにより インフルエンザの発症が10分の1に



2003, Marik PE, et.al.

ごそんじですか？

新しい介護予防サービス 口腔機能向上事業のことを

平成18年から始まっていますよ

口腔機能の向上



- ・味がわかるようになる
- ・舌の機能がよくなり、誤嚥を防ぐ
- ・唾液が十分に出る



楽しみのある食生活の実現

新しい介護予防サービス 「口腔機能の向上」で なにが変わるのか

1. おいしく食べられる
2. 楽しくお話できる
3. 明るく笑える
4. 肺炎を予防し、元気に暮らせる



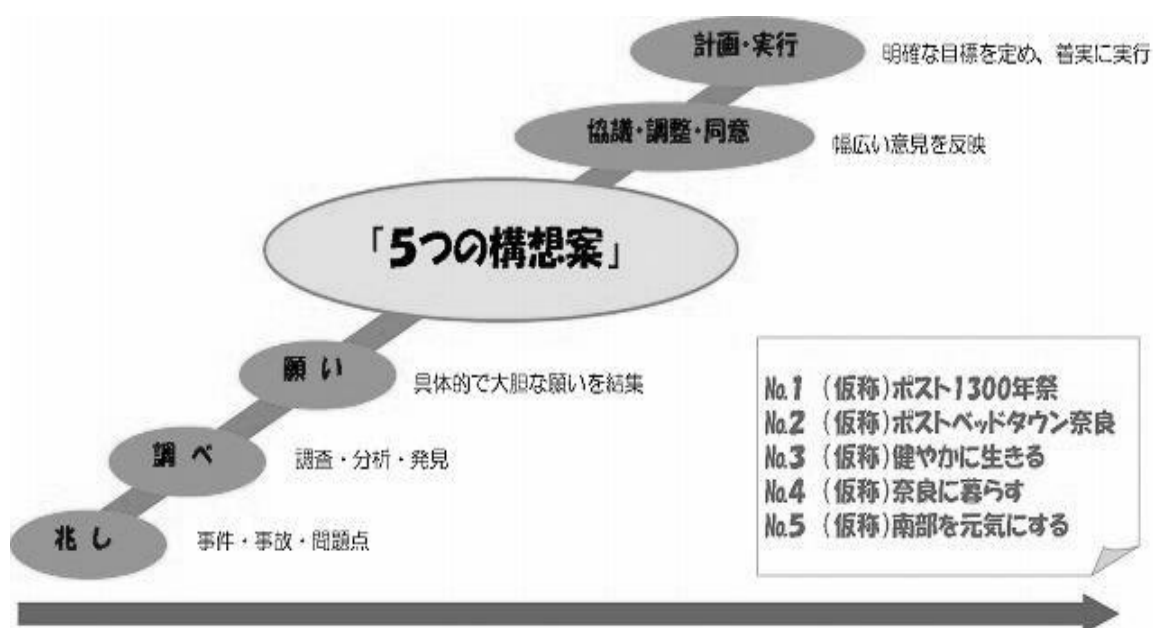
⇒ 高齢者の生きる喜び

ごそんじですか？

介護予防事業 口腔機能向上サービスのことは

市町村保健センターまたは
奈良県歯科医師会にお問い合わせを

奈良の未来を創る



奈良に暮らす構想

高齢者が暮らしやすいまちづくり

現 状

- 奈良県では、急速に高齢化が進み、15年後には2人に1人が65歳以上の高齢者となる見込み。
高齢者人口割合 1921 23.0% → 1937 33.2%
- 特に中山間地での高齢化の進展が著しい。
高齢者人口割合 川上村 1921 49.1% → 1937 69.9%
御所市 1921 29.7% → 1937 42.9%
- また、15年後には、高齢者ひとり暮らし世帯がH17の2.13倍、高齢者夫婦世帯がH17の1.48倍に急増する見込み。
高齢者ひとり暮らし H17 39千世帯 → 1937 81千世帯
高齢者夫婦世帯 H17 53千世帯 → 1937 74千世帯

目指す社会の姿

生きがいを持って心豊かに暮らしを楽しむ

- 中高年頃から健康づくりを意識し、いつまでも健やかな人生を送ることができる健康長寿の実現
- 高齢者自らが主体的に社会に関わり、参加するシステムへの転換
- 地域みんなで高齢者とその家族を支え合う社会づくりの推進



87

奈良に暮らす構想

高齢者が暮らしやすいまちづくり

「外出」「食」等の自立生活支援

健やかな からだづくり

からだ

藤田浩氏提供

いつまでもおいしく食べられるよう
地域みんなで見守ろう！

- 元気だとおいしい
- おなかがすくとおいしい
- だれかと楽しくたべるとおいしい

**あかるい声かけ
おしゃべり
集まりへの参加の誘い**

もし お口の中に問題があれば



あなたの お家で 歯の治療

歯科医があなたのおうちに訪問します。



奈良県歯科医師会

在宅療養者、
要介護者・家族

在宅診療・訪問
口腔ケアの申し
込み

訪問可能歯科
医院の紹介

要請 サービスの
提供

歯科医師会内
在宅歯科医療連携室

連携

介護サービス事業所・
訪問看護ステーション・
病院・診療所等

ケアプランの策定等
口腔ケアの出張説明

お気軽に歯科医師会にご連絡を

PCのホームページからどうぞ



藤田浩氏提供

リレー講座 2

● 『高齢者ソフト食～安全でおいしい介護食～』

潤和リハビリテーション診療研究所

農学博士 客員研究員 黒田 留美子

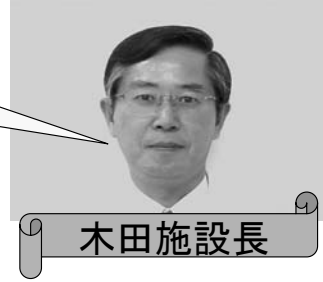
高齢者ソフト食 ～安全でおいしい介護食～

 潤和リハビリテーション診療研究所
農学博士 客員研究員 黒田留美子

見た目は普通食と同じですがこれはソフト食です

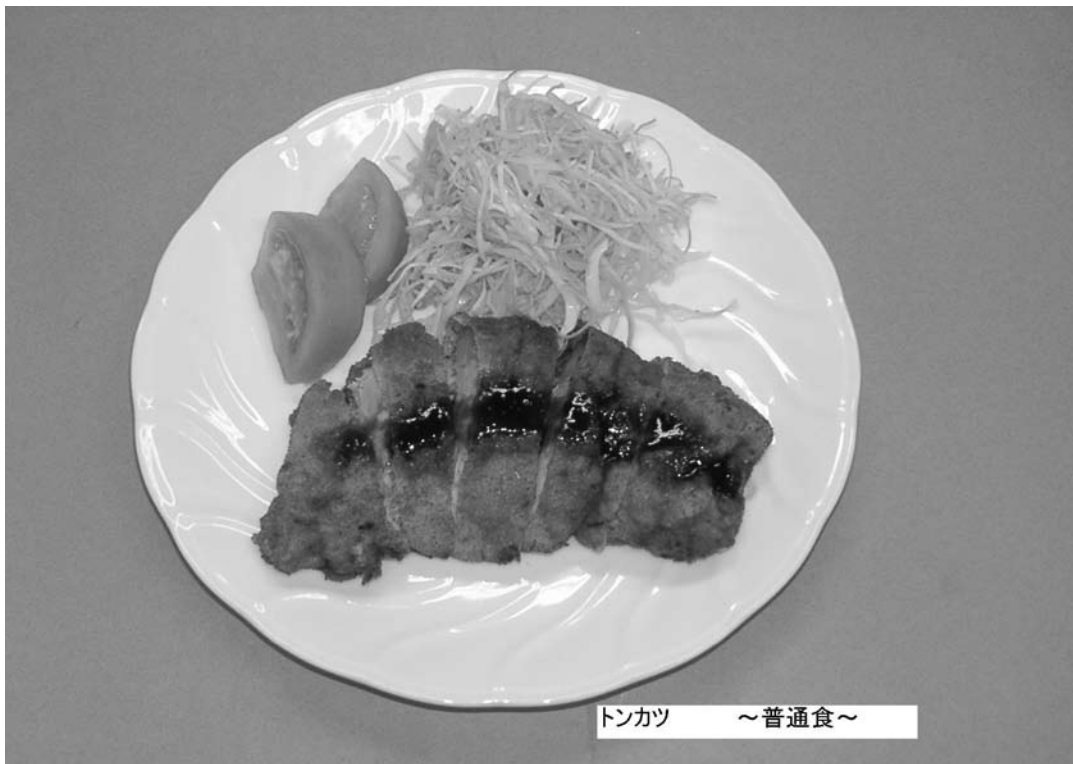


刻み食は鶏
の“えさ”です



刻み食の問題点

- 本来は、歯がない・噛む力が弱いなどの咀嚼障害のための食事
- 誤嚥の危険性があり、嚥下障害には適していない
- 口腔内に食物残渣が多く、不潔になりやすい
- 見た目が悪く、食欲が湧かない



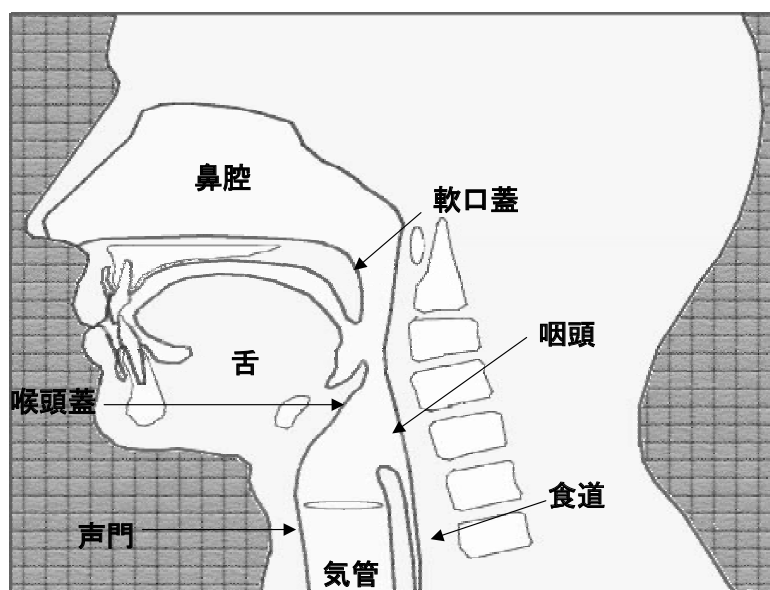




子豚の話

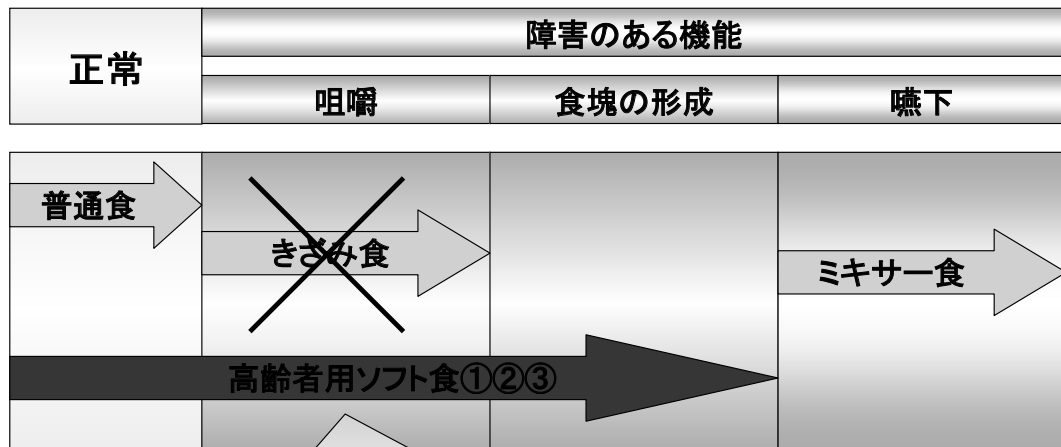
- 子豚が寝てしまうのは何故？
- 残菜が多いのは何故？
- 本当に利用者は食べているのだろうか？
- 私は何を管理していたのだろうか

嚥下のメカニズム



(山部歯科医院「嚥下障害支援サイトSwallow」より引用、一部改変)

高齢者用ソフト食の位置づけ



- ◆舌で押しつぶせる程度の硬さであるもの
- ◆すでに食塊となっているような形のもの
- ◆すべりがよく移送しやすいもの

形態	普通食	きざみ食	きざみ食	きざみ食	ミキサー固形食	ミキサー固形食	ミキサー食 (流動食)
噛む力 飲み込む力の目安		ソフト食① すべてに火を通し繊維をある程度 やわらかくした野菜、根菜類					障害や消化管の問題があるが嚥下状態は良い
水分の場合	普通に飲み込める	水やお茶を飲み込みづらいくらいがある	ドロミやお茶ゼリーにしない	ドロミやお茶ゼリーにしない	ドロミやお茶ゼリーにしない	普通に飲み込める	
形状		ソフト食②					
主食		火を通した根菜類は可能であるが、 葉物の野菜はムース状へ・ポタージュ					介護食用いらずぎ(飯)
副食	肉						
主菜	魚						クーにかけた凍状のもの (サラサラ)
副食・副菜・副々菜							
箸休め(漬物類)							
あやつ	無塩パン・クリーム・バターなど 高齢者に適していると考える あやつ	果物コンポート、ムース、ゼリーなど。 時にはあんこの入ったものなども提供する。	豆乳・ゼリー・カスタードなど 豆乳粉末や果物ピューレに して固形化したもの	ムース、ゼリー、カスタードなど	ゼリー・豆腐・バナナ・リンゴ・梨・桃などの もの。(豆乳や果物を粉末や ピューレにして固形化したもの)	ミキサーにかけた凍状のもの	

ソフト食①



銀ムツの菜種焼き

ソフト食②



銀ムツの菜種焼き

ソフト食②

えびのムースにんじん巻き

高齢者ソフト食の提供



★食事に薬を入れないでね★

刻まない形の
普通食
食べやすく
安全で
おいしい食事!!

刻み食よ、さようなら

さようなら~

(T_T)/~~~

ソフト食よこんにちは！

(^_-)-☆

リレー講座 3

● 『高齢者配食サービスの今昔』

奈良県栄養士会 地域活動職域会
管理栄養士 砂村 幸子

高齢者配食サービスの今昔

奈良県栄養士会 地域活動職域会
管理栄養士 砂村 幸子



平成23年1月23日

はじめに

発足時より係わった3カ所の事業について話
ます。栄養士としては、献立作成や調理指導・
衛生管理などに又利用者との交流にかかわ
りました。

その範囲の中での話とします。

ふれあいの会

- 奈良県磯城郡田原本町
- 1990年

立ち上げ

婦人連絡協議会
母子寡婦福祉会
民生委員会協議会

サポーター

奈良県栄養士会
田原本町社会福祉協議会

ボランティア活動

- ボランティアが月に4回(昼食)公民館にて調理。前半・後半にわけ受け取る方は月2回の受取
- 1回45食 (配食は30食強)
- 12時までに社会福祉協議会の職員運転で、作ったボランティアが配食
- 無料 (社会福祉協議会・寄付金)

経過

- 多い時は60食
- 0ー157発生後夏場は一時休食
- ボランティアの高齢化
- ‘99年ごろより田原本町食生活推進員協議会“なでしこ会”が参加
- 配達運転もシルバーボランティア男性が行う



コープ六条食事の会

- 1991年“コープ福祉たすけあいの会”活動の一環で
自主グループの食事サービスとして発足
食事登録者60名（60歳以上）
ボランティア約30名
- 月1回ボランティアが交代で作り、一緒にコープ六条
店集会室で会食
- 参加費用500円（ならコープの補助あり）

経過

- ‘92年には、コープおしくま・みみなし・いこ
まの店舗で発足
- ‘91年には配達形式で（夕食）、たつたがわ・
菜畑・いまごの店舗で発足
- これが2010年業者委託への配食弁当につな
がっていく

特別養護老人ホーム サンタ・マリア配食サービス

- 1994年 奈良市の委託により発足
- 数名の職員とボランティア(44名)により1日35食~40食づくり配達 (3つの社会福祉法人)
- 65歳以上の在宅老人と障害者 (安否確認)
- 月~金の昼食
- 利用者負担350円

経過

- '97年市内5,400人の利用者 (9事業所程)
- '00年サンタ・マリアでは利用者約300人1日平均240食
- 設備・衛生・人員などの問題
- ボランティアを非常勤の調理員や配達員に切り替え
- 会食・おせち料理の希望者をつのる。



単位人

	平均1日 利用予定者	1日平均 利用実施者	増減
2000年	235.4	216.46	-18.94 (8%)
2002年	255.2	198.15	-57.05 (22%)

減少理由

- ① 緊急入院
- ② 施設利用 (デイサービス・ショートステイ・老人保健施設等)
- ③ 利用者の都合
- ④ その他 (配達時の不在)

考察

食べる事は、人間にとって最も基本的な生活で、栄養バランスのとれた健全な食事は、健康を支え、疾病からの回復を促進する・・・などなどですが、始めの2ヶ所は、地域住民の方から「一人暮らしの高齢者に少しでも楽しい食事を」と願う声から始まりました。

まさに高齢社会に入り配食サービスも問題が山積みですが、中でも医療との連携は最重要課題です。

出来る所からやりましょうではなく、目標をまず立て、横の連携を固め、行動する決意が必要です。その舵取りを行政がしっかりと行って欲しい。

パネリスト報告 1

● 『ならコープタ食宅配』

市民生活協同組合ならコープ

無店舗事業統括 執行役員 高塚 克則



市民生活協同組合ならコープ

夕食宅配事業本部

ならコープ夕食宅配事業20110123

■第9次中期計画（2010年度～2012年度）策定

<テーマ>

たすけあい・ささえあい・わかちあい

厳しい経済環境の中で事業・経営の強化課題を優先的にすすめていくこととなりますが、その根底にある大切にしたいこととして、協同組合の一員であるすべての役職員の考えと行動の礎となるテーマとしました。

生活者どうしが自主、自発的に「たすけあえる・ささえあえる・わかちあえる」という「市民が主人公」となる社会をめざして、創立期からの協同精神（思想）を地域に広げることで‘ふれあい’のある‘あたたかい’地域コミュニティの創造に向けて、更に役割を発揮します。

ならコープ夕食宅配事業20110123

■ならコープができること、ならコープが求められていることと

は・・・？

1. 平成17年都道府県別主要統計表からの奈良県の状況

- (1) 平成12年からの人口増減率は▲1.5% 33位(全国平均+0.7%)
- (2) 65歳以上人口の割合は19.9% 35位(全国20.1%)
- (3) 65歳以上の単身者世帯の割合は7.4% 28位(全国7.9%)
- (4) 夫65歳以上、妻60歳以上で1組の世帯の割合は10.6% 17位(全国9.1%)

2. 地域訪問を実施して実際にお聞きした声

- ・買い物に行きたくても行けない
- ・夫婦2人暮らしで食事を作るのも面倒になってきた
- ・仕事が忙しくて食事づくりがしんどい

など、高齢者を中心に買い物や食事づくりに困っている方が多くいらっしゃる事が分かりました。

ならコープタ食宅配事業20110123

■ならコープタ食宅配事業が誕生

これらの状況から、夕食の配達を実施するためのPJが立ち上がりました。わずか4ヶ月という短い期間でしたが調査をすすめ、メーカーを選定、商品設計や仕組みづくりの協議を経て、2010年4月12日から、大和郡山市・天理市を中心とした中部事業所を拠点に1日あたり73人104食で「ならコープタ食宅配」がスタートしました。

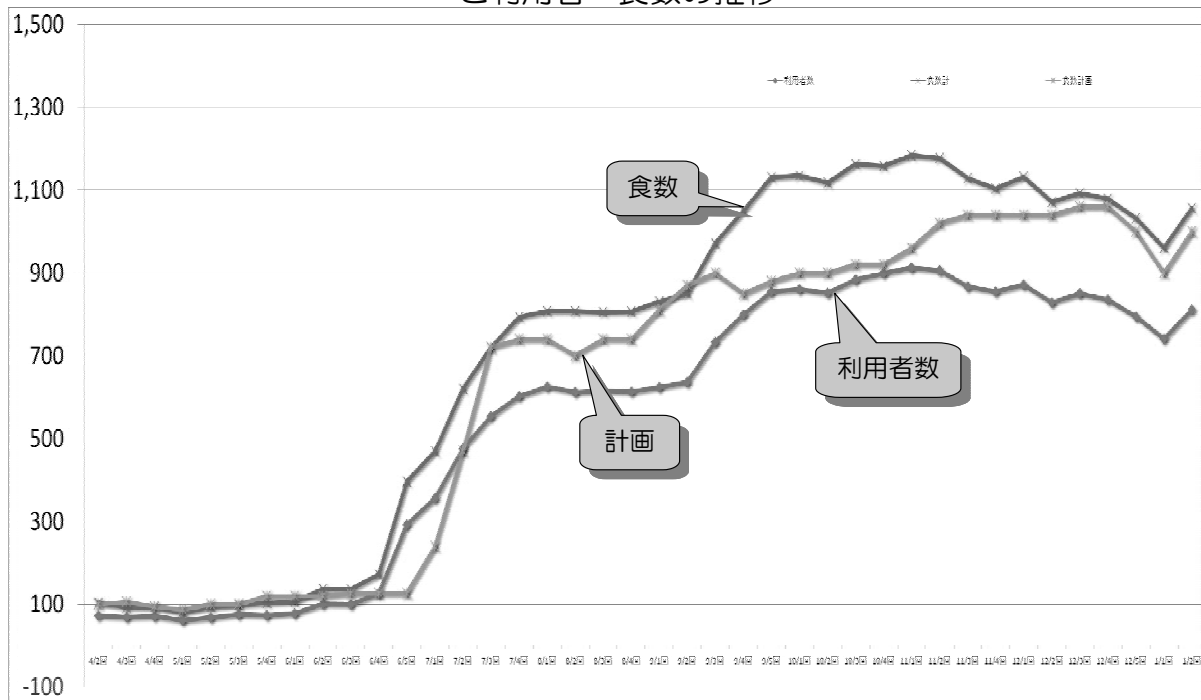
その後は着実にご利用者は増え続け、事業所を拡大。9ヶ月を経過した1月2週目(1/11~1/14)には812人、1,057食/日の規模にまで到達しました。

現在34人のスタッフが夕食をお届けしています。

小さなお子さん連れのスタッフや70歳を超えて益々元気なスタッフ・・・と幅広い年代のスタッフが活躍しています。仕事創出という意味でも一翼を担っています。

ならコープタ食宅配事業20110123

ご利用者・食数の推移



ならコープタ食宅配事業20110123

■ならコープタ食宅配事業の概要

(1) メニューは2種類

「お弁当コース（税込525円）」と「おかずコース（税込588円）」

(2) お届けは1週間単位で土日・祝日はお休み、1日単位でのお届けはしていません。前週火曜日までに連絡を頂ければ、翌週から変更等が可能です。

(3) ならコープの組合員に登録頂いてご利用がスタート。夕食以外のサービスもご利用が可能となります。

ご利用代金も、便利で安心の口座引落とし（月末締め、翌月19日引き落とし）。

(4) 配達料金や手数料は無料です。尚、一部お届けできない地域があります。

(5) 週平均約500kcal、塩分3～5g。メニューにはアレルギー表示。

(6) 地元である奈良県のメーカーで、管理栄養士による監修（メニューづくり）。

ならコープタ食宅配事業20110123

■温かい想いも一緒に届ける夕食宅配スタッフ

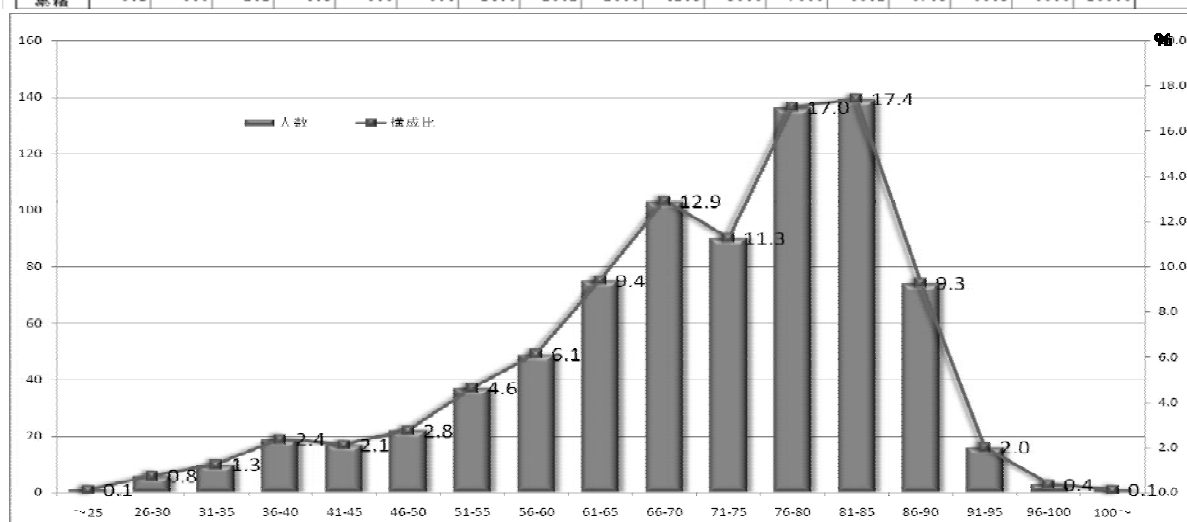
- (1) 現在、女性23名、男性9名の総勢32名のスタッフが夕食をお届けしています。
平均年齢は57歳。
- (2) 目的は様々ですが、60歳以上のスタッフが14名と40%を超えており、基本的には居住地域周辺を事業エリアとしていることから、改めて地域への貢献、恩返しといった動機も多く、永く仕事を続けて頂くことができると同時に、ご利用者にとっても安心して頂けると考えています。
- (3) また、幼児同行で配達する若年代のスタッフもいて、幅広い年代のスタッフが夕食をお届けしています。実際には就労しにくい方々の機会創出にも繋がっています。
- (4) ご利用者からは、『いつも笑顔で届けてもらい、またちょっとしたやりとりや世間話が嬉しい』というお声も頂いています。

ならコープ夕食宅配事業20110123

年代別ご利用者数

■利用者年齢構成〈5歳段階別〉

年齢	～25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	61-65	66-70	71-75	76-80	81-85	86-90	91-95	96-100	100～	合計
人数	1	6	10	19	17	22	37	49	75	103	90	136	139	74	16	3	1	798
構成比	0.1	0.8	1.3	2.4	2.1	2.8	4.6	6.1	9.4	12.9	11.3	17.0	17.4	9.3	2.0	0.4	0.1	100.0
構成比 累積	0.1	0.9	2.1	4.5	6.6	9.4	14.0	20.2	29.6	42.5	53.8	70.8	88.2	97.5	99.5	99.9	100.0	



ならコープ夕食宅配事業20110123

■ご利用者の声

- ①体が不自由になり、これまでのように食事の支度が負担になっていて助かった。
 - ②共働きなので夕食の準備が負担だったのが解消された。
 - ③カロリー計算されているのが良い。
 - ④独り暮らしのため、少量の食事を作るのは無駄が多い。
 - ⑤生ゴミが減った。
 - ⑥自分で作ると、ついつい栄養に偏りがある。栄養バランスが良い。
 - ⑦食べ過ぎ防止になる。
 - ⑧夕食が届いているという安心感がある。
 - ⑨時間に余裕ができ、有意義に過ごすことができる（ウォーキング）。
- 等々・・・多くの声を寄せて頂きました。
- もちろん、改善を希望される声も頂いています（量や味付け、固い・柔らか・・・等）。

ならコープタ食宅配事業20110123

■事例

いつものように宅配スタッフがお弁当をお届けに伺いましたが、当日はご不在でした。

ご不在の場合はお向かいのお宅にお弁当を預けることになっていましたので、この日もお向かいのお宅に預けることにしました。

しかし、このご利用者は不在となる場合は必ず予め連絡をされ、預かって下さるお向かいにも声を掛けられるのですが、この日はどちらにも事前に声を掛けることがありませんでした。

スタッフは一通り配達を終えたのですが、どうしてもこの方のことが気になり、改めてお向かいに声を掛け、一緒に伺いました。・・・やはり帰って来られている様子はありません。

そこでスタッフが夕食宅配本部に連絡を入れ、緊急時の連絡先を登録されているかを確認、本部職員が登録先に連絡を入れましたが繋がりません。

ならコープタ食宅配事業20110123

■事例（つづき）

お向かいの方もご利用者のご身内の方の連絡先をご存知でしたので、連絡を入れて頂きましたが、それでも繋がりません。

本部職員が留守番電話に折り返し連絡が欲しい旨の伝言を入れていましたので、しばらくしてからその伝言を聞いて、ご身内の方（娘様）が連絡して来られました。その内容をお伝えしたところ、すぐに行ってみるとのことでした。

間もなくして娘様から連絡があり、家の中で倒れられているのが発見され、救急車で病院に搬送されたそうです。

病院から娘様より連絡を頂きましたが、残念ながら『永くはない』と告げられたそうです。

それでも本部職員とスタッフに御礼の言葉を頂きました。

ならコープタ食宅配事業20110123

■事例（つづき）

その後数日ほど経過したある日、再度娘様から連絡が入りました。・・・お母様が亡くなられたとのことでした。

ここでも御礼の言葉を何度も頂きました。

今回はたまたま緊急連絡先を登録頂いていたので、すぐに連絡を入れることができました。

しかし、ご利用者の全員が必ずしも登録されているわけではありません。

万が一の際、私たちに何ができるのか？と自問しても答えは出て来ません。

ただ、毎日お届けして様子を伺うことはできます。

中には留守置き対応(※)を基本としているご利用者もいらっしゃいますが、翌日に前日のお弁当容器が空になっていると『昨日も食べて頂けた。お元気なんだ。』とホッとする事があるとスタッフは言います。

※留守置き対応・・・直接受け取ることができず、相互で確認した場所に品温管理して商品を置いておくこと。

ならコープタ食宅配事業20110123

■事例（つづき）

この事例以前にも配達に伺った際、横たわっていらっしゃったのが実は既に亡くなっていらっしゃったという経験もしています。

これらの経験から、もっと地域との連携ができれば、安心してご利用頂けるのではないかという思いでいっぱいです、と言うのは本部職員。

この本部職員はこれらの事例を受けて、連携のあり方について市町村の窓口との相談に走り回っています。

私たち一人ひとりにできることは限界もあり些細なことです、色々なところと、いろいろな方々と連携できれば地域で「繋がり」が生まれ、時としてその繋がり
は地域に安心と優しさ、温かさを醸成することにもなるのではという思いを糧に
毎日走り回っています。

ならコープタ食宅配事業20110123

ご静聴、ありがとうございました。

ならコープタ食宅配事業20110123

パネリスト報告 2

● 『社会福祉法人わたぼうしの会』 たんぽぽ楽食サービス

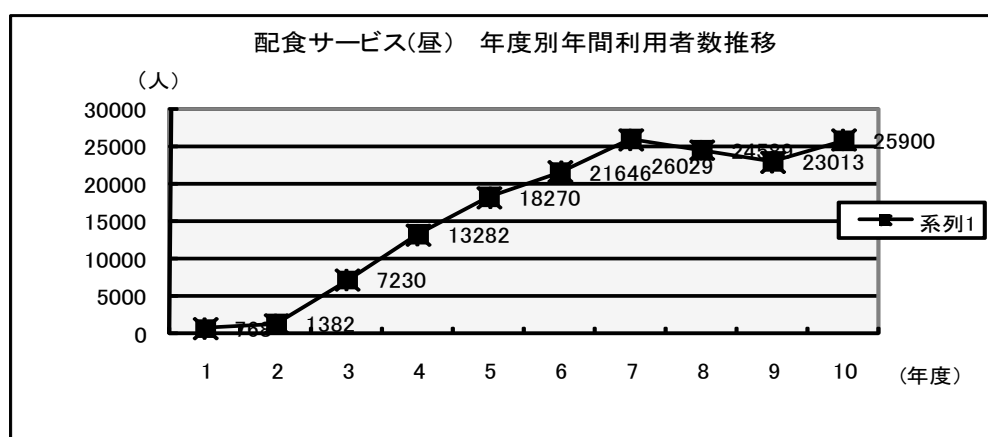
配食サービスコーディネーター 家令 牧

社会福祉法人わたぼうしの会 たんぽぽ楽食サービス

配食サービスの現況について

平成23年1月23日（日）

発表者 家令 牧



10年間の昼食配食数

1999年に奈良市の委託を受けてスタートさせました。

当初は1日5食でしたが、現在は1日平均90食を配達しています。



月曜日から金曜日まで 昼食と夕食を軽自動車4台で配達します。
 配達スタッフは現在昼夕合わせて10名。(有給)
 障害のあるメンバーも配達に同行する日があります。



楽食サービスの特徴は、配食を障害のある人の仕事の場としていることです。
 現在は、ボックス類の消毒やお弁当の運搬、お年寄りへのお弁当の配達が主な仕事になっています。

配達スタッフに同行して、お年寄りにお弁当を配達し、短い時間ではありますが、言葉を交わすことにより、お互いが励みになります。とても楽しみにしてくださっているお年寄りもいらっちゃって、お菓子を準備して待ってくださっています。



地域の集会所をおかりして、その地域の民生委員さんの協力のもと、年に3回ほど会食サービスを開催しています。配食サービスを利用していらっしゃる方もおられるため、ふだんできない会話を双方が、ゆっくり楽しむことができます。落語を楽しんだり、地域で活躍されている影絵グループの影絵を鑑賞しました。



みずほ教育福祉財団からの助成で寄贈していただいた、訪問用の電気自動車です。小回りが利くため、狭い路地でも大丈夫です。時間が長くなっても、駐禁を気にしなくてよいため、大変重宝しています。

配食サービス利用開始までの流れ

1. 希望される利用者
2. ○担当のケアマネージャーが介護予防プランまたはケアプランを作成
 ○地域包括支援センターが介護予防プランを作成
- 3.市役所(介護福祉課)に申請書と介護予防プランまたはケアプランを提出
- 4.市役所(介護福祉課)が配食サービス利用の利用判定
- 5.担当の配食サービスセンターに協議回答
- 6.担当の配食サービスセンターによる面接・契約
 ○この時点で担当のケアマネージャーと連絡をとりあい、詳細の確認。
 ○本人とも特に緊急連絡先の確認など、緊急時の連絡体制を確認しあう。
- 7.配食サービスの利用開始。

ご不在でしたので、ボックスに保冷剤
を入れて、置かせて頂きました。

お手数ですが、戻られましたら楽食サ
ービスまでお電話ください。

月 日 時 分

配達担当 _____

0742-40-1040

配達時に留守の場合、この紙をお弁当と一緒に置きます。その旨を事務局に連絡。事務局は、12：00までに連絡がなければ、所在の確認を始めます。

訪問時に調査し、確実に
安否確認ができるように
記録します。

楽食サービス 配食利用者調査表

記入日 年 月 日

名前	生年月日		
住所	TEL		
世帯の状況			
1. 単身 2. 家族構成			
障害の程度		開始年月日	
家事の状況			
買い物		調理	
1. 常に自分でできる。 2. 時々買い物に行く。 (週 回 月 回) 3. 自分で行けないので、人に頼んでいる。 4. 常に誰かに頼んでいる。		1. 常時自分でできる。 2. 時々自分で調理し、 それ以外は、外食している。 誰かに作ってもらう。 3. 外食がほとんど。 4. 作ってもらうことがほとんど。	
サービスを希望する曜日・希望する食事			
月 火 水 木 金 (土 日)			
昼食	ご飯・おかず	おかずのみ	夕食
ご飯・味噌汁・おかず ご飯・おかず 味噌汁・おかず			
現在のサービス利用状況			
ヘルパー派遣	週 回	<月・火・水・木・金・土・日・家事・介護>	
デイ・サービス	週 回	<月・火・水・木・金・土・日>	
短所入所	1. 利用したことがある。 2. ない。		
他の食事サービス	週 回	<月・火・水・木・金・土・日>	
現在の健康状況			
1. 良好 2. 気になることがある。			
食事で気をつけていること		体質上食べられないもの	
1. 塩分 2. 糖分 3. 脂質 4. アレルギーがある。 アレルギーはく 5. その他		>	
担当の支援センター		緊急の連絡先	
		不在時に室内に入って確認してもよいか。	

再調査用の用紙です。

介護度が変更になった場合や、かかりつけ医が変わった場合、配食先までそのことが伝わらないことがあるため、安否確認に手間取ることがあります。

現在なかなかできていませんが、今後半年に一度くらいのペースで、このような用紙を使用して、再調査したいと考えています。

配食サービスを利用しておられる皆様へ

いつもたんぼ楽食サービスのお弁当をご利用いただきまして、ありがとうございます。

さて、皆様にお願ひがあります。

たんぼ楽食サービスでは、お弁当の配食とともに、安否確認という大切なお仕事をさせていただいております。皆様の安否を確実に確認させていただくために、緊急の連絡先と現在利用されておられる事業所、いきつけの病院をお知らせください。お手数ですが、7月31日までお願いいたします。

<緊急の場合の連絡先>

氏名	続柄	住所	TEL

<利用されている事業所>

事業所名	住所	TEL

<かかりつけの病院>

病院名	住所	TEL

たんぼ楽食サービス 家令 牧

たんぼぼ楽食サービス 配食サービス事業部
配達スタッフ 配達マニュアル

■配食サービスの目的

- ・ 奈良市内に暮らす一人暮らしの高齢者、障害者、または高齢者世帯、障害者世帯で、食事作りが困難な方に、安否確認を含む昼食・夕食を配達する。
- ・ 軽度の認知症の方や精神が不安定な方など、様々な方にお弁当を配達し、確実な安否確認をしなければならない。どのような状況におかれても、冷静な判断と変わらぬ態度が要求される仕事である。
- ・ 「いずれは自分も利用する側になる」ということを念頭に置き、心をかけた対応を心がける。ただのお弁当屋ではないことを自覚する。
- ・ 「報告・連絡・相談」は確実に事務局におこない、決して自己判断をしない。

■内容＜昼食配食＞

- ・ 1. 月曜日～金曜日までの希望される日の昼食を配達。
- ・ 4コース 一日平均90～100食を配食。
- ・ コースは、西大寺方面コース・学園大和町方面コース・富雄方面コース・たんぼぼの家周辺コースの4コース。一人20食から30食を配食。
- ・ 65歳以上の高齢者または障害者が対象。しかし、奈良市の委託を受けられない方でも、たんぼぼの家の関係者の家族や知人などで、支給対象になる場合は、特別に楽食弁当を配食している。
- ・ 値段は、利用者負担金450円 奈良市の補助金350円
- ・ 楽食弁当は、600円。たんぼぼ関係者は450円。
- ・ たんぼぼの家の障害のある人の働く場所として、配達同行の仕事を提供。現在2名の男性メンバーが仕事見習いとして活動している。
- ・ 時間・・・原則9:30～12:30 10分前には仕事に入る。
終了は、12:30。ただし、12:30を過ぎた場合は、30分ごとに申告すること。
マークのついている人は、30分早く出勤。出発前の準備をする。・・・保冷剤準備 ・各車のガソリンチェック。半分以下の場合はガソリン補給。車の移動。（配達時に車が出やすいように配置をかえる）盛り付け手洗い。特別食の確認。各コースへのお弁当の振り分け。休みのチェック。

- ・ 何らかの理由で、配達時間が30分以上遅れるときは、必ず事務局にTELLし、事務局から利用者宅へ遅れることを連絡する。
- ・ 安否が確認できない場合は、必ずいったん事務局に連絡をする。
- ・ 体調管理はきっちりとこない、風邪気味、腹痛などがあれば当日の朝でも休むように。家令(090-5947-7853)に連絡を。

＜夕食配食＞

- ・ 月曜日～金曜日までの希望される日の昼食を配達。
- ・ 2コース 一日平均25食 時間 16:00～18:00(18:30)
- ・ たんぼぼ周辺地域の、原則65歳以上の高齢者、または障害者宅。
- ・ 値段・・・おかずのみ 550円 ご飯 50円 味噌汁50円

■安否確認方法の手順

- ・ 連絡がないのに不在の場合、事務局に連絡。
- ・ 不在表をお弁当と共にボックスに入れる。
- ・ 配達スタッフが帰ってきたときにいったん利用者自宅に連絡を入れる。
- ・ 連絡が取れない場合、15:00に事務局連絡。まだいない場合、17:00に連絡。状況に応じてすぐに確認する。
- ・ それでも出ない場合、担当ケアマネに本日の所在を確認。
- ・ 担当ケアマネも把握していない場合、家族に連絡。
- ・ 家族が遠い場合は、楽食サービス、ケアマネまたは奈良市介護福祉課職員、警察官で自宅を確認する。

■保険および事故対応

- ・ 1. 全国社会福祉協議会 ボランティア活動保険に加入
- ・ 2. 全国社会福祉協議会 施設損害補償に加入。
- ・ 仕事におこった事故に関しては、自己責任となる。ただし、物損の場合は職場で入っている保険対応。
- ・ 駐車禁止をとられた場合、楽食サービスで処理。ただし、個人の免許証を提示した場合は、個人処理となります。くれぐれも運転には注意してください。

緊急時の対応

■配達先で利用者が倒れている。

- ・ 意識がない場合・意識はあるが、動けない場合。
1.119番通報。
2.事務局に連絡。事務局急行。3.事務局は担当ケアマネージャー、家族に連絡。
- ・ 救急救命ができる場合、心肺蘇生と人工呼吸を救急隊が来るまでおこなう。
*たんぼほ主催の救急救命法講習会に必ず参加。
- ・ 事務局とバトンタッチ、配達を開始。
- ・ 事務局は、救急車対応。

■事故をおこしてしまった。

- ・ 警察に連絡。110番通報。
- ・ 事務局に連絡。事務局、車で現場に急行。
- ・ 配達スタッフと配達を交代。
- ・ 配達スタッフは現場での事故処理でつづきをとる。

■手洗いマニュアル・衛生管理・検便

- ・ 手洗いマニュアル参照。配達前・配達後の手洗いの励行。
- ・ 配達終了後、次亜塩素酸ナトリウムが入っている漂白剤でクーラーボックス、保冷剤などを拭き取る。
- ・ 毎月第四週目で集める。ただし、6月から9月は、第二・四週目で検便。

社会福祉法人福寿会
特別養護老人ホーム平城園の副
園長で管理栄養士の杵島昌子さ
さんを講師に招き、「高齢者の栄
養と献立」をテーマに勉強会開
催しました。

お弁当の利用者の70%
が80歳代の方のため、食べやす
い内容の食事を心掛けてはいま
すが、まだまだ足りないことが
多々あるのが現状です。

また、「聴く力」というテーマ
で、植田寿之土を招いての勉強
会も開催しました。

このような勉強会は今後
も定期的に積極的に実施
していきたいと考えてい
ます。



今後の課題として

1. 利用される方の年齢が80代の方が全体の約70%である。見た目の仕上がりが美しく、なおかつ食べやすい食事を限られた予算と時間の中で、出していけるか…。他の事業所で工夫されている点などを是非参考にさせていただきたい。
2. 確実な安否確認体制。
 - ・ 楽食サービスでは、配達時に安否が確認できない場合、いったんお弁当を保冷ボックスに入れて利用者宅に置き、不在表を入れておきます。12:00の時点で電話確認。不在の場合15:00で再度確認。最終17:00の時点で連絡が取れない場合、担当ケアマネージャーもしくは家族が近くにおられる場合は、家族に確認。最終的に、確認ができない場合、ケアマネージャーもしくは警察とともに家族の了承を得て、室内に。

もし室内で倒れられていた場合、少しでも早い対応が必要となってきます。このことを考えると、早い段階での判断が必要になってくるのではないかと、考えています。

他の事業所の状況を知る機会が必要。

奈良県食事サービスネットワークについて

- ・ 2006年に奈良県内で高齢者への食事サービスをおこなっている4団体(NPO法人満天星 友愛お弁当グループ たんぽぽ楽食サービス ならコープ福祉情報センター)が母体となり発足しました。現在はならコープさんが抜けた3団体で運営しています。※別紙の各グループの活動の内容をご覧ください。

■この組織の目的は

- ・ 奈良県内で活動している食事サービスグループの活動の活性化とネットワークづくり。
- ・ 高齢の方や障害のある方が、自宅で少しでも「豊かな食事」ができるように食事を提供する側の食事サービスの質の向上。
- ・ 公のサービスから漏れた方々への支援の強化。

■活動実績

2006年 食事サービスセミナーin奈良の開催

「食事サービスの質の向上 心のあるサービスの維持のために 介護予防の視点から」

2009年 「高齢者が楽しんで食べられる料理レシピ」コンクール開催。

2010年 「家族と共に楽しんで食べられる高齢者のためのレシピ」コンクールの開催

(奈良県との共催)

パネリスト報告 3

● 『食べることは生きる喜びです ～配食サービスと医療・介護の連携を 考えるシンポジウム～』

奈良県健康福祉部長 杉田 憲英

食べることは生きる喜びです

～配食サービスと医療・介護の連携を考えるシンポジウム～

奈良県健康福祉部長寿社会課

H23.1.23

長寿社会を迎える奈良県の姿 ～2030年の奈良県～

高齢者の人口

約5人に1人 → 約3人に1人

高齢者単身・夫婦の世帯

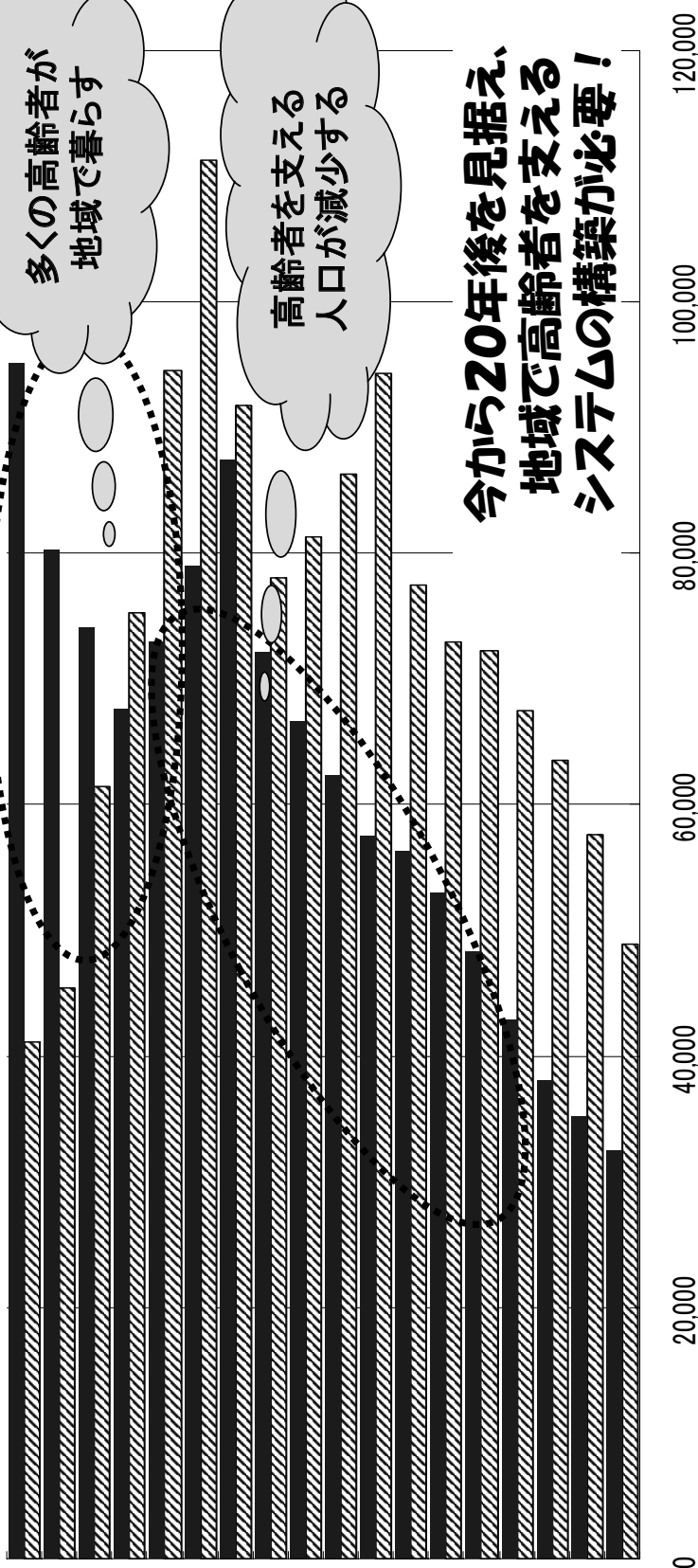
20年間で1.7倍(05年 → 25年)

地域別の高齢化の進展

特に都市部が急速に高齢化

奈良県における年代別人口の推移(予測)

85歳～
80～84歳
75～79歳
70～74歳
65～69歳
60～64歳
55～59歳
50～54歳
45～49歳
40～44歳
35～39歳
30～34歳
25～29歳
20～24歳
15～19歳
10～14歳
5～9歳
0～4歳



■ 2010年 ■ 2030年 ※奈良県の総人口(予測) 【2010年】1,321,101人 【2030年】1,174,746人

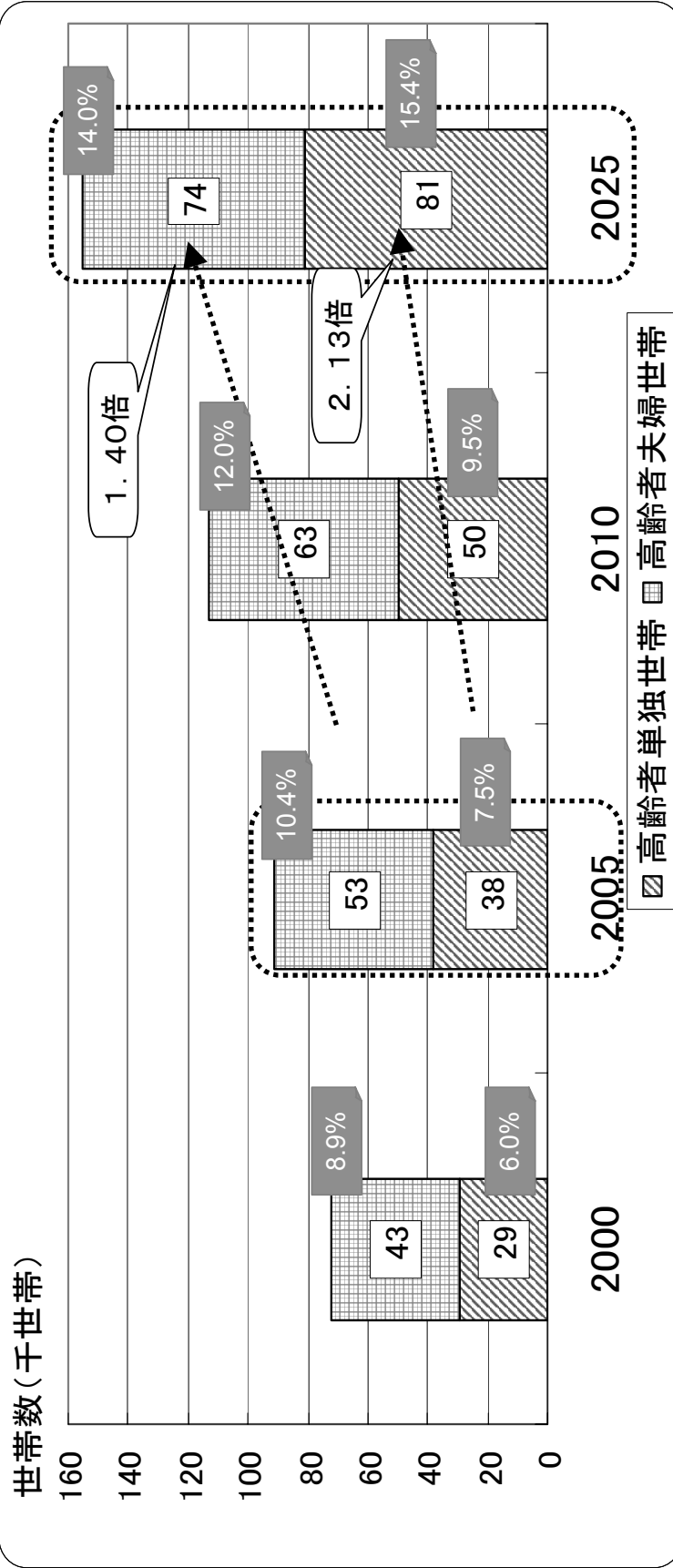
(出典) 国立社会保障・人口問題研究所 『日本の市区町村別将来推計人口』(平成20年12月推計)

奈良県内の世帯数の推移（高齢者単独世帯、高齢者夫婦世帯）

○ 2005年を基準にみると、20年後の2025年には、

- ・ 高齢者単独世帯数は、2.13倍、
- ・ 高齢者夫婦世帯数は、1.40倍となる。

○% 総世帯数に占める割合



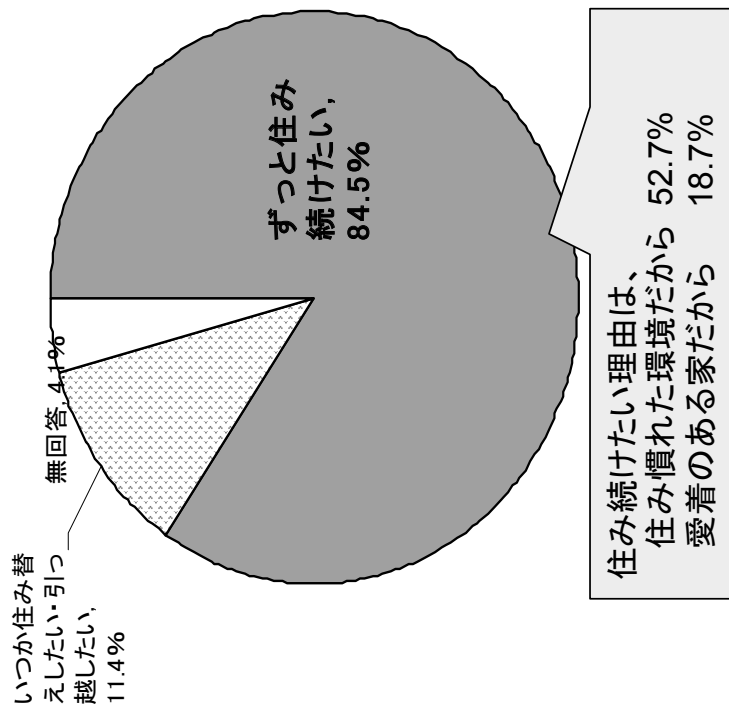
「日本の世帯数の将来推計」(2005年8月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

■ H21 高齢者の生活と介護等に関する実態調査結果

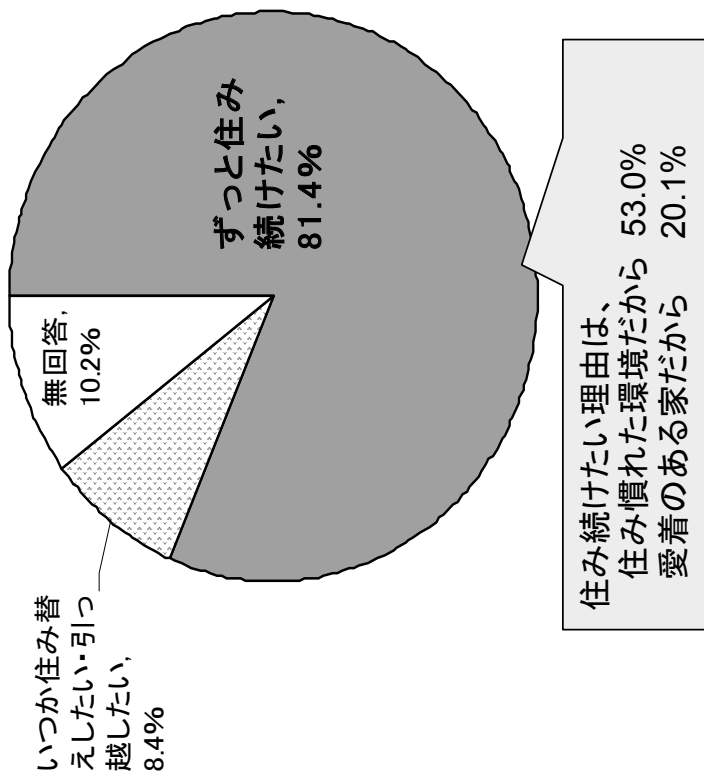
H23.1.23 長寿社会課

日常生活について 《今後も今の自宅で住み続けたいか》

今後も自宅で住み続けたいか
一般高齢者 [N=3,259]



今後も自宅で住み続けたいか
要介護者 [N=2,450]

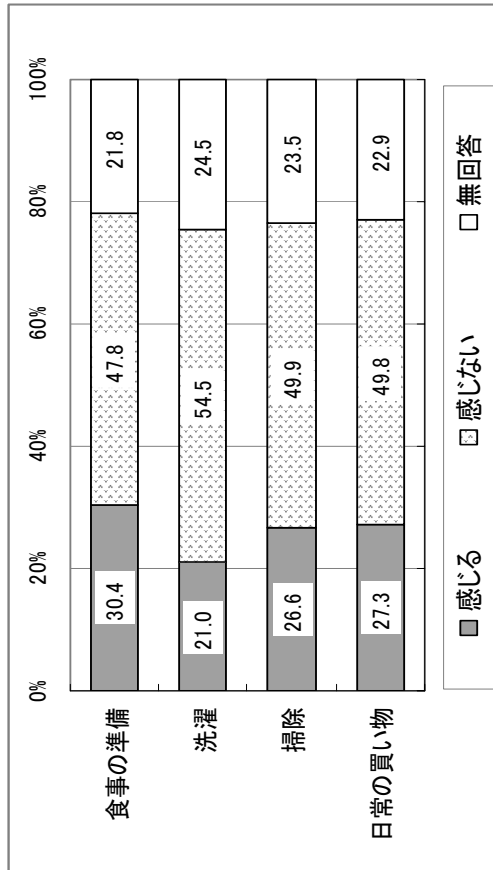


■ H21 高齢者の生活と介護等に関する実態調査結果

H23.1.23 長寿社会課

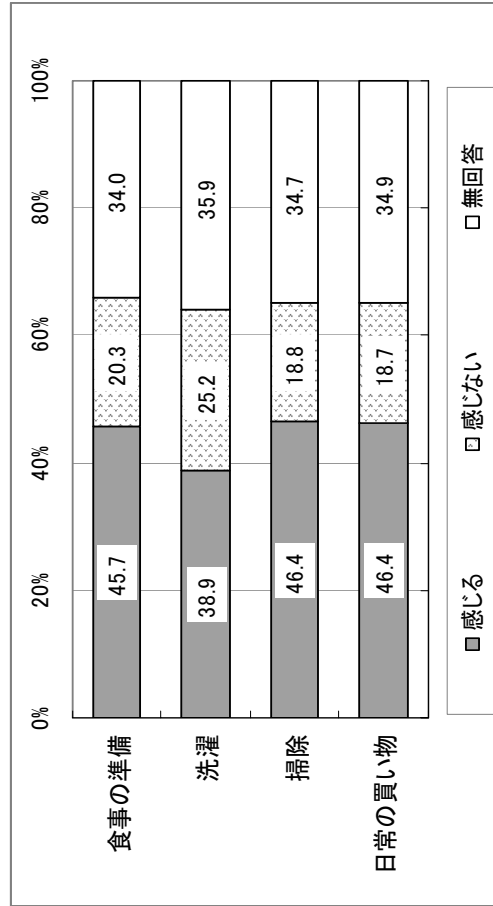
日常生活について 《 家事の負担感 》

家事の負担感について 一般高齢者 [N=3,259]



家事の負担感について
「感じる」 21.0～30.4%
食事の準備に関する負担が30.4%と
最も高い

家事の負担感について 要介護者 [N=2,450]



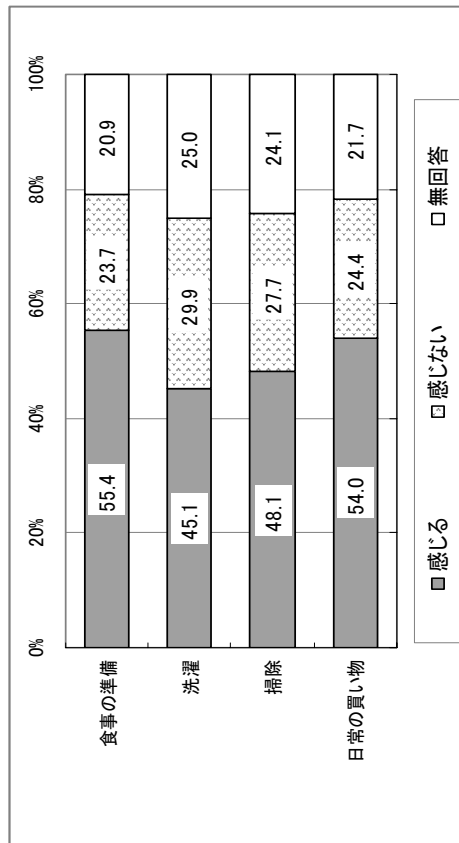
家事の負担感について
「感じる」 38.9～46.4%
いずれの項目も一般高齢者に比べ高い

■ H21 高齢者の生活と介護等に関する実態調査結果

H23.1.23 長寿社会課

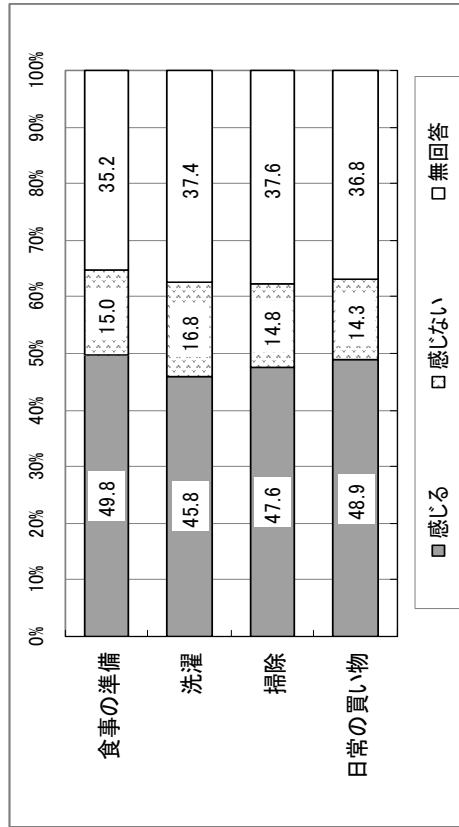
日常生活について 《 将来的な家事の不安 》

将来的な家事の不安について
一般高齢者 [N=3,259]



「将来的な不安を感じる」は5割前後
特に食事の準備に関する不安が55.4%と高い
現在、家事の負担を感じていなくても、将来的な
不安がうかがえる

将来的な家事の不安について
要介護者 [N=2,450]

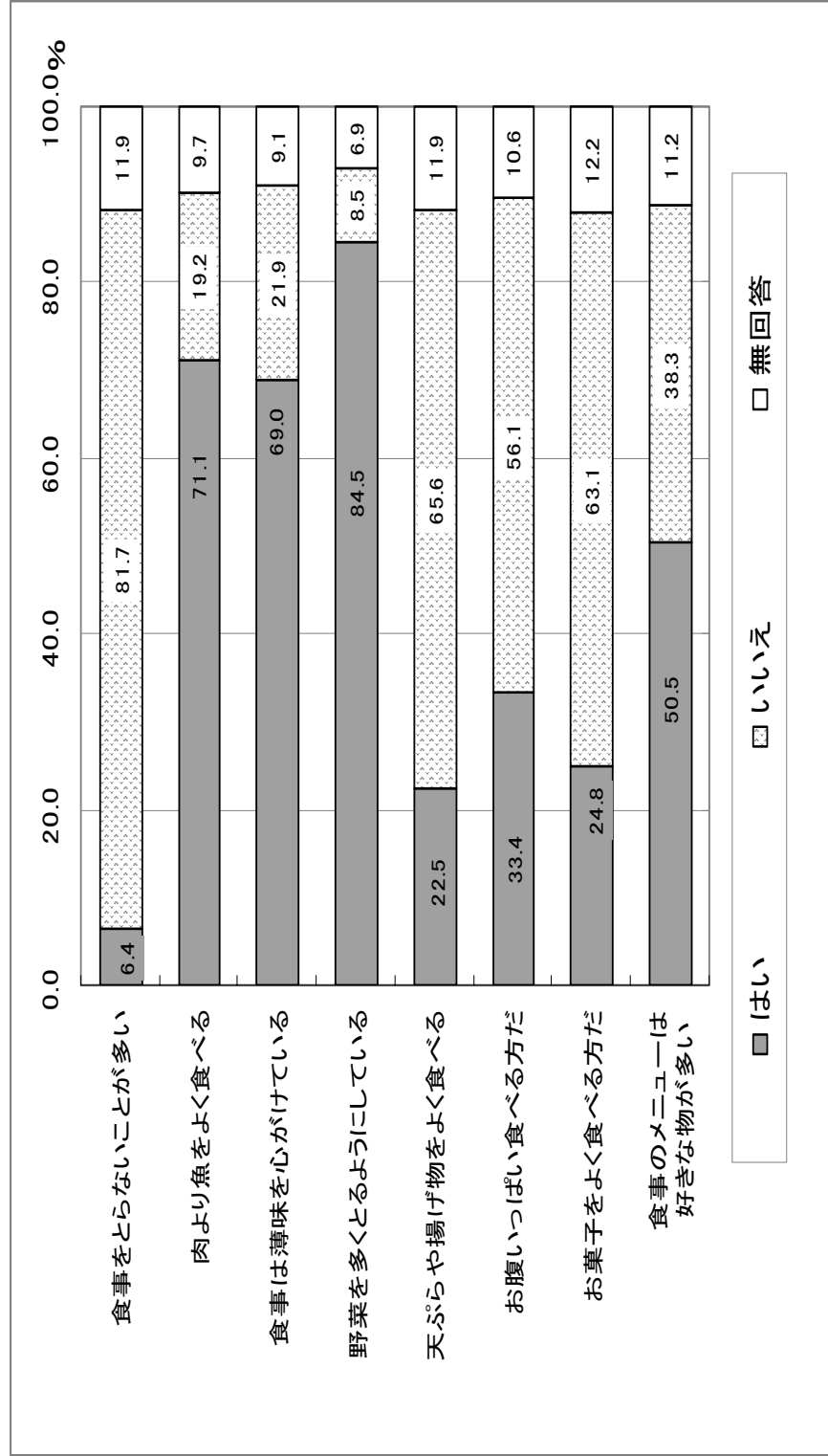


■ H21 高齢者の生活と介護等に関する実態調査結果

H23.1.23 長寿社会課

心身の状況について 《 日ごろの食生活について 》 一般高齢者

日ごろの食生活について 一般高齢者 [N=3,259]

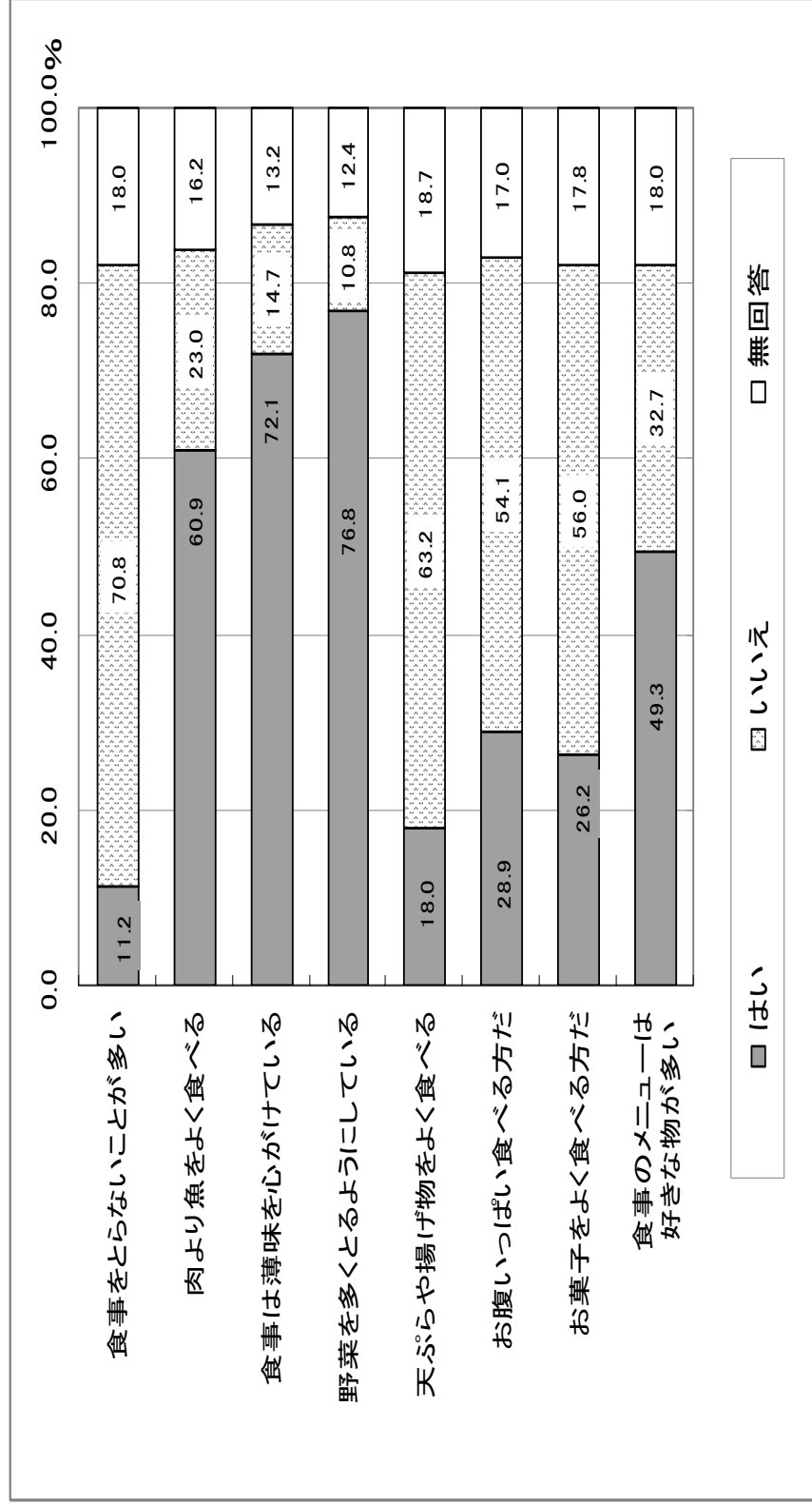


■ H21 高齢者の生活と介護等に関する実態調査結果

H23.1.23 長寿社会課

心身の状況について 《 日ごろの食生活について 》 要介護者

日ごろの食生活について 要介護者〔N=2,450〕

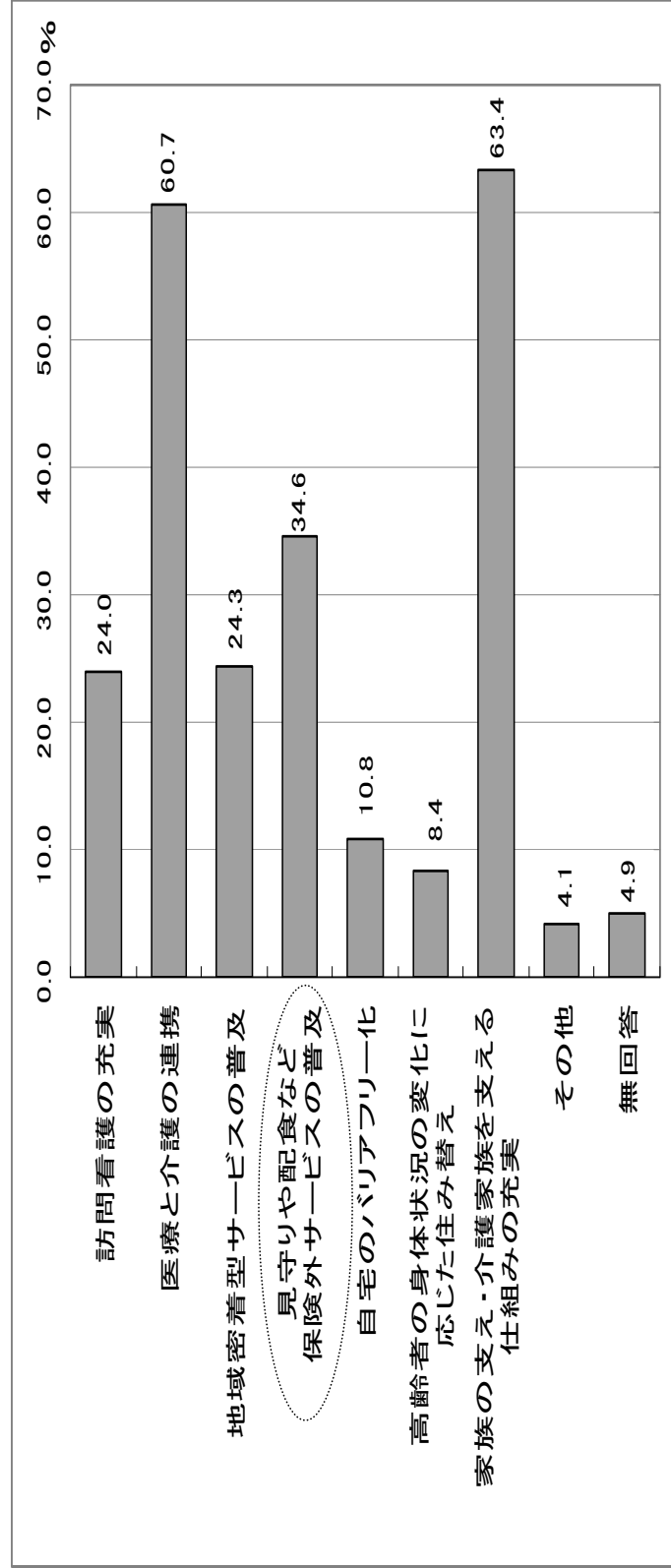


■ H21 高齢者の生活と介護等に関する実態調査結果

H23.1.23 長寿社会課

サービスの質の確保について
在宅ケアを充実していくうえで、より必要と思うもの（介護保険サービス提供事業所対象）

在宅ケアを充実していくうえで、より必要と思うもの 事業所 [N=1,365]

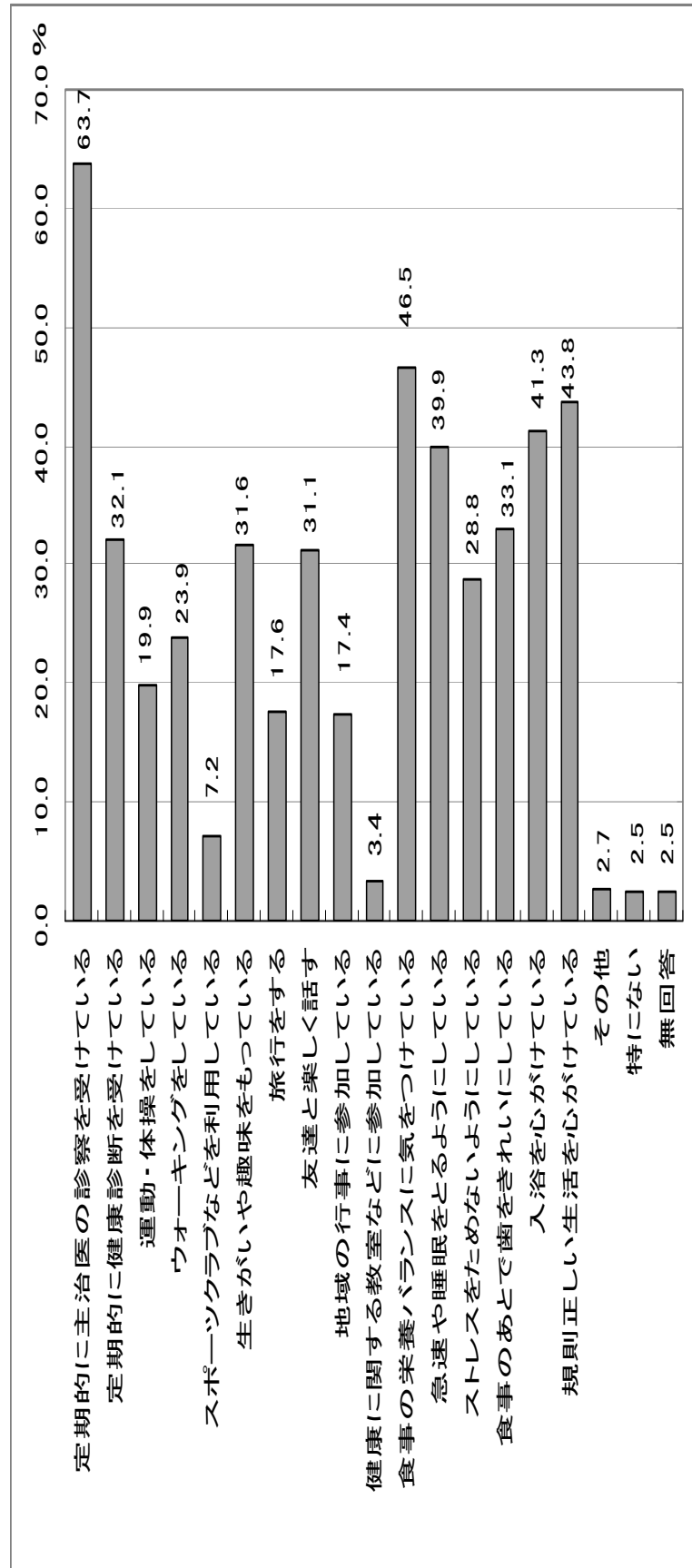


本人や介護家族を支える仕組みの充実や、医療と介護の連携に関することが約6割と高い。
次いで「見守りや配食などの介護保険外のサービス普及」 34.6%となっている。

心身の状況について

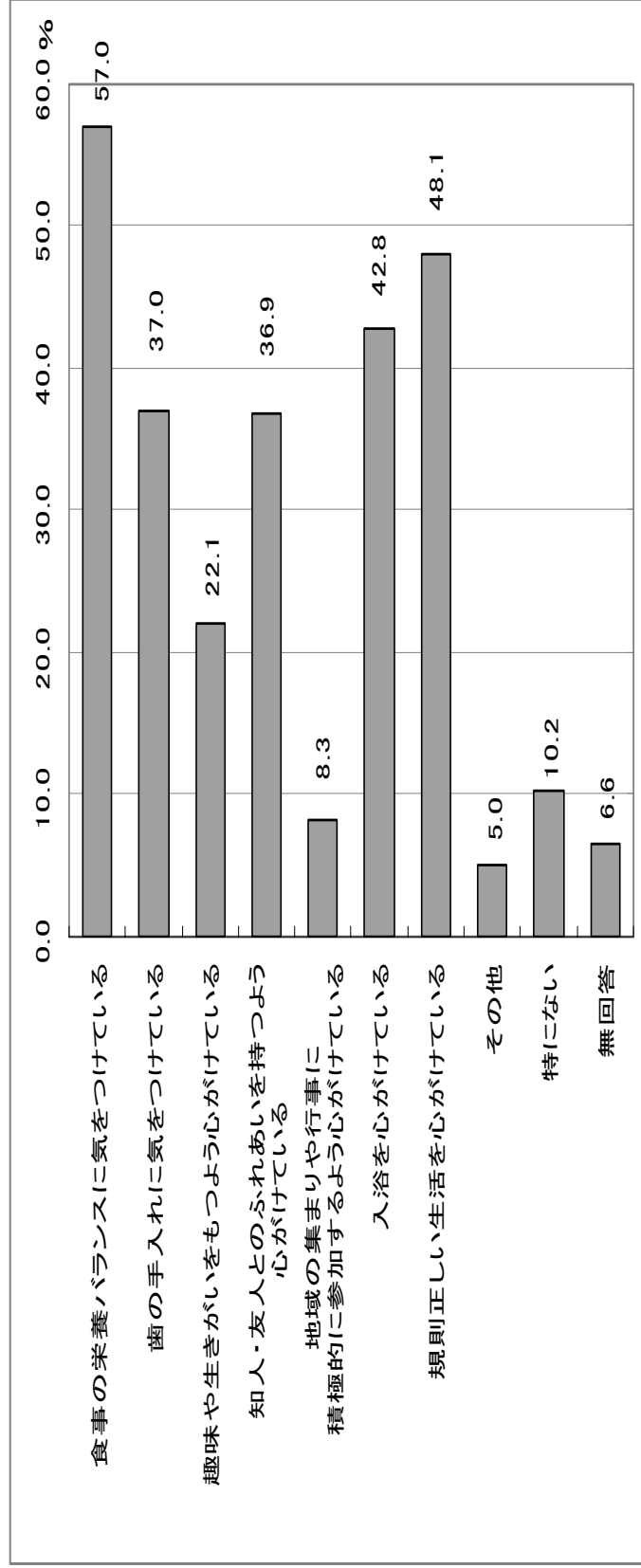
健康な生活の維持、悪化の防止のために心がけていること（一般高齢者）

健康な生活の維持、悪化の防止のために心がけていること
一般高齢者〔N=3,259〕



心身の状況について
健康な生活の維持、悪化の防止のために心がけていること（要介護者）

健康な生活の維持、悪化の防止のために心がけていること
要介護者〔N=2,540〕



「食事の栄養バランスに気をつけている」が57.0%と最も高い

奈良の未来を創る

健康福祉部 長寿社会課
関係箇所抜粋版

- 構想案から長寿社会課関係を、以下のとおり抜粋しております。
- No.3「健やかに生きる」から『在宅療養支援』の項目を添付
- No.4「奈良に暮らす」から『高齢者が暮らしやすいまちづくり』の項目を添付

「奈良の未来を創る」願いを構想段階でお示しすることで、県民のみなさまからたくさんのご意見をいただき、「奈良が良くなるように」チャレンジしてまいります。

計画・実行

明確な目標を定め、着実に実行

協議・調整・同意

幅広い意見を反映

「5つの構想案」

願い

具体的に大胆な願いを結集

調べ

調査・分析・発見

兆し

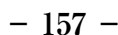
事件・事故・問題点

- No.1 (仮称)ポスト1300年祭
- No.2 (仮称)ポストベッドタウン奈良
- No.3 (仮称)健やかに生きる
- No.4 (仮称)奈良に暮らす
- No.5 (仮称)南部を元気にする

在宅療養支援

地域で支えるケアの構築

○在宅療養支援拠点の整備 ○在宅での看取りを支える地域ネットワークの整備 ○安らかな看取りを支える医療福祉サービスの充実



奈良に暮らす構想

現 状

○奈良県では、急速に高齢化が進み、15年後には**3人に1人**が65歳以上の高齢者となる見込み。

高齢者人口割合 H21 23.0% → H37 33.2%

○特に中山間地での高齢化の進展が著しい。

高齢者人口割合 川上村 H21 49.1% → H37 60.9%

御所市 H21 29.7% → H37 42.0%

○また、15年後には、高齢者ひとり暮らし世帯がH17の2.13倍、高齢者夫婦世帯がH17の**1.40倍**に急増する見込み。

高齢者ひとり暮らし世帯 → H37 81千世帯

高齢者夫婦世帯 H17 53千世帯 → H37 74千世帯

高齢者が暮らしやすいまちづくり

目指す社会の姿

生きがいを持って心豊かに暮らしを楽しむ

○中高年期から健康づくりを意識し、いつまでも健やかな人生を送ることができ
る健康長寿の実現

○高齢者自らが主体的に社会に関わり、参加するシステムへの転換

○地域みんなで高齢者とその家族を支え合う社会づくりの推進

く ら し

本人と家族を支える相談体制の充実

《要介護高齢者とその家族の支援》

高齢者の住まいの充実

《安心して住み続けられる住まいの整備》

「外出」、「食」等の自立生活支援

《自立生活を送るための暮らしのサポート》



こ こ ろ

高齢者の地域活動及び交流機会の創出

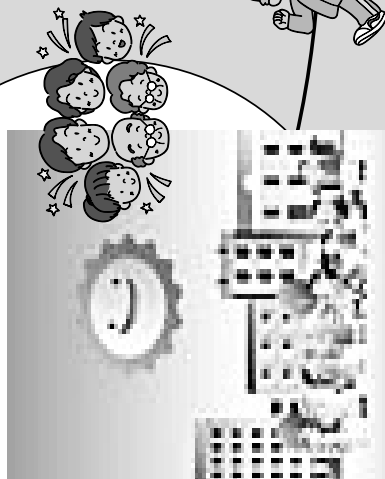
《高齢者の社会参加のきっかけづくり》

高齢者の居場所づくり

《人との関わりの機会づくり》



高齢者が暮らしやすい奈良県



か ら だ

健やかなからだづくり

《介護予防のため中高年期からの健康づくり》

現状と課題

○要介護高齢者の増加や介護を支える家族の高齢化により、介護に関する身体的、精神的な負担が大きくなっている。

・主な介護者の年齢も高くなっている。

60～69歳 26.3% 50～59歳 23.3%

・主な介護者が介護を行う上で困っていることは、

自分自身も高齢となり、介護が困難 22.3%

気持ちや身体を休める機会がない 18.2%

・主な介護者が行政に望むことは、

家族で介護するための方法や助言を相談できる体制の充実 34.8%



本人と家族を支える相談体制の充実

いつでも、気軽に安心して相談できる窓口を整備し、困った時はいつでも支援が受けられる体制の確立を目指す。

- 断らないレスパイトサービスの整備
(ショートステイ、小規模多機能型等)
- 介護困難家庭に対する集中支援システムの確立(地域包括支援センターが、医療・福祉と連携し、介護困難家庭を積極的に訪問・支援)
- 「家族の駆け込み寺」となる地域包括支援センターの機能の充実



く ら し

○今の自宅に住み続けたい希望は多いが、掃除や修繕など維持管理が大変なことや、バリアフリーになっていないなど、高齢者が安心して自立生活を送ることができる住環境が整っていない。

・現在の居住環境で不便を感じることは、

掃除や家の修繕など維持管理が大変

若年者34.6% 一般高齢者32.7% 要介護者27.7%

バリアフリーになっていない

若年者32.4% 一般高齢者32.6% 要介護者37.9%

施策の展開と主な取り組み

高齢者の住まいの充実

できるだけ長く住み続けられる住環境の整備と、健康状態が悪くなくても、必要に応じて住替ができる多様な受け皿の整備を目指す。

- 県内全戸バリアフリー化の推進
- 高齢者専用賃貸住宅・グループリビング等、高齢者が安心して住み続けられる、質の高い多様な高齢者の受け皿の整備
- 「安心住み替えサポートセンター」の設置(住替のマッチングに関する相談、情報提供を実施)



○買い物や食事の準備など家事についての将来の不安を多くの人が感じていることから、「外出」や「食」など自立生活のサポートが必要である。

・家事についての将来の不安

日常の買い物に将来の不安を感じる人の割合

若年者51.8% 一般高齢者54.0% 要介護者48.9%

・一般高齢者が外出しない理由は、

公共の交通機関が利用しにくい 14.8%



「外出」、「食」等の自立生活支援

好きな時に気軽に外出でき、また、楽しく充実した食生活を送ることができるよう自立生活に向けた暮らしをサポートする。

- 高齢社会対応のまちづくり施策の総合的推進(公共交通、商業振興、市街地開発等を高齢者の生活に配慮した視点で推進)
- 川辺の恵まれた環境の活用や街なか開発など高齢者が歩きたくなるまちづくり
- 公共交通等の充実等による高齢者の「足」の総合的確保
- 県内レストラン、小売店における適量で健康に配慮した高齢者向けメニュー、サービスの開発

※現状のデータは、平成21年度実施の「高齢者の生活・介護等に関する実態調査」による。

現状と課題

○高齢者が生きがいを持って明るく元気に過ごすためには、主体的、積極的な社会参加を促していくことが必要である。

- ・高齢期に、どんな場面で自分の経験や技術を活かしたいか
地域の高齢者の支え合い(ひとり暮らしの方の見守り活動など)に活かしたい
若年者35.1% 一般高齢者40.1%
- ・地域の子どもの見守りや世話に活かしたい
若年者36.5% 一般高齢者24.8%



高齢者の地域活動・交流機会の創出

高齢者が自らの経験や技術を活かし、様々な分野において社会貢献活動等に積極的に参加できる社会を目指す。

- 高齢者等による社会貢献型企業・NP
O等の設立支援(奈良県版ソーシャル
ファーム)
- 高齢者の起農・帰農のサポート(耕作
放棄地の活用)
- 退職後の地域活動を勧める「地域デ
ビュー」講座(地域活動に積極的に
参加するための中高年期からの準備)
- 高齢者の社会参加の牽引力となるキー
パーソンの発掘

方向性

施策



○高齢者ひとり暮らし世帯や高齢者夫婦世帯の増加により、地域社会との関わりが希薄になり、社会参加ができず、高齢者が孤立する傾向がある。

- ・一般高齢者が外出する機会について、
まったく外出しない、めったに外出しない 9.4%
- ・外出しない理由については、
行きたいところがない 25.6%
- ・外出する気力がない・気が起きない 23.9%
- ・一般高齢者の日常の楽しみは、
テレビを見ること 31.3%

施策の展開と主な取り組み

高齢者の居場所づくり

外出のきっかけ、コミュニケーションの場となる居場所づくりを進め、高齢者が人との関わりを維持しながら、健やかな「こころ」を保って暮らすことのできる社会の確立を目指す。

- 奈良県版「長寿公園」の全県展開(中
高年向け健康器具の整備や、緑陰・ベン
チ等憩い機能の充実に伴い、児童公園を
高齢者の集いの場に活用)
- 幼老障害サポーター制度の創設(子育て、
高齢者、障害者にやさしいレストラン等の
登録)
- 「幼老障統合デザインサービス」の整備
(地域で子ども、お年寄り、障害者を受入)



健やかなからだづくり

要介護状態に陥ることなく、からだの健康を保って、「豊かで健やかな老い」を過ごすことができるよう自主的な健康管理を普及するとともに、バックアップしていく環境の整備を目指す。

- かかりつけ医が日常的な診療でチェ
ックし、専門医につなげる認知症早期発
見システムの構築
- コミュニティの強化にも繋がる「地域の輪
が広がるラジオ体操」への参加の促進
- 日常生活の中で気軽に取り組める介護
予防運動の開発
- いつまでも食を楽しみむことができるよう80
20運動を強力に推進



パネリスト報告 4

● 『配食サービスと医療・介護の連携を考える』

奈良市介護福祉課 課長 清水 威夫

配食サービスと医療・介護の 連携を考える

奈良市介護福祉課

奈良市の概況

1 人口

平成22年4月1日現在

人口	65歳以上人口	高齢化率
368,097	85,127	23.1

2 要介護認定者状況

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
1,723	2,185	1,877	2,480	2,238	1,897	1,758	14,158

配食サービス利用者と 要介護認定者状況

(人)

要介護度	単身	高齢者世帯	その他	合 計
自立	113	81	7	203
要支援1	124	65	6	195
要支援2	150	63	8	221
要介護1	124	46	11	181
要介護2	100	41	7	148
要介護3	47	25	8	80
要介護4	16	18	0	34
要介護5	5	12	2	19

平成22年7月31日現在

※平成22年4月1日～23年1月5日現在の利用者数は、1212人で、延べ113,036食。

地域支援事業①

平成18年に介護保険法が改正

要介護状態等となることの予防と、要介護状態となった場合においても可能な限り、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的に、地域支援事業を法的に位置づけられた

(第115条の38)

地域支援事業②

地域包括支援センターの設置

「地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援すること」を目的に設置

(介護保険法第115条の39)

地域包括支援センターとは？

地域包括支援センターではこんな仕事をしています

例えばこんな時に・・・

- ☐ 介護保険の申請やサービスについて知りたい
- ☐ 介護保険外のサービスについて教えてほしい
- ☐ 近所に高齢で生活に困っている人や気になる人がいる
- ☐ 1人暮らしのため生活に不安がある
- ☐ 介護が必要な状態にならないよう予防したい
- ☐ お金の管理に不安があるが頼れる家族がいなく困っている
- ☐ 高齢者虐待について相談したい



地域包括支援センターでは、保健師・主任介護支援専門員・社会福祉士などの職員が専門性を生かして、高齢の方々が住み慣れた地域で安心して生活できるように支援しています。



自立して生活できるよう支援します

- 地域支援事業及び介護保険外のサービスについての申請手続きを行っています。
- 介護保険の認定が「要支援1・2」の方に機能維持・向上を目的とした介護予防ケアプランを作ります。



総合的なご相談に対応します

- 介護・福祉・医療サービスなどの情報提供をします。
- 必要に応じて各機関との連絡調整を行います。



さまざまな方面からみなさんを支えます

- 市や社会福祉協議会、民生委員、自治会と連携・協働し、その人らしい自立した生活が送れるようお手伝いします。
- より暮らしやすい地域にするため、医療機関などさまざまな関係機関とのネットワークづくりをしています。



みなさんの権利を守ります

- 高齢者の虐待防止や消費者被害など権利擁護についてのご相談に応じます。
- 成年後見人制度のご利用についてご案内します。

地域支援事業③

1 介護予防事業

生活機能評価（介護予防健診）の結果、低栄養状態のおそれのある対象者に対し、通所型介護予防事業「元気はつらつ教室」を実施し、栄養状態を改善するためのプログラムを実施。

※ 閉じこもり、うつ、認知症等により、通所型介護予防事業に参加が困難な対象者には、訪問型介護予防事業として低栄養改善のため配食支援も可能。

平成21年度生活機能評価の結果

(人)

基本チェック リスト送付者数	返送者数	二次予防事業 候補者数	生活機能評価 受診者数	二次予防事業 決定者数
71,121	53,478	15,576	2,940	1,697

二次予防事業対象者内訳

(人)

運動機能	栄養改善	口腔機能	栄養改善 運動機能	運動機能 口腔機能	口腔機能 栄養改善	運動機能 栄養改善 口腔機能
458	63	502	88	370	114	102

	質問項目	回 答	
暮らしぶりその1	バスや電車で1人で外出していますか	0 はい	1 いいえ
	日用品の買い物をしていますか	0 はい	1 いいえ
	預貯金の出し入れをしていますか	0 はい	1 いいえ
	友人の家を訪ねていますか	0 はい	1 いいえ
	家族や友人の相談にのっていますか	0 はい	1 いいえ
運動器関係	階段や手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0 はい	1 いいえ
	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0 はい	1 いいえ
	15分間くらい続けて歩いていますか	0 はい	1 いいえ
	この1年間に転んだことがありますか	1 はい	0 いいえ
	転倒に対する不安は大きいですか	1 はい	0 いいえ
栄養	6か月間で2～3KG以上の体重減少はありましたか	1 はい	0 いいえ
	身長()体重() (※ BMI 18.5未満なら該当)	1 はい	0 いいえ
口腔	半年前に比べて堅いものが食べにくくなりましたか	1 はい	0 いいえ
	お茶や汁物等でむせることがありますか	1 はい	0 いいえ
	口の渇きが気になりますか	1 はい	0 いいえ

	質問項目	回 答	
暮らしぶりその2	週に1回以上は外出していますか	0 はい	1 いいえ
	昨年と比べて堅いものが食べにくくなりましたか	1 はい	0 いいえ
	周りの人から「いつも同じことを聞く」などのもの忘れがあると言われているですか	1 はい	0 いいえ
	自分で電話番号調べて、電話をかけることをしていますか	0 はい	1 いいえ
	今日が何月何日かわからない時がありますか	1 はい	0 いいえ
こころ	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	1 はい	0 いいえ
	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1 はい	0 いいえ
	(ここ2週間)以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1 はい	0 いいえ
	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	1 はい	0 いいえ
	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	1 はい	0 いいえ

通所型介護予防事業(総合型)

	内 容
1	さあ、はじめましょう！！ ～今日から始まる元気への一歩～ オリエンテーション・問診・体力測定・運動に関する講義・運動実技 等
2	目標に向かって、レッツ・ゴー！ ～自分の生効果的な運動って？？ ～運動に関する知識を深めよう～ 運動に関する講義・運動実技・グループワーク 等活を見直そう～ 運動実技・運動に関する講義・グループワーク 等
3	お口の中は大丈夫！？ ～お口の健康について考えよう～ 口腔機能に関する講義と実技・運動実技・運動に関する講義・グループワーク 等
4	食はからはじまる健康づくり ～食事と運動の関係を学ぼう～ 高齢者の栄養に関する講義・運動実技・運動に関する講義・グループワーク 等

	内 容
5	効果的な運動って？？ ～運動に関する知識を深めよう～ 運動に関する講義・運動実技・グループワーク 等
6	すっきり！さっぱり！お口のケアを学ぼう！ ～お口と介護予防の関係～ 口腔機能に関する講義と実技・運動実技・運動に関する講義・グループワーク 等
7	みんなで楽しく身体を動かそう① ～お家で楽しく運動を続けるコツ～ 運動実技・運動に関する講義・グループワーク 等
8	おいしく食べよう！ ～身体づくりは栄養も不可欠～ 高齢者の栄養に関する講義・運動実技・グループワーク 等
9	みんなで楽しく身体を動かそう② ～どんどん身体を動かしていこう～ 運動実技・運動に関する講義・グループワーク 等

	内 容
10	みんなで楽しく身体を動かそう③ ～そろそろ運動の効果がでてきましたか？～ 運動実技・運動に関する講義・グループワーク 等
11	運動の効果は？ ～体力測定をやってみよう～ 体力測定・問診・運動実技・グループワーク 等
12	これからも継続しよう！ ～継続のコツ教えます～ 問診・結果説明・運動の継続に向けての講義・ 運動実技・グループワーク 等

地域支援事業③

2 地域自立生活支援事業

65歳以上の単身又は高齢者のみの世帯などで、心身の障がいや傷病等のために調理が困難な人で、ケアプラン又は介護予防プランにおいて、サービスの利用が必要な人

地域自立生活支援事業における
配食サービス事業の実施内容①

地域の社会資源を活用し、
見守り等のネットワーク形
成のために、市内の社会福祉
法人16ヶ所に委託して、月曜
～金曜の間に昼食の配達。

地域自立生活支援事業における
配食サービス事業の実施内容②

安否確認・関係機関との連携行い、高齢者・
障がい者の特性に配慮した配食（一般食）
を提供。

70歳以上、生活活動強度Ⅰの男女
平均の所要量を3食で割った数値を目
標として献立をたててもらっ
ています。

《参考》

	熱量 (Kcal)	蛋白 (g)	脂質 (g)	炭水化物 (g)	塩分 (g)	カルシウム (mg)	鉄 (mg)
献立平均 (H22,11)	573. 2	23. 6	14. 3	85. 5	2. 9	138. 2	3. 2

高齢者や障がい者の特性に 配慮した配食とは？

- ① 副食の品数をできれば5品程度とし、季節の食材も取り入れ、できるだけ多くの食材を使う。
- ② 季節感のある変化に富んだ内容にする。調理方法が偏らないようにする。曜日ごとに献立が似たものになっていないか気をつける。
- ③ 咀嚼、嚥下しやすいものである
- ④ 目で見て“おいしそう”と感じるよう色彩、香り、盛り付け等の工夫が重要である。
- ⑤ 食中毒には十分注意が必要で、衛生管理には特に気をつける。また、利用者に対して食中毒予防の啓発も忘れてはならない。

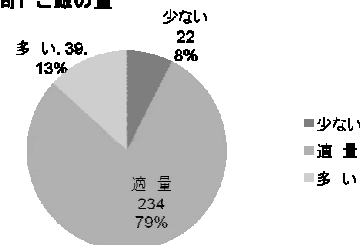
H20年度 配食サービス利用者アンケート 結果

アンケート実施期間	H20.7.14～H20.7.18（5日間）		
H20.5 配食利用者数	1,148 名		
アンケート対象者数	455 名	39.6%	
回答者数	300 名	26.1%	（回答率 65.9 %）

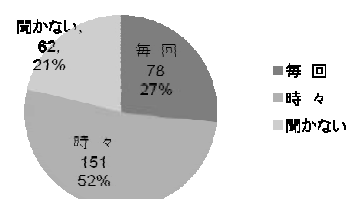
回答状況（無回答・重複あり）

問	項目	少ない	適量	多い	合計
問1	ご飯の量	22 7%	234 78%	39 13%	295 98%
問2	ご飯のかたさ	12 4%	246 82%	40 13%	298 99%
問3	おかずの種類	9 3%	263 88%	24 8%	296 99%
問4	おかずの量	20 7%	256 85%	16 5%	292 97%
問5	味付け	47 16%	236 79%	15 5%	298 99%
問6	自己負担(450円)	43 14%	223 74%	29 10%	295 98%
問7	配達する人の対応	224 75%	72 24%	2 1%	298 99%
問8	配達時、体調等を聞いてくれるか	78 26%	151 50%	62 21%	291 97%

問1 ご飯の量



問8 配達時、体調等を聞いてくれるか



地域自立生活支援事業における

配食サービス事業の実施内容④

地域包括ケアの観点から、利用者の状況について把握するために、配食センターと地域包括支援センター等との連携

配食サービス利用者の状況調査

実施期間

平成21年4月～10月に配食サービスを利用した者(死亡・入所等を除く)で、平成22年5月末までに現行のケアプラン・介護予防プランのサービス提供期間が終了する者

調査方法

要介護1～5の利用者

ケアマネジャーによるケアプランの確認

要支援1・2

地域包括支援センターによる介護予防プランを確認

介護認定のない利用者

地域包括支援センターによる状況把握調査票作成

状況調査票

社会背景	氏名	生年月日	性別		調査方法	調査内容			
		連絡先	性	別					
住所	住所					☐ 自身世帯 ☐ 高齢者世帯 ☐ その他	☐ 訪問 ☐ 電話 ☐ その他 ()		
	緊急連絡先	()				☐ なし ☐ 親類 ☐ その他 ()	☐ なし ☐ 親類 ☐ その他 ()		
食事の状況	朝食ワートス利用状況	利用開始年月:		曜日	月	日	水	金	☐ 未申請 ☐ 自立・申請済 ☐ 申請中 () ☐ 未実施 (1・2) ☐ 再評価 (12345)
	調理の状況	☐ 自立 ☐ 一部分介助 () ☐ 全部介助							☐ 自立・申請済 ☐ 申請中 () ☐ 未実施 (1・2) ☐ 再評価 (12345)
	食器の配置	☐ 十分 ☐ 不十分 () ☐ 熱湯 ☐ 調理器 ☐ その他 ()							☐ 自立・申請済 ☐ 申請中 () ☐ 未実施 (1・2) ☐ 再評価 (12345)
	衛生状態	☐ 十分 ☐ 不十分 ()							☐ 自立・申請済 ☐ 申請中 () ☐ 未実施 (1・2) ☐ 再評価 (12345)
	食料の調達	☐ 自分で購入 ☐ 家族・ヘルパーによる購入 ☐ 宅配 ☐ その他 ()							☐ 自立・申請済 ☐ 申請中 () ☐ 未実施 (1・2) ☐ 再評価 (12345)
	食事の状況	☐ 自立 ☐ 一部分介助 ()							☐ 自立・申請済 ☐ 申請中 () ☐ 未実施 (1・2) ☐ 再評価 (12345)
	食事の時間	☐ 食事 ☐ 加糖 ☐ 野菜 ☐ その他 ()							☐ 自立・申請済 ☐ 申請中 () ☐ 未実施 (1・2) ☐ 再評価 (12345)
	食事の時間	☐ 規則正しい ☐ 不規則							☐ 自立・申請済 ☐ 申請中 () ☐ 未実施 (1・2) ☐ 再評価 (12345)
	食事の時間	☐ 1日3回 ☐ 2回 ☐ 1回 ☐ その他 ()							☐ 自立・申請済 ☐ 申請中 () ☐ 未実施 (1・2) ☐ 再評価 (12345)
	食事の時間	☐ 1日3回 ☐ 2回 ☐ 1回 ☐ その他 ()							☐ 自立・申請済 ☐ 申請中 () ☐ 未実施 (1・2) ☐ 再評価 (12345)
身体状況	身長 (cm)	体重 (kg)		BMI		歩行速度 (m/s)		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難	
	1年以内の転倒	☐ なし ☐ あり ()		☐ なし ☐ あり ()		☐ なし ☐ あり ()		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難	
口腔状況	口腔状況	☐ 十分な歯がある ☐ 歯が欠けたり ☐ 歯が抜けた ☐ 歯が痛い ☐ その他 ()		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難	
	口腔状況	☐ 十分な歯がある ☐ 歯が欠けたり ☐ 歯が抜けた ☐ 歯が痛い ☐ その他 ()		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難	
生活状況	生活状況	☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難	
	生活状況	☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難	
社会参加	社会参加	☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難	
	社会参加	☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難	
介護サービス	介護サービス	☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難	
	介護サービス	☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難	
その他	その他	☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難	
	その他	☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難		☐ 自立 ☐ 歩行補助 ☐ 歩行困難	

地域支援事業における配食サービス

地域支援事業における配食サービス事業

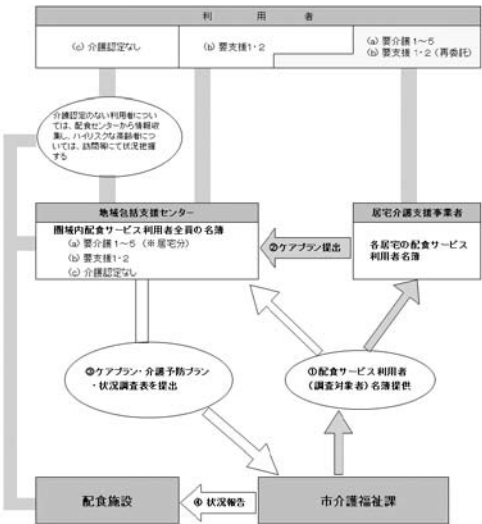
状況把握調査実施フロー図 状況把握・事後評価の流れ

配食サービス利用決定後はケアマネジャー又は地域包括支援センターが定期的にアセスメントを行い、サービス利用効果の測定を行い、必要に応じサービスプランを見直す。



利用開始後、年1回程度の頻度で利用状況の把握を行う。→ 必要に応じて評価を行い、ケアプランを見直す。

- (a) 要介護1～5の利用者 → ケアマネジャーによるアセスメント
- (b) 要支援1・2の利用者 → 地域包括支援センター(一部再委託先)によるアセスメント
- (c) 介護認定のない利用者 → 地域包括支援センターによる状況把握調査票作成



○ アンケート集計結果

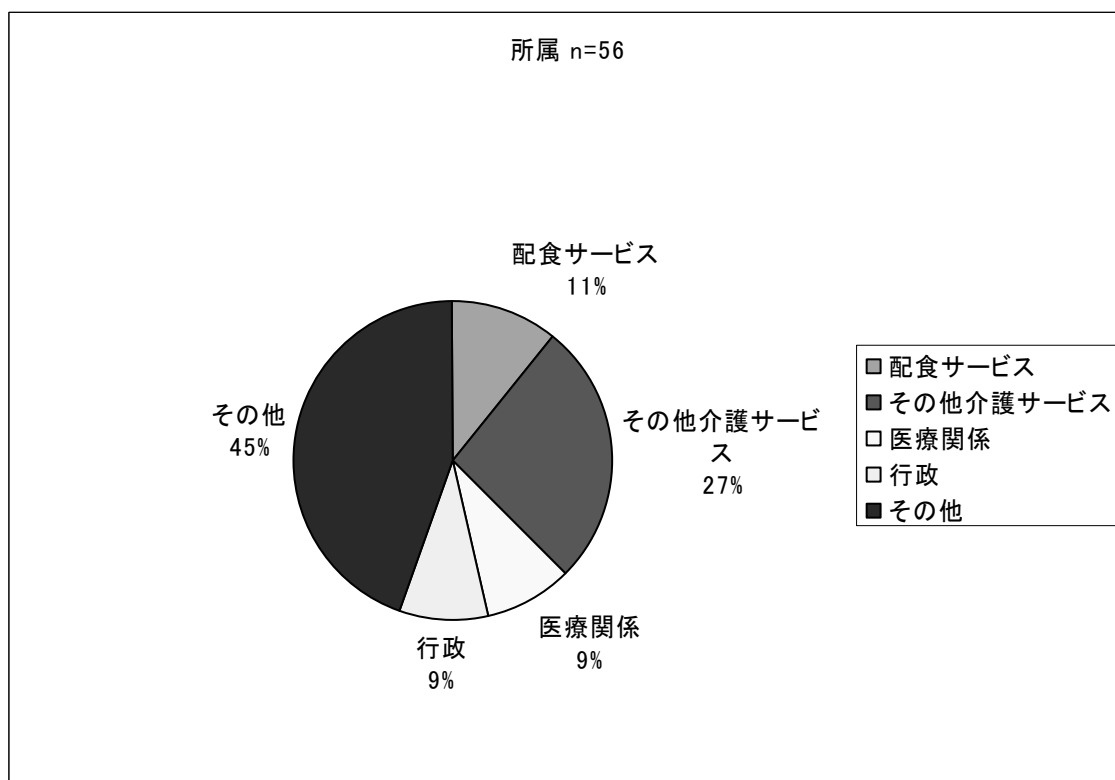
1. 参加者について

参加者の所属は、「その他の介護サービス事業者」が15名で最も多かった。その内訳は、特別養護老人ホーム等の職員であり、所属法人が配食サービス事業を行っていると考えられた。何らかの形で配食サービスに関わっている人が多く参加したのではないかと考えられる。

参加した方の専門職種は「栄養士・管理栄養士」が最も多かった。次に多かった「その他」には、介護主任等の管理職が多かった。調理師、介護職、歯科医師がそれぞれ2名参加していた。

(1) 所属

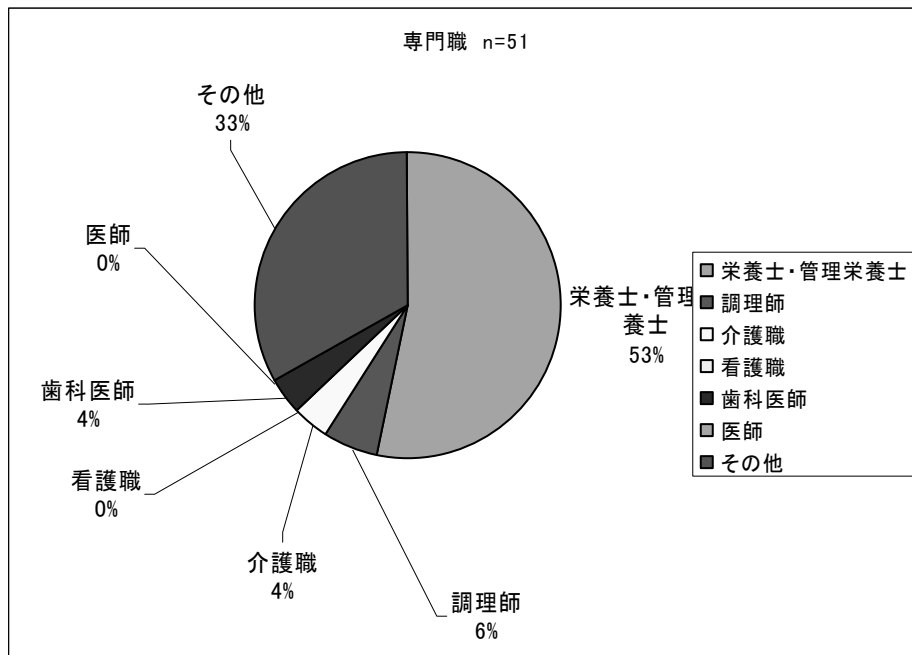
配食サービス	その他 介護サービス	医療関係	行政	その他	合計	無回答
6	15	5	5	25	56	0



(2)

専門職種

栄養士・ 管理栄養士	調理師	介護職	看護職	歯科医師	医師	その他	合計	無回答
27	3	2	0	2	0	17	51	5

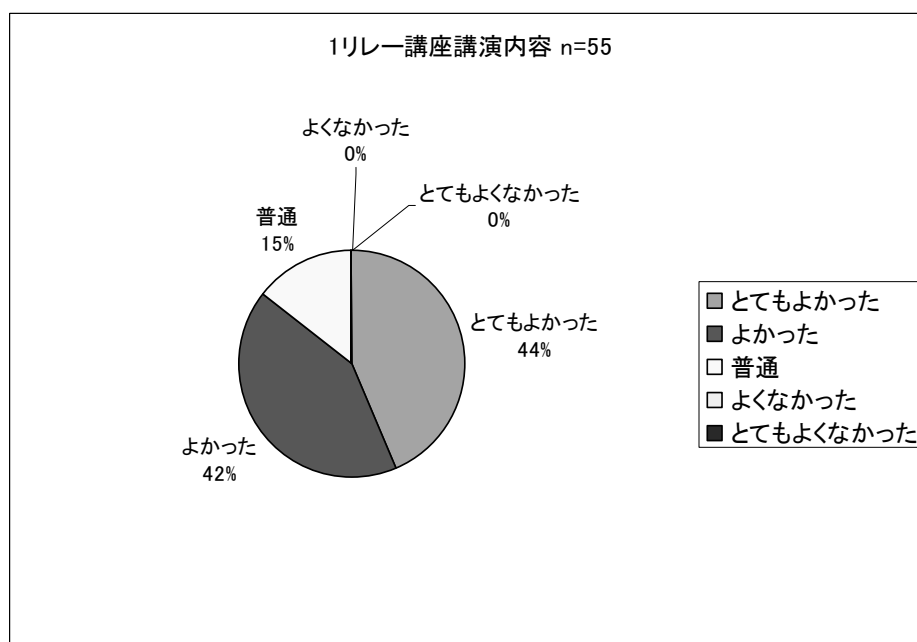


2. シンポジウムの内容について

「食と健康に関するリレー講座」、「配食と医療・介護の連携に関するパネルディスカッション」とともに、「とてもよかった」「よかった」を合わせると8割を越えており、満足度は高かったようだ。自由記述でも、本テーマに対する関心の高さが示されており、今後さらに掘り下げた議論を要望する意見もあった。

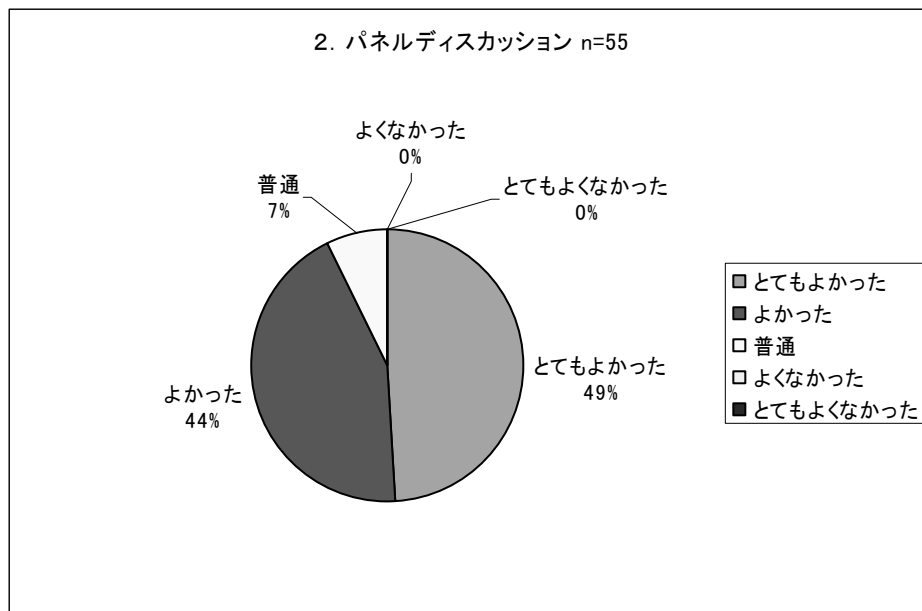
(1) 「食と健康に関するリレー講座」について

とてもよかった	よかった	普通	合計	無回答
24	23	8	55	1



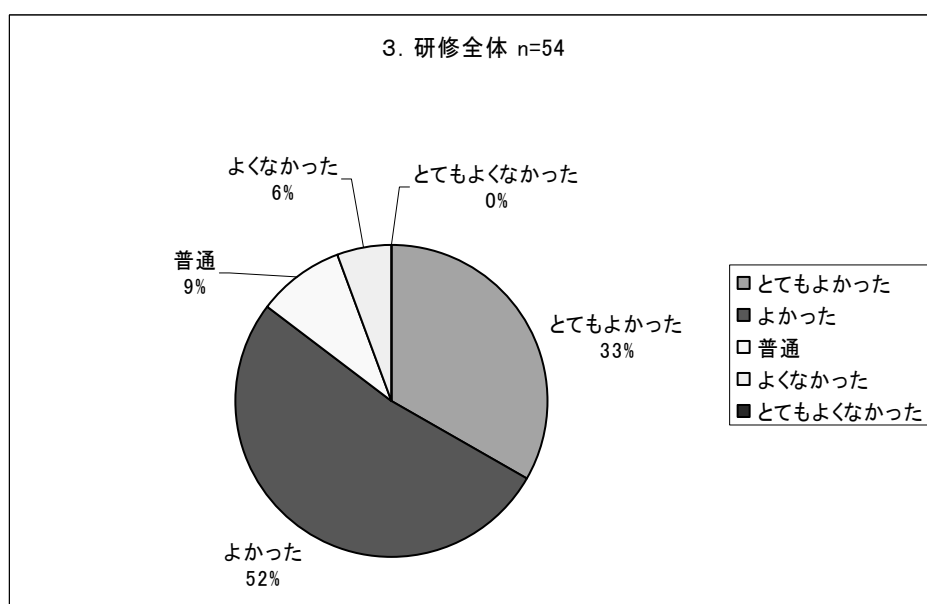
(2) 「配食と医療・介護の連携に関するパネルディスカッション」について

とてもよかった	よかった	普通	合計	無回答
27	24	4	55	1



(3) 研修会全体について

とてもよかった	よかった	普通	よくなかった	合計	無回答
18	28	5	3	54	2



(自由記述)

・私達の施設にも歯科医・衛生士の往診があり、食形態の UP や美味しく食べてもらう事に役立っています。実際歯科医の先生の視点や黒田先生の話聞ける事はとても良い機会になりました。
口腔内の環境が大切で、食べれないときはまず口の中を。それから食形態を考えることが大切であることに感心しました。
・それぞれの立場での経験と取り組みが聞けて勉強になりました。
・ソフト食というものをメディアで観たことがありましたが、少しだけ分かりました。これから家に帰ってパソコンでみてみます。
・私達の職種の関わる場面はないかと考えさせられました。食形態の決定や食後の口腔ケアなど、食べることの支援は、衛生士にも参加可能ではないかと考えます。
・ソフト食は見ためも良かったのですが、手間がかかるのではないですか？高齢になってもやはり人のために働くことも大切ですね。
・これまで何度か聞いたことのある演者だったが、話の内容を期待していました。しかし同じ内容で、これまでの活動で新しい発見などを発表してもらえるのかと期待していたので残念だった。
・歯科医師会の正田先生のお話で口腔ケアは実際デイサービスで口腔機能レクレーションをしていたので参考になりましたし、とても重要な事だと思います。食事を美味しくいただくことは人間にとって生きる喜びだと真剣に思います。
・昨年も正田先生と黒田先生のお話を聞かせて頂き、今回もこのような場に参加でき良かったです。県や国で食形態の統一の業務が早急に必要かと思います。(病院・施設で名前や形態がこととなります)
・わかりやすいお話でとても勉強になりました。
・配食の現状がよく分かり、とても参考になりました。黒田先生にソフト食についてもう少しお話していただければ嬉しかったです。
・黒田先生のソフト食についてとても興味があり、次回ぜひ講演に出席させていただきたいと思った。
・いつまでもおいしく楽しく食事をしてもらうためには、栄養士をはじめとした関連職種の惜しみない努力が必要だと思いました。
・ソフト食に取り組んでいるが、とても勉強になった。見た目もおいしく安全な食事を作っていきたいと思った。パタカ体操をしています。食事を作る側も入居者の方に声をかけて食事の前にもっとしていきたいと思います(介護の方だけではなく)
・正田先生のお話がわかりやすい。歯科医のお藩氏を聞く機会がないので、もっとくわしい講演が聞きたいと思った。
・ご講演者のテーマのバランスが良かったです。
・医療それに関わる業種との連携の大切さはもちろんですが、これを地域の方々の理解を広めて、よりよい方向に勧められたらと思いました。
・実践→解りやすくてよかった。
・食事を一番楽しみにしている人が多い。おいしく食べる、健康にいたるために、口腔ケアが大切なことがよくわかった。ソフト食の大切さ、配食サービスの問題点も少し分かった。
・配食サービスにより、見回り、安否確認をして頂き、とてもありがたい事だと思いました。ならコープさんの取り組みを認知しておらず、驚きました。
・22 年 12 月にも黒田留美子先生のお話を聞かせてもらう事があり、「食べることは生きる喜び」元気に食べられることは、すごく幸福なんだなと思いました。

・もつと的を絞っての講義としてもよかったかもしれません。ソフト食について見当が必要と思われます。
・他の事業所の取組・内容がよく分かりよかった。
・それぞれの分野、全て参考になる話でした。黒田先生の取組は、初心に帰れて心にしました。
・内容は理解できました。時間通りの配分でよかった。
・行政の方も高齢者の食について熱心に仕組みづくりをされているのを知りました。たんぽぽさんの細やかなマニュアル・指導・サービスは勉強になりました。
・参考にさせてくれた部分がありました。
・行政の方が登壇され、すばらしいと思いました。期待します。
・意見や要望がきけてとても勉強になりました。ありがとうございました。
・見守り・安否確認等の付加的な役割も担って下さる配食サービスには感謝です。
・奈良市のアンケートが良かった。
・実質的な話で現状が良く分かりました。それぞれの立場での活動状況やご苦労があるのだと思いました。今後増加するサービスですので連携の重要性が必要ですね。
・生協の配食サービスやたんぽぽ配食サービスが充実しているので、親の介護の時に利用したいと思います。
・参考になるお話をお伺いでき、ありがとうございました。今後どのように進むべきか、行政と現場がもっと関わっていけるような環境づくりをしていかないといけないと思います。
・医療・配食の現場・行政などお互いを知ることで新しい側面が見えるのだなと思いました。毎日業務に追われていますが、様々な職種の方の意見がきけてたいへん勉強になりました。
・奈良県の今後の活動も聞け、勉強になりました。
・行政の発表で責任ある方向性が聞けて良かった。司会者がたいへん良かった(リーダーシップ・問題点の整理・方向性等)。パネラーの人选、良かった。
・実際に配食をしている事業所と行政双方の考え方、実情を生で聞くことはとても貴重なことでよかったと思います。
・豊かな食事ができるようにサービスの質の向上に力を入れていきたいと思います。
・県の取組がわかってよかった。
・登壇者のバランスが良かったです。
・配食サービスは介護サービス事業所の中では、なかなか目の行き届かない部分でした。残食量のキレイに洗われた弁当箱が戻ってくるので確認することができません。サービスを中止される時もなぜ中止されるのか。
・行政のしくみがわかった。
・奈良市(シンポジスト)は、もう少し低資金で広く配食サービスの取組の進展性、市民への広報等努力してほしいと感じた。配食サービスの現状があまり分からなかったが今回視野が広がった。配食サービスに関わっておられる方ががんばり、ご苦労がよく解った。

・配食サービスの現状、これからどのように考えていかなければならないかが少しわかった。
・行政はあてにならないと常に考えていましたが…。両親が僻地で生活していますが勉強になりました。
・司会の方の進行がすばらしいもあり、様々な現場の声を聞かせて頂き勉強になりました。
・配食はくばるだけでなく、広い目を持ちいろんなこころくばりされてる。医療でも治療だけでなく、笑顔で食べられるお手伝いができたらいいなと思いました。
・改めて配食の必要性、重要性を認識できました。各立場の現状、思いが理解できる機会となり良かった。
・医療・介護・行政の連携が、大切であり欠かせない。
・他の事業所の配食サービスのあり方を聞いて勉強になりました。
・行政のアンケートは取って終わるのではなく、高齢化社会の主人公である高齢者にこれからの支援を考える中心メンバーに入れて欲しい。職員だけで進めないでほしい。高齢者に直接意見を聞ける体制づくりをしてもらいたい。
・在宅で自分の地域で健やかにくらするしくみについて、今後の支援の連携が楽しみです、自分もできることをしたい。
・パネラーの人選もよく、食の事を行政に知ってもらったり、歯科や栄養士の事をお互い知ったりでき、よかったです。
・多職種間で情報共有できたことが意義深い。
・行きやすい場所で、車もとめやすくよかったです。
・遠藤先生のすすめ方がいいと思います。
・非常に寒くて、足もとが冷えました。もう少し暖かくしてほしかったです。
・スタッフの人の手早い動きがとても良く、参加していて気持ちよかったです。
・冬場で着るものでかさ高い状態で、座席を一人あけて座れるようにして欲しかった(座席に余裕があったのに)。少々寒い。
・運営がとてもスムーズでした。また、施設も立地が良く、いい会場でした。
・リレー講座がよかった。各 3 名の時間配分もこの位が丁度良い。
・会場が広すぎたかも。
・分かりやすく良かった。
・時間が足りない(1 人あたり)もっとじっくり聞きたかった。
・私達老健では在宅へできるだけ帰ってもらうために、連携をおこなっています。まだ通所リハビリもあります。配食サービスの実態を知り、情報を得られて良かったです。皆さん熱い思いがあったのが印象に残りました。黒田先生にソフト食導入の加算についてぜひ働きかけをお願いしますとお伝えください。提案したのですが、委託業者から、月 30 万 UP の話になり、却下されました。今は平日主菜のみ私が 1H くらい厨房に入って作っています。
・緊急時の対応

・もっと多くの方が来られたらよかったと思いました。遠藤先生、いつも当会（認知症の人と・・・）にお力ありがとうございます。ごあいさつできず失礼いたしました。これからもよろしくおねがいいたします。
・立場の違う人、いろいろな事業所の人が横のつながりをつくることで超高齢化なんとかしなきゃです。
・横のつながりがとても必要なのは、福祉だけではないと思います。人と人とのつながり、地域コミュニティの大切さ、いろいろ考えさせられます。
・在宅の要介護者へのいろいろなサービスの考案をおねがいします。
・専門家としてそして一般の人として食事をどうアレンジしていくのか調理事例など新しい取り組みを期待しています。
・講演会と同じ内容で、実践に向けての実習とか企画があれば、より、スムーズに現場に持ち帰ることができるかと思います。専門のスタッフの交流もあれば嬉しいです。
・要介護、要介護認定を受けている両親と 50 代息子夫婦の 4 人家族、近々長期（1 ヶ月）間、私（嫁）が留守をすることになり、その間の生活をどうしていくか、日々色々と考えます。ヒントになることが多く、今日は参加して良かったと思います。
・黒田先生の”ソフト食”の実演を是非行っていただきたいです。
・一人暮らしなので、県、市、他でいろいろ考えてくださってる事に安心いたしました。食事・医療・介護すべてお世話になろうと思います。少しでも元氣でがんばります。
・配食サービスを行っているが、さらに当施設での配食の有り方を再度検討していきたいと思いました。
・充実した人客で内容たいへんよかった。参加の呼びかけ団体がもっと工夫あればよかった。
・多職種間のヨコの連携づくりの必要性を改めてかんじました。
・配食サービスについて、ただ食事を配るだけでなく、コミュニケーションや安否確認など色々な意味があるということ、勉強になりました。
・黒田先生のソフト食の作り方を今後企画してください。今日は勉強になりました。また参加したいと思います。ありがとうございました。
・高齢がススム時代に、配食サービスの大切さがわかりました。全てのことがその専門で、横のつながりが必要だと感じ、今後、役にたてたいと思います。
・大変勉強になりました。今後の仕事に役立てていきたい。
・シルバー総研の会員です。知らせを見て参加しています。京都からです。京都でもこのようなシンポを開催できれば良いと思います。是非ともお願いしたいです。
・大変有意義なシンポジウムでした。知らないことが多く、大変参考になった。自分にも何かお役に立つことが出来るか？活動のなかまに入り行動に移されたいと思います。自分が出来ることをみつけるのに今日の様な研修（関係者機関）を多く催していただきたいと思います。
・リレー講座の企画（他の地域の含め）は、良い試みと思う。奈良市の口腔、運動分野の内訳で”食”が基本（生命・筋肉）だが、医療と密な連携、実践の大切さ、PR 不足も感じた。
・高齢化社会にむけて、これからの配食はどのようにすればいいのか。私もあと 10 年もすれば 70 才ですが、配食サービスにお世話になるのだらうと思う。人ごととは思えない。健康な時に、配食サービスのお手伝いと思っていましたが、家令さんの話を聞かして頂いて誰でも出来るボランティアではないと思いました。現実は大変努力されている事が分かりました。これからも地域に合った配食サービスを行ってください。

・まだまだかざられたところのみの配食サービスなので、各市町村全てが取り組んでほしい。配食サービスの中でわかる高齢者の現状から、医師とも連携して元気に生活できるようにしていくべき。
・口から食べられるように、口腔キノウを維持できるよう、訪問歯科衛生士として、口腔ケアに努めておりますが、とてもありがたい講演でした。ありがとうございました。
・口腔ケアで質問させて頂いて、お口の中だけのケアでなく、生活の中でも特に食事の大切さを痛感しています。家族様が、ご主人で調理がにがてであったり、娘さんが、色々ためしても食べてもらえない等、誤嚥の危険性のある患者様への配食サービスがあればいいのにと感じていました。今後ソフト食のような食材も入れて頂きたいと思います。
・昔は普通にされてた地域の横のつながりが、すべて仕事になってるのがすごく悲しくおもいます。シルバーの人達を大切に少しでも力になればと思います。
・生活で困っている人を支えたいという思いをもった人が沢山いることを感じました。その思いのネットワークの必要性を感じました。
・地域包括支援サービスの一環として配食のあり方をトータルで考えなければならない事、勉強になりました。今後深化して(進化)したものとして企画していただければ大変ありがたい。
・配食関係者の悩みがよくわかり近親間を持った。連携がほしいとおもう。参加者の名簿でもあればと思う。
・他の事業所の発表から、取り入れたいことが沢山あり、参考になりよかったです。
・ならコープさんとたんぽぽさんの配食サービスの頑張りはすばらしいと思います。ならコープさんは、たんぽぽさんが行われている研修内容を参考により伸びて行くのではないかと期待します。ありがとうございました。
・行政と地域の人と業者と連携して成功した事例など全国各地での取り組みについて話が聞ければよいと思う。終了の時間は定刻でおねがいできるとうれいす。
・頑張ろうと思いました。皆さんも頑張っているんですね。

平成22度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

**「配食サービスと医療・介護との
連携のあり方に関する調査研究事業」
報告書**

平成23年 3 月

発行：NPOシルバー総合研究所
〒105-0013 東京都港区浜松町1-12-5-3F
TEL：03-5425-2383 FAX: 03-5405-1184
Eメール：info@silver-soken.com
ホームページ：http://www.silver-soken.com